新潟市中央区における
ひとり暮らし高齢者の生活と意識に関する調査報告書

2011年３月

新潟市中央区社会福祉協議会
新潟県立大学

序文にかえて　声なき声に耳を傾けること

この調査報告書はひとり暮らし高齢者の生活の現実を見ようとしている。その際に、考えたいことはひとり暮らし高齢者といっても、いろいろな生活状況の方がいるということである。生活が安定し、親しい親族、近隣関係を維持し、積極的に社会活動に参加し、生活を支える制度の情報を持ち、自分を高齢者と意識しない元気な方々が地域には一定の割合いる。

しかし、この安定的な生活を送る高齢者とは異なる、生活が不安定で、親族関係・近隣関係が希薄で、社会参加活動にも参加せず、生活関連の諸制度とは無関係な、孤立している高齢者が存在することは、なかなか認識できない。そもそも孤立している高齢者は、自らの要求を自覚し、積極的に問題に立ち向かうことがなく、したがって自ら声を上げることはない。その結果、問題が地域に潜在化することとなる。

地域活動を展開しようとする場合、この潜在化している問題、自ら声を上げない人々の声にいかに耳を傾け、その人々の課題をいかに代弁できるかが非常に重要となる。しかし相当注意深く、地域にアンテナを張らないとその声は聞こえてこない。

今回、民生委員の方々のご協力をいただいて、ひとり暮らし高齢者の実態を調査によって明らかにしようとした。日常的活動ではなかなか見えて来ない現実を把握するには、調査は一定の意味を持つことは事実である。しかし、より大切なことは日々の地域活動の視点である。今回の調査で明らかになった課題を、地域ごとに受け止めつつ、新たな地域活動の展開を期待したい。声なき声に耳を傾けることにこだわりながら…。

平成23年３月

明治学院大学　社会学部

教授　河合　克義

目　次

序文にかえて

Ⅰ　調査の概要 …… 1

Ⅱ　新潟市中央区の地域概況 …… 2

Ⅲ　調査の結果

Ａ　１次調査の結果から …… 6

Ｂ　暮らしのなかの楽しみの内容 …… 34

Ｃ　自由記述について …… 37

Ｄ　２次調査の結果から

１．類型化の考え方について …… 54

２．２次調査回答者の事例（抜粋）…… 54

３．ひとり暮らし高齢者の困りごと・不安 …… 78

Ⅳ　調査結果から言えること …… 82

おわりに …… 86

【資料編】

資料１　付表 …… 89

資料２　２次調査の具体的な記述 …… 97

資料３　１次調査調査票 …… 109

資料４　２次調査調査票 …… 123

Ⅰ　調査の概要

１．調査の目的

本調査は、多様な生活状況にあるひとり暮らし高齢者の実態を明らかにすることで、より効果的な支援のあり方等を検討するための基礎資料を得ることを目的に実施した。

調査にあたっては、特に生活上の困りごと、近隣との関わり、緊急時の支援者の有無などに着目して、アンケート調査及び訪問面接調査を行った。

２．調査主体

調査主体は、新潟市中央区社会福祉協議会と新潟県立大学である。中央区社会福祉協議会は2010（平成22）年度の事業として、新潟県立大学は2010年度の教育研究活動推進事業「課題解決型研究プロジェクト推進事業」として調査研究を行った。

調査の企画と実施については、中央区社会福祉協議会と新潟県立大学子ども学科小澤研究室が共同で行った。アドバイザーとして、調査の企画段階から報告書のまとめまで社会的孤立調査で実績のある明治学院大学河合克義研究室が関わった。また、第１次調査の対象者抽出と調査票配布を新潟市中央区民生委員児童委員会長連絡会の協力により行った。

３．調査対象・調査方法等

項目	調査対象／実施期間	有効回答数	調査方法
第１次調　査	平成21年９月現在、民生委員が把握している満65歳以上のひとり暮らし高齢者4,038名のうち1,346名 ・平成22年６月17日～７月15日	1,159 （86.1％）	民生委員が把握しているひとり暮らし高齢者の概ね３分の１に対し調査票を手渡し、回収は郵送で行った。
第２次調　査	第１次調査の調査票で第２次調査に同意し氏名・連絡先を記入した213名のうち49名 ・平成22年11月６日～11月７日	49	第１次調査の結果を「緊急時の支援者の有無」「近所づきあいの程度」の指標で類型化し、同意したひとり暮らし高齢者を社協職員・新潟県立大学学生が訪問し聞き取り調査を行った。

報告書における表および図表の見方

⑴　グラフや数表では、各質問の回答者数を母数とした百分率（％）で回答比率を示している。
百分率（％）は、原則として小数第２位を四捨五入し、小数第１位までを表示しているため、比率の合計が100％を前後する場合がある。

⑵　複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100％を超える。

⑶　図表内のｎは、回答の合計数である。例えば、ｎ＝1159の場合、回答数は1,159となる。

⑷　カイ二乗検定：観測値と期待値のずれをはかるための統計量であるχ^2値（カイ二乗値）を用いて、クロス表におけるふたつの変数が関連しているか否か調べる検定方法のこと。χ^2値と自由度、ｐ値を求め、ここではｐ値が0.05以下であれば有意水準５％で統計学的に有意な差が認められると判断する。

Ⅰ　調査の概要

１．調査の目的

本調査は、多様な生活状況にあるひとり暮らし高齢者の実態を明らかにすることで、より効果的な支援のあり方等を検討するための基礎資料を得ることを目的に実施した。

調査にあたっては、特に生活上の困りごと、近隣との関わり、緊急時の支援者の有無などに着目して、アンケート調査及び訪問面接調査を行った。

２．調査主体

調査主体は、新潟市中央区社会福祉協議会と新潟県立大学である。中央区社会福祉協議会は2010（平成22）年度の事業として、新潟県立大学は2010年度の教育研究活動推進事業「課題解決型研究プロジェクト推進事業」として調査研究を行った。

調査の企画と実施については、中央区社会福祉協議会と新潟県立大学子ども学科小澤研究室が共同で行った。アドバイザーとして、調査の企画段階から報告書のまとめまで社会的孤立調査で実績のある明治学院大学河合克義研究室が関わった。また、第１次調査の対象者抽出と調査票配布を新潟市中央区民生委員児童委員会長連絡会の協力により行った。

３．調査対象・調査方法等

項目	調査対象／実施期間	有効回答数	調査方法
第１次調　査	平成21年９月現在、民生委員が把握している満65歳以上のひとり暮らし高齢者4,038名のうち1,346名 ・平成22年６月17日～７月15日	1,159 （86.1％）	民生委員が把握しているひとり暮らし高齢者の概ね３分の１に対し調査票を手渡し、回収は郵送で行った。
第２次調　査	第１次調査の調査票で第２次調査に同意し氏名・連絡先を記入した213名のうち49名 ・平成22年11月６日～11月７日	49	第１次調査の結果を「緊急時の支援者の有無」「近所づきあいの程度」の指標で類型化し、同意したひとり暮らし高齢者を社協職員・新潟県立大学学生が訪問し聞き取り調査を行った。

報告書における表および図表の見方

⑴　グラフや数表では、各質問の回答者数を母数とした百分率（％）で回答比率を示している。
百分率（％）は、原則として小数第２位を四捨五入し、小数第１位までを表示しているため、比率の合計が100％を前後する場合がある。

⑵　複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100％を超える。

⑶　図表内のｎは、回答の合計数である。例えば、ｎ＝1159の場合、回答数は1,159となる。

⑷　カイ二乗検定：観測値と期待値のずれをはかるための統計量であるχ^2値（カイ二乗値）を用いて、クロス表におけるふたつの変数が関連しているか否か調べる検定方法のこと。χ^2値と自由度、ｐ値を求め、ここではｐ値が0.05以下であれば有意水準５％で統計学的に有意な差が認められると判断する。

Ⅱ　新潟市中央区の地域概況

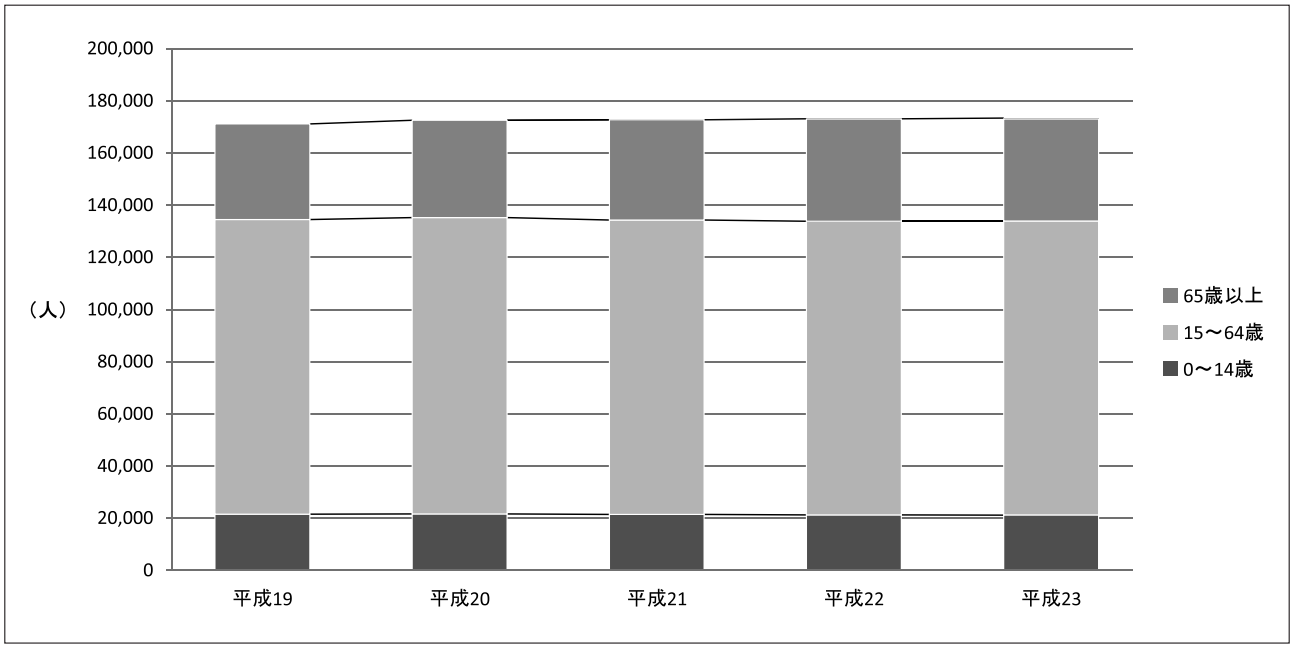
1．中央区の概況

中央区は、新潟市の日本海側のほぼ中央に位置し、北は日本海に開け、中央に信濃川が流れている（下図参照）。中央区の面積は（国土地理院）、37.42平方kmで、新潟市全体（726.10平方km）の5.15％の大きさである。

平成23年１月末現在の「住民基本台帳」によると、新潟市中央区の人口は173,373人、世帯数80,223世帯であった。中央区は市内８区の中で最も多い人口を有していて、新潟市の人口の21.6％を占めている。人口数はここ数年ほぼ横ばいで、平成19年からの増加数は2,196人であった。なお、新潟市全体では、同期間で1,463人の増加にとどまっている。年齢構成については、住民基本台帳（各年１月末時点／平成19年のみ３月末）によると、０～14歳12％、15歳～64歳65％、65歳以上23％で、大きな変化は見られていない（図2-1）。なお世帯数は同期間で3,235世帯増加している。

新潟市中央区の事業所数は（「平成18年事業所・企業統計調査」）、新潟市全体と比べると、第２次産業の比率が9.3％（新潟市17.3％）と低く、第３次産業は88.7％（79.5％）と高い（表2-1）。その中で卸売・小売業は29.7％で市とほぼ同じ比率（29.0％）を占めているが、建設業、製造業は低く、飲食店・宿泊業が高い。そのため、従事者も第２次産業では10.7％（21.7％）と低く、第３次産業が79.5％（70.3％）となっている。なお、「平成19年商業統計調査結果」によると、卸売・小売業の年間販売額の46.8％（１兆6703億円）を中央区が占めている。

図2-1　新潟市中央区の人口構成の推移



（資料）「住民基本台帳」（各年版）より作成。

表2-1　新潟市中央区の産業

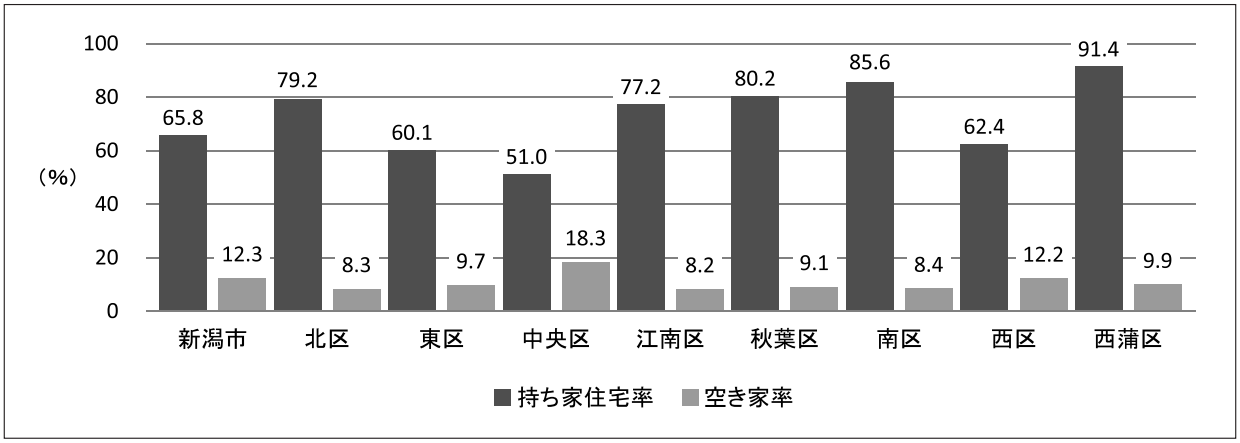
産業分類（実数、%）	事業所数				従業者数			
	中央区		新潟市		中央区		新潟市	
総数	14,421	100.0	38,887	100.0	154,437	100.0	381,485	100.0
第1次産業	7	0.0	96	0.2	86	0.1	1,311	0.3
農業	4	0.0	93	0.2	15	0.0	1,240	0.3
林業	1	0.0	1	0.0	5	0.0	5	0.0
漁業	2	0.0	2	0.0	66	0.0	66	0.0
第2次産業	1,336	9.3	6,730	17.3	16,465	10.7	82,849	21.7
鉱業	2	0.0	15	0.0	110	0.1	312	0.1
建設業	941	6.5	4,358	11.2	12,474	8.1	37,518	9.8
製造業	393	2.7	2,357	6.1	3,881	2.5	45,019	11.8
第3次産業	12,786	88.7	30,931	79.5	122,843	79.5	268,329	70.3
電気・ガス・熱供給・水道業	10	0.1	30	0.1	1,027	0.7	1,327	0.3
情報通信業	282	2.0	357	0.9	7,381	4.8	8,575	2.2
運輸業	181	1.3	815	2.1	6,172	4.0	21,332	5.6
卸売・小売業	4,279	29.7	11,293	29.0	33,281	21.5	87,353	22.9
金融・保険業	337	2.3	603	1.6	7,779	5.0	10,430	2.7
不動産業	832	5.8	1,533	3.9	2,993	1.9	4,534	1.2
飲食店，宿泊業	2,446	17.0	4,555	11.7	15,757	10.2	27,717	7.3
医療，福祉	702	4.9	2,120	5.5	9,509	6.2	31,958	8.4
教育，学習支援業	449	3.1	1,353	3.5	5,910	3.8	12,579	3.3
複合サービス事業	100	0.7	296	0.8	1,083	0.7	3,864	1.0
サービス業（他に分類されないもの）	3,168	22.0	7,976	20.5	31,951	20.7	58,660	15.4
公営	292	2.0	1,130	2.9	15,043	9.7	28,996	7.6

（資料）「平成18年事業所・企業統計調査」より作成。

「平成20年住宅・土地統計調査」によると、新潟市中央区の住宅総数は95,440戸、世帯総数は77,740世帯数で、住宅総数が上回っている。空き家率が18.3％で、中央区が一番高い（新潟市12.3％）。「居住世帯のある住宅」の建て方別にみると、中央区は「一戸建」が42.3％、「共同住宅」が55.8％で、「共同住宅」が「一戸建」を上回っている。「共同住宅」の比率は、新潟市31.6％、全国41.7％で、中央区における「共同住宅」の比率の高さが目立つ。

なお、中央区は新潟市の共同住宅総数の45.9％、「６階建以上」では82.5％を占めている。また、公営の借家は630戸で、「居住世帯のある住宅」76,900戸の0.8％と小さい（東区の公営借家の比率は5.4％）。持ち家率は51.0％で、新潟市65.8％、全国61.1％を大きく下回っている（図2-2）。

図2-2　持ち家率と空き家率



（資料）「平成20年住宅・土地統計調査」より作成。

２．高齢者の状況

ここでは、調査企画時点における「住民基本台帳」のデータ（平成21年９月末時点）をもとに、高齢者の状況をみていく。新潟市中央区の人口は173,004人、世帯数79,405世帯であった。65歳以上の人口は39,026人で、高齢化率は22.6％であった。新潟市全体の高齢化率は22.8％でほぼ変わりなかった（全国22.7％）。平成19年３月末時点のデータでは、中央区の高齢化率が21.4％、新潟市が21.5％で、２年間で高齢化率がそれぞれ１ポイント程度増加した。

次に、この住民基本台帳（平成21年９月末時点）に基づき、実質ひとり暮らし高齢者の出現率をみていく。出現率は、（ひとり暮らし高齢者世帯）÷（高齢者のいる世帯数）で算出した。それによると中央区ではひとり暮らし高齢者の出現率が35.8％であった（表2-2）。これは東区28.6％、西区27.2％を遥かに上回る大きさであり、中央区のひとり暮らし高齢者比率の大きさが示される。

また、平成19年３月末時点のひとり暮らし高齢者の出現率は、中央区では33.5％であり、それ自体大きいが、地域の高齢化率よりも、ひとり暮らし高齢者の出現率が速いペースで増加している。先にみたように中央区全体の人口構成としては、ここ数年で大きな変化はみられないが、ひとり暮らし高齢者については、大きな変化がみられる。

表2-2　ひとり暮らし高齢者の出現率

平成21年９月末時点

区　別	ひとり暮らし高齢者の出現率（％）	高齢化率（％）
新潟市	26.1	22.8
北　区	20.4	21.9
東　区	28.6	22.0
中央区	35.8	22.6
江南区	23.0	22.2
秋葉区	20.8	25.4
南　区	15.4	22.6
西　区	27.2	22.7
西蒲区	17.2	24.9

（資料）住民基本台帳より作成。

さらに、65歳以上人口の男女比をみると、男性15,771人（40.4％）、女性23,225人（59.5％）で、女性の比率が10％ほど高い。これをひとり暮らし高齢者でみていくと、同様の数値で比較はできないが、旧新潟市（平成17年国勢調査）では、男性4,342人（24.6％）、女性13,305人（75.4％）であった（表2-3）。

65歳以上のいる２人以上の世帯では、男性44.7％、女性55.3％であり、ひとり暮らしと２人以上の世帯で男女の構成比が大きく変化すること、つまりひとり暮らしの男性の比率が低くなることがわかる。このように２人以上世帯の男女比と、ひとり暮らし世帯の男女比の違いは、全国的なデータでも同様の結果がでている。

表2-3　世帯構成別性別の65歳以上のいる世帯の割合

性別	65歳以上の単身世帯			65歳以上のいる世帯		
	旧新潟市	新潟県	全　国	旧新潟市	新潟県	全　国
総数　世帯数	17,647	53,138	3,864,778	132,838	497,123	20,429,508
男　世帯数	4,342	12,814	1,051,207	59,382	217,709	9,442,543
%	24.6	24.1	27.2	44.7	43.8	46.2
女　世帯数	13,305	40,324	2,813,571	73,456	279,414	10,986,965
%	75.4	75.9	72.8	55.3	56.2	53.8

（資料）「平成17年国勢調査」より作成。

３．調査地域について

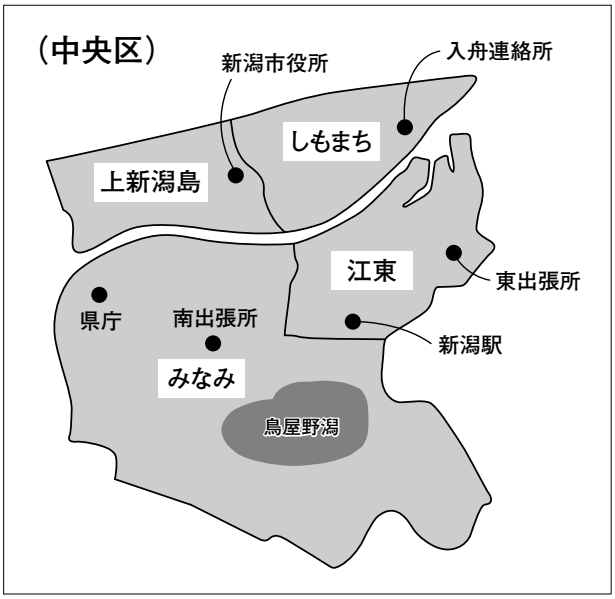
中央区社会福祉協議会では、地域包括支援センターの圏域等を参考にしながら歴史的につながりのある地域を４つのブロックに分け、平成22年度よりそれぞれのブロックに①しもまち、②上新潟島、③江東、④みなみの４つの地域社会福祉協議会連絡会を設置している。以下の数値は、平成21年９月末時点のものである。

①しもまちは、５つの小学校区（新潟、湊、栄、入舟、豊照）からなり、自治会数は172で、区内で自治会数が一番多い。この地域は、実質単身高齢者数も1,159人で多く、高齢化率は31.1％と高齢化が一番進んだ地域である。

②上新潟島は、５つの小学校区（有明台、浜浦、関屋、鏡渕、白山）からなり、自治会数は101、高齢化率は27.5％で、しもまちに続く高齢化率になっている。

③江東は、３つの小学校区（万代長嶺、南万代、沼垂）からなり、自治会数93、高齢化率24.3％である。

④みなみは、８つの小学校区（山潟、桜ヶ丘、鳥屋野、上山、女池、上所、笹口、紫竹山）からなり、「住民基本台帳」上、区内で人口が一番多く88,250人で、中央区の人口の約半数を占めている。自治会数139。高齢化率17.5％で区内では一番低い。



Ⅲ　調査の結果

A　１次調査の結果から

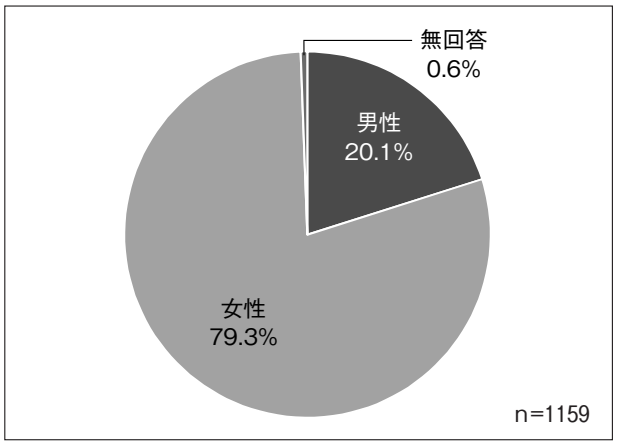
ここでは、１次調査から得られた結果を見ていきたい。

１．性別・年齢について

（１）性別

性別については、男性が20.1％、女性が79.3％で、女性が全体の８割を占めている。

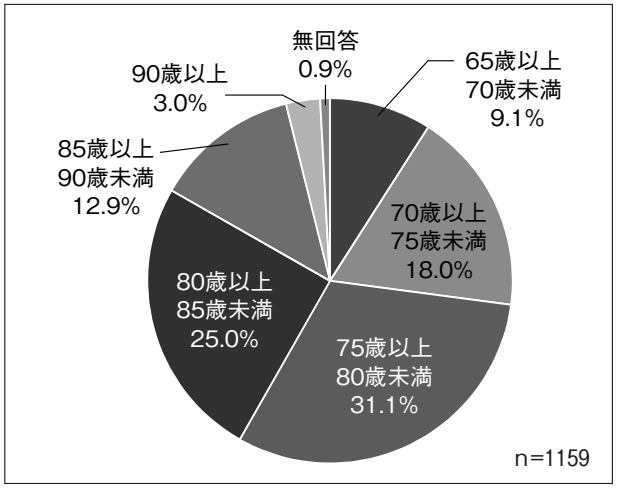
図3-1　性別



（２）年齢階層

年齢階層については、「75歳以上80歳未満」が最も多く31.1％、次いで「80歳以上85歳未満」が25.0％、「70歳以上75歳未満」が18.0％を占めた。

図3-2　年齢階層



65歳以上75歳未満は27.1％であったのに対し、75歳以上は72.0％であり、７割を占めた。

なお調査回答者の平均年齢は78.3歳であった。

２．住まい・居住年数について

（１）現住所の居住年数

現住所への居住年数は「５年未満」と「５年以上10年未満」を合わせて7.2％が10年未満であり、「10年以上20年未満」は9.6％、「20年以上30年未満」は12.3％と１割程度で、以降「30年以上40年未満」「40年以上50年未満」「50年以上60年未満」「60年以上」が、それぞれおよそ17～18％であった。

現住所に40年以上居住している人が全体の半数を占めている。なお、回答者の平均居住年数は39.9年であった。

表3-1　現住所居住年数

現住所居住年数	実数	%
５年未満	36	3.1%
５年以上10年未満	47	4.1%
10年以上20年未満	111	9.6%
20年以上30年未満	143	12.3%
30年以上40年未満	194	16.7%
40年以上50年未満	207	17.9%
50年以上60年未満	209	18.0%
60年以上	204	17.6%
無回答	8	0.7%
合計	1159	100%

（２）新潟市内の居住年数

旧新潟市内（現：中央区、東区、西区）への居住年数は「50年以上60年未満」が20.1％、「60年以上」が40.5％であり、全体の６割が50年以上市内に居住していることがわかる。なお、回答者の新潟市内における平均居住年数は53.9年であった。

表3-2　市内居住年数分類

市内居住年数	実数	%
５年未満	6	0.5%
５年以上10年未満	13	1.1%
10年以上20年未満	44	3.8%
20年以上30年未満	62	5.3%
30年以上40年未満	109	9.4%
40年以上50年未満	159	13.7%
50年以上60年未満	233	20.1%
60年以上	469	40.5%
無回答	64	5.5%
合計	1159	100%

（３）住宅の種類

住宅の種類としては、「持ち家（一戸建て）」がもっとも多く73.7％を占めた。「持ち家（分譲マンション）」を合わせると、持ち家率は８割を超える。

表3-3　住宅の種類

住宅の種類	実数	%
持ち家（一戸建て）	854	73.7%
持ち家（分譲マンション）	100	8.6%
民間借家（一戸建て）	65	5.6%
民間賃貸マンション	13	1.1%
民間賃貸アパート	78	6.7%
市営・県営住宅	28	2.4%
高齢者専用マンション	1	0.1%
間借り	8	0.7%
社宅・管理人住宅	2	0.2%
その他	10	0.9%
合計	1159	100%

（４）住宅についての困りごと

現在の住宅について、困りごとが「ある」と回答した人は49.2％とほぼ半数を占め、「ない」と回答した人は44.4％であった。

その具体的な内容について複数回答でたずねたところ（表3-4）、もっとも多かった回答は「家が古くなっている（老朽化）」で61.1％、次いで「固定資産税などの負担が大きい」が24.9％、「階段の昇り降りが大変」が22.6％であった。そのほか、「風通しや日当たりに問題がある」、「家が広すぎる」、「段差があり生活しにくい」がそれぞれ１割程度であった。

図3-3　住宅についての困りごとの有無

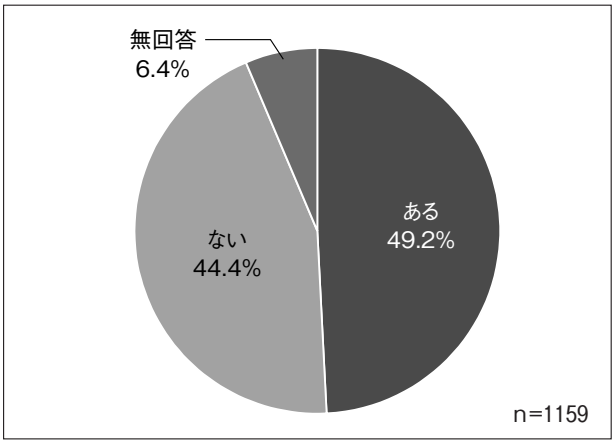


表3-4　住宅の困りごと内容（複数回答）

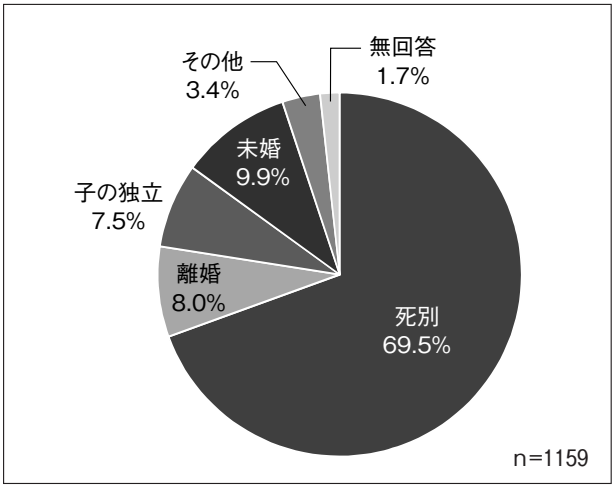
住宅の困りごとの内容（n=570）	実数	%
家が古くなっている（老朽化）	348	61.1%
風通しや日当たりに問題がある	67	11.8%
家が狭すぎる	24	4.2%
家が広すぎる	62	10.9%
段差があり生活しにくい	62	10.9%
風呂がない	44	7.7%
階段の昇り降りが大変	129	22.6%
家賃が高い	25	4.4%
固定資産税などの負担が大きい	142	24.9%
その他	42	7.4%
無回答	2	0.4%

３．ひとり暮らしについて

（１）ひとり暮らしになったきっかけ

ひとり暮らしになったきっかけについては「死別」がもっとも多く、69.5％を占めた。ほか、「未婚」

図3-4　ひとり暮らしのきっかけ



は9.9%、「離婚」は8.0%、「子の独立」は7.5%であった。

（2）ひとり暮らしの年数

ひとり暮らしの年数は、「５年以上10年未満がもっとも多く、21.7%であった。次いで、「５年未満」が18.0%であり、ひとり暮らしの年数が10年未満の人が４割を占めた。ひとり暮らしの平均年数は14.8年であった。

表3-5　ひとり暮らし年数

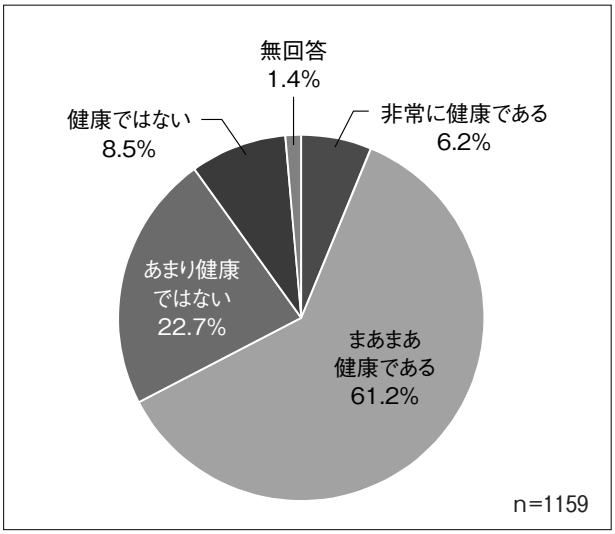
ひとり暮らし年数	実数	%
５年未満	209	18.0%
５年以上10年未満	251	21.7%
10年以上15年未満	207	17.9%
15年以上20年未満	134	11.6%
20年以上30年未満	180	15.5%
30年以上40年未満	85	7.3%
40年以上50年未満	46	4.0%
50年以上	19	1.6%
無回答	28	2.4%
合計	1159	100%

４．健康について

（1）主観的な健康状態について

主観的な健康状態については、「非常に健康である」「まあまあ健康である」を合わせて67.4%と７

図3-5　主観的な健康状態



割近くの人が「健康である」と回答している。

これを年齢階層とクロス集計したものが表3-6である。これによれば、年齢階層が高くなるにつれ、「あまり健康ではない」「健康ではない」と回答した人の割合が高くなることがわかるが、変化は一様ではなく、統計的な有意差は認められない。年齢階層を、「65歳以上75歳未満」と「75歳以上」のふたつに区分した場合には（表3-7）、75歳未満の世代よりも、75歳以上の世代の方が「あまり健康ではない」「健康ではない」と回答する人の割合が高くなることがわかる。

表3-6　主観的な健康状態×年齢階層

主観的な健康状態	年齢階層							
	65歳以上70歳未満		70歳以上75歳未満		75歳以上80歳未満		80歳以上85歳未満	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
非常に健康である	13	12.6%	19	9.5%	20	5.6%	11	3.8%
まあまあ健康である	65	63.1%	117	58.2%	222	62.2%	185	64.2%
あまり健康ではない	17	16.5%	42	20.9%	81	22.7%	73	25.3%
健康ではない	8	7.8%	23	11.4%	34	9.5%	19	6.6%
合計	103	100%	201	100%	357	100%	288	100%

主観的な健康状態	85歳以上90歳未満		90歳以上	
	実数	%	実数	%
非常に健康である	7	4.7%	2	5.7%
まあまあ健康である	93	62.4%	21	60.0%
あまり健康ではない	37	24.8%	9	25.7%
健康ではない	12	8.1%	3	8.6%
合計	149	100%	35	100%

※無回答は欠損値として処理
χ^2=21.003　自由度=15　p=0.137

表3-7　主観的な健康状態×年齢階層（２区分）

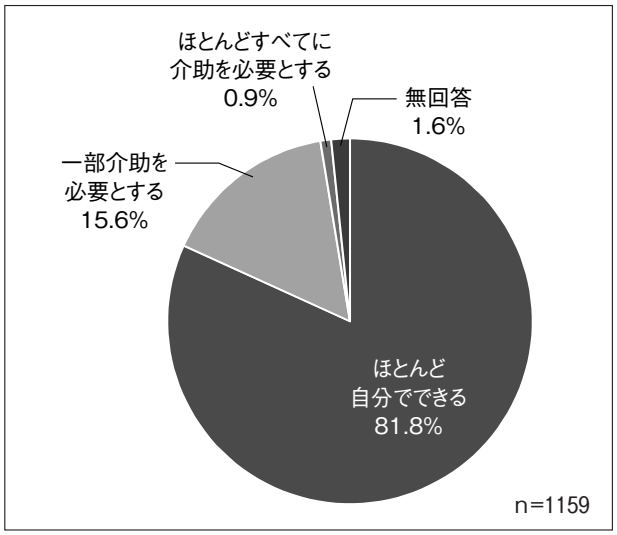
主観的な健康状態	年齢階層２区分			
	65歳以上75歳未満		75歳以上	
	実数	%	実数	%
非常に健康である	32	10.5%	40	4.8%
まあまあ健康である	182	59.9%	521	62.8%
あまり健康ではない	59	19.4%	200	24.1%
健康ではない	31	10.2%	68	8.2%
合計	304	100%	829	100%

※無回答は欠損値として処理
χ^2=14.874　自由度=3　p=0.002*　＊p<0.05

（２）介助の必要性について

日常生活を送るうえで、なんらかの介助を必要としているかどうかの設問については、「ほとんど自分でできる」がもっとも多く81.8%を占めた。

図3-6　介助の必要性

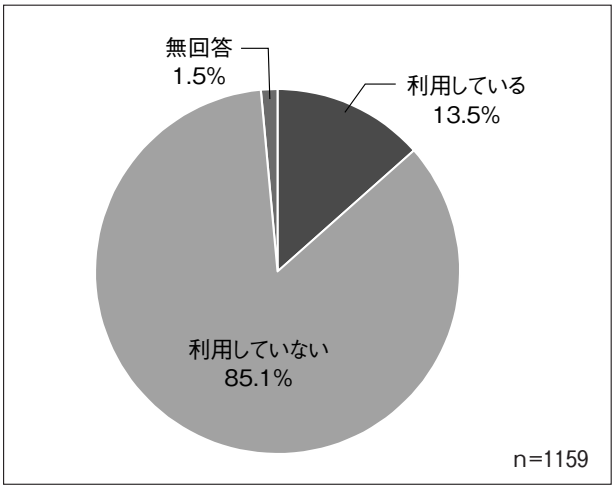


また、「一部介助を必要とする」（15.6%）と、「ほとんどすべてに介助を必要とする」（0.9%）を合わせて16.5%の人がなんらかの介助を必要としていると回答している。

（３）介護保険サービスの利用について

介護保険サービスを利用しているかどうかについては、「利用している」と回答した人が13.5%、「利用していない」と回答した人が85.1%であった。

図3-7　介護保険サービスの利用について



５．仕事について

（１）本人・配偶者の仕事について

本人と配偶者がもっとも長く就いた仕事についてたずねた。本人の場合、もっとも多かったのは「民間企業の正社員」で31.0%を占めた。そのほか、「自営業（家族従業員を含む）」が17.1%、「公務員などの正社員」が14.7%、「契約社員、派遣社員、パート・アルバイト、日雇、非常勤職員」は12.3%であった。

配偶者の場合、「民間企業の正社員」が26.0%、「公務員などの正社員」が15.3%、「自営業（家族従業員を含む）」が14.6%であった。

表3-8　本人・配偶者の最長職

本人・配偶者の最長職	本人		配偶者	
	実数	%	実数	%
民間企業の正社員	359	31.0%	301	26.0%
公務員などの正社員	170	14.7%	177	15.3%
契約社員、派遣社員、パート・アルバイト、日雇い、非常勤職員	143	12.3%	33	2.8%
自営業（家族従業員を含む）	198	17.1%	169	14.6%
その他	53	4.6%	35	3.0%
仕事をしていなかった（専業主婦・主夫を含む）	210	18.1%	37	3.2%
配偶者はいない	−	−	155	13.4%
無回答	26	2.2%	252	21.7%
合計	1159	100%	1159	100%

（2）本人の仕事と性別について

本人の最長職を男女別に見たものが表3-9である。

表3-9　本人の最長職×性別

本人の最長職	性別			
	男性		女性	
	実数	%	実数	%
民間企業の正社員	124	53.9%	231	25.8%
公務員などの正社員	51	22.2%	119	13.3%
契約社員、派遣社員、パート・アルバイト、日雇い、非常勤職員	6	2.6%	135	15.1%
自営業（家族従業員を含む）	40	17.4%	158	17.6%
その他	7	3.0%	46	5.1%
仕事をしていなかった（専業主婦・主夫を含む）	2	0.9%	207	23.1%
合計	230	100%	896	100%

本人が男性である場合、その最長職が正社員であった人の割合は、「民間企業の正社員」と「公務員などの正社員」を合わせておよそ８割を占める。本人が女性である場合、その最長職は分散し、正社員であった人は「民間企業の正社員」と「公務員などの正社員」を合わせて４割程度にとどまり、「自営業（家族従業員を含む）」が17.6％、「契約社員、派遣社員、パート・アルバイト、日雇い、非常勤職員」が15.1％であった。性別により、最長職の就業形態に違いがあることがわかる。

（3）本人と配偶者の最長職の業種について

本人と配偶者がもっとも長く就いた仕事の業種についてたずねた。本人の最長職の業種でもっとも多かったのは「卸売・小売・飲食店」で25.5％を占めた。次いで「製造業」が12.0％であった。

配偶者の最長職の業種でもっとも多かったのは「卸売・小売・飲食店」で17.2％を占めた。次いで「製造業」が14.5％、「交通・運輸・通信」が12.2％であった。

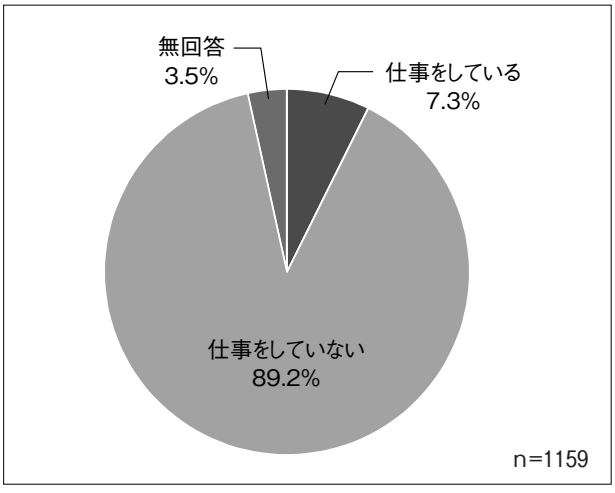
表3-10　本人・配偶者の最長職の業種

最長職の業種	本人		配偶者	
	実数	%	実数	%
農林漁業	13	1.4%	14	2.0%
建設業	42	4.6%	53	7.4%
製造業	111	12.0%	104	14.5%
電気・ガス・水道	21	2.3%	21	2.9%
卸売・小売・飲食店	235	25.5%	123	17.2%
金融保険・不動産業	54	5.9%	25	3.5%
交通・運輸・通信	61	6.6%	87	12.2%
医療・福祉（学童・保育を含む）	60	6.5%	23	3.2%
教育	52	5.6%	50	7.0%
その他民間サービス	70	7.6%	35	4.9%
その他公務	82	8.9%	59	8.3%
その他	90	9.8%	52	7.3%
無回答	32	3.5%	69	9.7%
合計	923	100%	715	100%

（4）現在の仕事の有無

現在、収入のある仕事を「している」と回答した人は7.3％、「していない」と回答した人は89.2％で、９割の人が現在は「仕事をしていない」と回答している（図3-8）。これは男女別には大きな違いは見られなかった（付表１）。

図3-8　現在の仕事の有無



年齢階層別にみたクロス分析では、「65歳以上70歳未満」では、現在「仕事をしている」と回答した人の割合が、他の年齢階層に比べて高く、２割程度を示しているのに対し、70歳以上になるとその割合が１割以下に下がることが見てとれる（表3-11）。

表3-11　現在の仕事の有無×年齢階層

現在の仕事の有無	年齢階層							
	65歳以上70歳未満		70歳以上75歳未満		75歳以上80歳未満		80歳以上85歳未満	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
仕事をしている	23	22.5%	19	9.6%	21	6.0%	13	4.6%
仕事をしていない	79	77.5%	178	90.4%	328	94.0%	268	95.4%
合計	102	100.0%	197	100%	349	100%	281	100%

現在の仕事の有無	85歳以上90歳未満		90歳以上	
	実数	%	実数	%
仕事をしている	8	5.5%	1	2.9%
仕事をしていない	138	94.5%	33	97.1%
合計	146	100%	34	100%

※無回答は欠損値として処理
χ^2=40.083　自由度=5　p=0.000*　＊p<0.05

６．生活習慣について

生活習慣として食生活、歯磨き、入浴、洗濯についてそれぞれあてはまるものについてたずねた。

表3-12　生活習慣について

（１）食生活について	実数	%
３食きちんと食べている	868	74.9%
２食が習慣になっている	129	11.1%
日によって回数が違う	123	10.6%
食べない日もある	2	0.2%
無回答	37	3.2%
（２）歯磨きについて	実数	%
毎食後磨く	287	24.8%
朝晩磨く	576	49.7%
１日１回磨く	217	18.7%
磨かない日もある	33	2.8%
無回答	46	4.0%
（３）入浴について	実数	%
毎日入る	443	38.2%
１日おきに入る	340	29.3%
週に２回入る	284	24.5%
週に１回程度入る	44	3.8%
無回答	48	4.1%
（４）洗濯について	実数	%
２日に１回以上洗濯する	452	39.0%
週に１～２回くらい洗濯する	390	33.6%
洗濯物がたまったら洗濯する	259	22.3%
着る物がなくなったら洗濯する	3	0.3%
無回答	55	4.7%
合計	1159	100%

（１）食生活について

食生活について、「３食きちんと食べている」と回答した人が74.9％ともっとも多く、「２食が習慣になっている」（11.1％）、「日によって回数が違う」（10.6％）はそれぞれ１割程度であった。「食べない日もある」と回答した人は２人（0.2％）であった。

（２）歯磨きについて

歯磨きについては、「朝晩磨く」と回答した人が49.7％と半数を占め、そのほか、「毎食後磨く」と回答した人が24.8％、「１日１回磨く」と回答した人が18.7％であった。「磨かない日もある」人は2.8％であった。

（３）入浴について

入浴については、「毎日入る」と回答した人が38.2％ともっとも多く、次いで「１日おきに入る」と回答した人が29.3％、「週に２回入る」と回答した人が24.5％、「週に１回程度入る」と回答した人が3.8％であった。

（４）洗濯について

洗濯については、「２日に１回以上」と回答した人が39.0％ともっとも多く、次いで「週に１～２回くらい」と回答した人が33.6％、「洗濯ものがたまったら」と回答した人が22.3％であった。「着る物がなくなったら」は３人（0.3％）であった。

7．日頃の困りごとについて

（1）生活環境の困りごとについて

現在住んでいる地域・環境についての困りごとを複数回答でたずねた（表3-13）。

表3-13　生活環境についての困りごと（複数回答）

生活環境についての困りごと（n=1159）	実数	%
近所に銭湯がない	74	6.4%
近所に外食する店がない	112	9.7%
そばや寿司など店屋物をとる店がない	138	11.9%
近所に買い物する店がない	242	20.9%
仲間・友人などと集まる場所がない	68	5.9%
訪問販売員が多い	48	4.1%
防犯上の不安がある	133	11.5%
近隣との関係	56	4.8%
地震などの防災対策	206	17.8%
特に困っていることはない	500	43.1%
その他	44	3.8%
無回答	78	6.7%

困りごととしてもっとも回答が多かったのは「近所に買い物をする店がない」で20.9%、次いで「地震などの防災対策」が17.8%、「そばや寿司など店屋物をとる店がない」が11.9%、「防犯上の不安がある」が11.5%、「近所に外食する店がない」が9.7%であった。「特に困っていることはない」と回答した人は43.1%であった。

生活環境についての困りごとを、男女別でみたものが表3-14である。男性は、「近所に買い物をする店がない」を挙げた人が13.3%、「地震などの防災対策」が15.6%程度であったほかは、回答が分散した。また、「特に困っていることはない」と回答した人が56.4%と半数を超えた。

女性では、「近所に買い物する店がない」を挙げた人は24.7%にのぼり、ほか「地震などの防災対策」が19.9%、「そばやすしなど店屋物をとる店がない」が14.0%、「防犯上の不安がある」が13.4%とそれぞれ男性よりも高い割合を示した。また、「特に困っていることはない」とした人は43.7%で、男性よりも低く表れている。

（2）日常生活の困りごとについて

日常生活上の困りごとについて、複数回答でたずねた（表3-15）。困りごととしてもっとも回答が多かったのは「雪かき」で37.4%であった。そのほか、「買い物」が16.7%、「バスや電車、車などを使っての外出」が11.6%であった。「特に困っていることはない」と回答した人は39.9%であった。

日常生活上の困りごとを男女別に見たものが表3-16である。

表3-14　生活環境についての困りごと×性別

生活環境についての困りごと（複数回答）	性別			
	男性（n=218）		女性（n=858）	
	実数	%	実数	%
近所に銭湯がない	17	7.8%	57	6.6%
近所に外食する店がない	20	9.2%	91	10.6%
そばや寿司など店屋物をとる店がない	16	7.3%	120	14.0%
近所に買い物する店がない	29	13.3%	212	24.7%
仲間・友人などと集まる場所がない	12	5.5%	55	6.4%
訪問販売員が多い	11	5.0%	37	4.3%
防犯上の不安がある	17	7.8%	115	13.4%
近隣との関係	13	6.0%	42	4.9%
地震などの防災対策	24	15.6%	171	19.9%
特に困っていることはない	123	56.4%	375	43.7%
その他	8	3.7%	36	4.2%

※無回答は欠損値として集計

表3-15　日常生活での困りごと（複数回答）

日常生活での困りごと（n=1159）	実数	%
バスや電車、車を使って外出すること	135	11.6%
買い物	193	16.7%
掃除・洗濯	101	8.7%
食事の準備	92	7.9%
銀行預金などの出し入れ	60	5.2%
入浴	33	2.8%
区役所等での手続き	94	8.1%
通院・薬とり	84	7.2%
ゴミ出し	89	7.7%
雪かき	434	37.4%
特に困っていることはない	462	39.9%
その他	32	2.8%
無回答	77	6.6%

表3-16　日常生活での困りごと×性別

日常生活での困りごと（複数回答）	性別			
	男性（n=213）		女性（n=863）	
	実数	%	実数	%
バスや電車、車を使って外出すること	12	5.6%	122	14.1%
買い物	25	11.7%	167	19.4%
掃除・洗濯	29	13.6%	72	8.3%
食事の準備	48	22.5%	44	5.1%
銀行預金などの出し入れ	6	2.8%	54	6.3%
入浴	6	2.8%	27	3.1%
区役所等での手続き	5	2.3%	89	10.3%
通院・薬とり	10	4.7%	74	8.6%
ゴミ出し	12	5.6%	77	8.9%
雪かき	59	27.7%	369	42.8%
特に困っていることはない	106	49.8%	356	41.3%
その他	3	1.4%	29	3.4%

※無回答は欠損値として集計

男性は、13.6%の人が「掃除・洗濯」を、22.5%の人が「食事の準備」を困りごととして挙げているが、女性の場合、困りごととして「掃除・洗濯」を挙げた人は8.3%、「食事の準備」を挙げた人は5.1%であった。いわゆる「家事」については、男性の方が日常生活上の困りごとになりがちな傾向が見られた。

「買い物」については、男性が11.7%、女性が19.4%であった。

「バスや電車、車を使って外出すること」については、男性が5.6%であったのに対し、女性は14.1%を占めた。そのほか、「区役所等での手続き」や「通院・薬とり」、「ゴミ出し」はいずれも女性の方が割合が高かった。

「雪かき」については、男性では27.7%であったのに対し、女性では42.8%の人が困りごととして挙げていた。

また、「特に困っていることはない」と回答した人の割合は、男性は49.8%と半分を占め、女性は41.3%であった。

また、日常生活上の困りごとは年齢階層が高くなるほど、それぞれの行動を困りごととして挙げる人の割合が高くなり、「特に困っていることはない」と回答する人の割合が低くなっている（付表２）。表3-17は、年齢階層を、65歳以上75歳未満と75歳以上の２つに分類して、日常生活上の困りごとを見たものである。「バスや電車、車を使って外出すること」を困りごととして挙げた人の割合は、65歳以上75歳未満では9.7%であったが、75歳以上では13.7%であった。「買い物」は65歳以上75歳未満では7.4%であったが、75歳以上では21.8%であった。「雪かき」は65歳以上75歳未満では31.9%であったが、75歳以上では43.5%であった。また、「特に困っていることはない」と回答した人の割合は、65歳以上75歳未満では53.0%と半分以上を占めていたのに対し、75歳以上では38.7%であった。

表3-17　日常生活での困りごと×年齢階層（２区分）

日常生活での困りごと（複数回答）	年齢階層２区分			
	65歳以上75歳未満（n=298）		75歳以上（n=775）	
	実数	%	実数	%
バスや電車、車を使って外出すること	29	9.7%	106	13.7%
買い物	22	7.4%	169	21.8%
掃除・洗濯	13	4.4%	88	11.4%
食事の準備	17	5.7%	75	9.7%
銀行預金などの出し入れ	6	2.0%	53	6.8%
入浴	6	2.0%	27	3.5%
区役所等での手続き	8	2.7%	85	11.0%
通院・薬とり	12	4.0%	71	9.2%
ゴミ出し	11	3.7%	77	9.9%
雪かき	95	31.9%	337	43.5%
特に困っていることはない	158	53.0%	300	38.7%
その他	5	1.7%	27	3.5%

※無回答は欠損値として集計

（３）日常生活の困りごとを手伝ってもらう人

日常生活で困ったことがあったときに、誰に手伝ってもらうのか、複数回答でたずねた（表3-18）。もっとも多かったのは「子ども（その配偶者、孫など）」で、49.6%とほぼ半数の人が回答した。次いで「近所の人」が25.5%、「兄弟・姉妹」が23.3%、「友人・知人」が17.1%、「親戚」は11.6%、「民生委員」は10.1%であった。

一方、「手伝ってもらう人がいない」と回答した人は5.3％であった。

表3-18　日常生活上の困りごとを手伝ってもらう人
（複数回答）

困りごとを手伝ってもらう人（n=1159）	実数	%
子ども（その配偶者、孫など）	575	49.6%
兄弟・姉妹	270	23.3%
親戚	134	11.6%
近所の人	296	25.5%
友人・知人	198	17.1%
民生委員	117	10.1%
自治会長	33	2.8%
ホームヘルパー	95	8.2%
ボランティア	3	0.3%
役所の人	12	1.0%
病院の人	5	0.4%
ケアマネージャー	45	3.9%
まごころヘルプ	29	2.5%
手伝ってもらう人がいない	62	5.3%
その他	37	3.2%
無回答	75	6.5%

日常生活上の困りごとを手伝ってもらう人が「いる」人と「いない」人との２区分にしたものと性別をクロス集計したものが表3-19である。手伝ってもらう人が「いない」と回答した人の割合は、男性は

表3-19　困りごとを手伝ってもらう人の有無×性別

日常生活上の困りごとを手伝ってもらう人の有無	性別			
	男性（n=214）		女性（n=864）	
	実数	%	実数	%
手伝ってくれる人がいる	190	88.8%	828	95.8%
手伝ってくれる人がいない	24	11.2%	36	4.2%
合計	214	100%	864	100%

※無回答は欠損値として集計
χ^2=16.211　自由度=1　p=0.000*　＊p<0.05

11.2％、女性は4.2％で、男性の方が高かった。

さらに、「近所づきあいの程度」を２区分したものとクロス集計したものが表3-20である（近所づきあいの程度については、「10. 近所づきあいについて」参照）。近所づきあいの程度にかかわらず、「子ども（その配偶者、孫など）」が「困ったことがあったとき手伝ってもらう人」として、もっとも多いことに変わりはなかった。「近所の人」については、近所づきあいを「よくする」場合は32.8％、「あまりしない」場合には8.6％であった。「手伝ってくれる人がいない」人の割合は、近所づきあいを「よくする」場合には2.8％であったが、「あまりしない」場合には15.9％であった。

表3-20　困りごとの相談相手×近所づきあいの程度（２区分）

困りごとの相談相手（複数回答）	近所づきあいの程度（２区分）			
	よくする		あまりしない	
	実数	%	実数	%
子ども（その配偶者、孫など）	458	56.4%	96	41.2%
兄弟・姉妹	197	24.3%	60	25.8%
親戚	110	13.5%	20	8.6%
近所の人	266	32.8%	20	8.6%
友人・知人	169	20.8%	26	11.2%
民生委員	95	11.7%	18	7.7%
自治会長	28	3.4%	4	1.7%
ホームヘルパー	6	8.1%	28	12.0%
ボランティア	2	0.2%	1	0.4%
役所の人	6	0.7%	4	1.7%
病院の人	4	0.5%	0	0.0%
ケアマネージャー	33	4.1%	11	4.7%
まごころヘルプ	24	3.0%	3	1.3%
手伝ってもらう人がいない	23	2.8%	37	15.9%
その他	30	3.7%	6	2.6%

※無回答は欠損値として集計

８．外出・社会参加について

（１）主な外出手段

普段外出する際の主な手段についてたずねた（表3-21）。

表3-21　主な外出手段

主な外出手段	実数	%
徒歩	264	22.8%
自転車	207	17.9%
原付	6	0.5%
自家用車	143	12.3%
バス	329	28.4%
タクシー	158	13.6%
その他	9	0.8%
無回答	43	3.7%
合計	1159	100%

もっとも多かったのは「バス」で28.4%、次いで「徒歩」が22.8%、「自転車」が17.9%、「タクシー」が13.6%、「自家用車」が12.3%であった。

外出手段を男女別に見たものが表3-22である。男性の場合、外出手段としてもっとも多かったのは「自家用車」で33.6%を占め、次いで「自転車」が30.1%であった。「徒歩」と回答した人は18.1%であった。

女性の場合、外出手段としてもっとも多かったのは「バス」で34.5%を占め、次いで「徒歩」が25.1%、「タクシー」が16.2%、「自転車」が15.7%であった。「自家用車」は7.6%であった。

表3-22　主な外出手段×性別

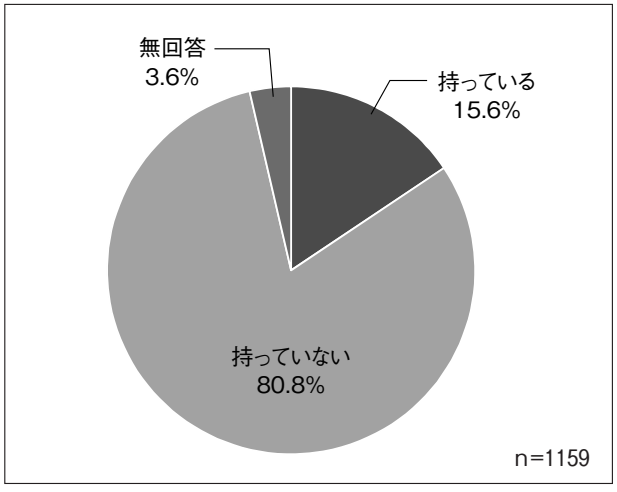
主な外出手段	性別			
	男性		女性	
	実数	%	実数	%
徒歩	41	18.1%	222	25.1%
自転車	68	30.1%	139	15.7%
原付	6	2.7%	0	0.0%
自家用車	76	33.6%	67	7.6%
バス	21	9.3%	305	34.5%
タクシー	13	5.8%	143	16.2%
その他	1	0.4%	8	0.9%
合計	226	100%	884	100%

※無回答は欠損値として集計
χ^2=177.674　自由度=5　p=0.000*　＊p<0.05

（2）自家用車の所有

自家用車の所有については、「持っている」と回答した人が15.6%であったのに対し、「持っていない」と回答した人が80.8%で、８割を占めた。

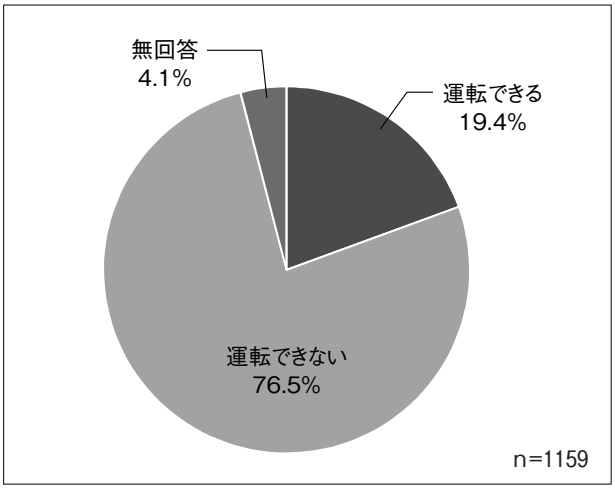
図3-9　自家用車の所有



（3）車の運転の可否

車の運転については、「運転できる」と回答した人が19.4%であったのに対し、「運転できない」と回答した人が76.5%であった。

図3-10　車の運転の可否



運転の可否を男女別に見たものが表3-23である。男性では56.6%が車の「運転ができる」と回答しているのに対し、女性では「運転ができる」と回答した人は11.0%で、89.0%の人が「運転できない」と回答していた。

表3-23　運転の可否×性別

運転の可否	性別			
	男性		女性	
	実数	%	実数	%
運転できる	128	56.6%	97	11.0%
運転できない	98	43.4%	783	89.0%
合計	226	100%	880	100%

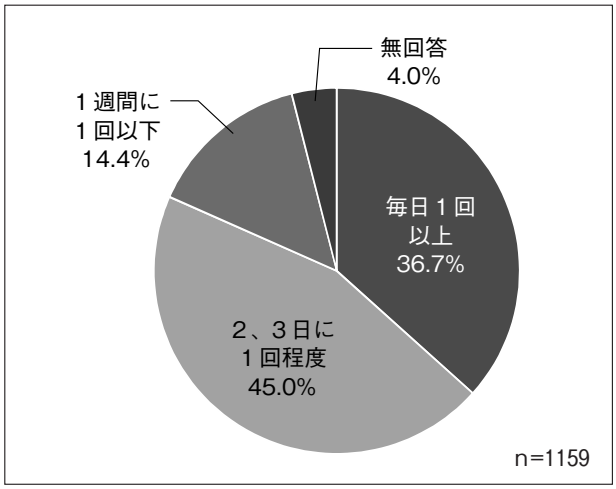
※無回答は欠損値として集計
χ^2=230.883　自由度=1　p=0.000*　＊p<0.05

（4）外出の頻度

普段の外出頻度についてたずねた。「毎日１回以上」と回答した人は36.7%、「２、３日に１回程度」と回答した人は45.0%であり、合わせて８割以上の人が、２、３日に１回以上は外出していることがわかる。

一方、「１週間に１回以下」と回答した人は14.4%であった。

図3-11　外出の頻度



外出頻度を男女別にみると（表3-24）、「毎日１回以上」と回答した人の割合は、男性では46.4%であったのに対し、女性は36.3%と低い割合を示し、「１週間に１回以下」と回答した人の割合は、男性は9.8%であったが、女性は16.2%と高い割合を示した。

表3-24　外出の頻度×性別

外出の頻度	性別			
	男性		女性	
	実数	%	実数	%
毎日１回以上	104	46.4%	320	36.3%
２、３日に１回程度	98	43.8%	419	47.5%
１週間に１回以下	22	9.8%	143	16.2%
合計	224	100%	882	100%

※無回答は欠損値として集計
χ^2=10.229　自由度=2　p=0.006*　＊p<0.05

外出頻度が「１週間に１回以下」と回答した人にその理由をたずねたところ（表3-25）、もっとも多かったのが「健康上の心配が大きい」であり、４割程度であった。ほか、「出かける用事がないから」「出かけるのがおっくうだから」がそれぞれ３割弱を占めていた。

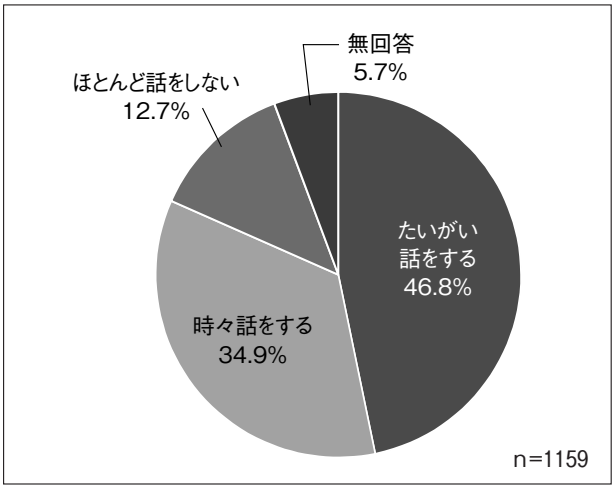
表3-25　外出の機会が少ない理由（複数回答）

主な外出手段（n=167）	実数	%
出かけるのがおっくうだから	46	27.5%
行く場所がないから	10	6.0%
出かける用事がないから	48	28.7%
坂や段差が多いから	8	4.8%
交通が不便だから	14	8.4%
健康上の心配が大きい	70	41.9%
その他	28	16.8%
無回答	6	3.6%

（５）外出先で会話をする機会

外出した際に普段どの程度会話をしているかについては、「たいがい話をする」と回答した人が46.8%、「時々話をする」が34.9%、「ほとんど話をしない」が12.7%であった（図3-12）。

図3-12　外出先での会話の程度



これを男女別に見たものが表3-26である。男性は「たいがい話をする」が32.0%、「時々話をする」が41.0%、「ほとんど話をしない」が27.0%であった。女性は、「たいがい話をする」が54.3%、「時々話をする」が35.8%、「ほとんど話をしない」が10.0%であった。

表3-26　外出先での会話の程度×性別

外出先での会話の程度	性別			
	男性		女性	
	実数	%	実数	%
たいがい話をする	71	32.0%	469	54.3%
時々話をする	91	41.0%	309	35.8%
ほとんど話をしない	60	27.0%	86	10.0%
合計	222	100%	864	100%

※無回答は欠損値として集計
χ^2=57.270　自由度=2　p=0.000*　＊p<0.05

（6）参加している団体・集まり

現在参加している団体や集まりについて複数回答でたずねた。

表3-27　参加している社会参加活動（複数回答）

参加している社会参加活動（n=1159）	実数	%
趣味の会（囲碁・将棋・俳句・カラオケ・お花・盆栽・お茶など）	331	28.6%
学習の会	93	8.0%
スポーツ	115	9.9%
老人会	125	10.8%
社会活動（ボランティア・同窓会・P.T.A.などの子育ての頃の団体・生協活動など）	96	8.3%
その他	135	11.6%
参加していない	489	42.2%
無回答	33	2.8%

もっとも多かったのは「趣味の会」で28.6％とおよそ３割であった。ほか、「老人会」が１割程度、ボランティアなどの「社会活動」が8.3％であった。また、「参加していない」と回答した人は42.2％であった。

これを男女別に見たものが表3-28である。

表3-28　参加している社会参加活動×性別

参加している社会参加活動（複数回答）	性別			
	男性（n=225）		女性（n=894）	
	実数	%	実数	%
趣味の会（囲碁・将棋・俳句・カラオケ・お花・盆栽・お茶など）	45	20.0%	282	31.5%
学習の会	13	5.8%	80	8.9%
スポーツ	22	9.8%	93	10.4%
老人会	25	11.1%	98	11.0%
社会活動（ボランティア・同窓会・P.T.A.などの子育ての頃の団体・生協活動など）	29	12.9%	67	7.5%
その他	28	12.4%	107	12.0%
参加していない	110	48.9%	377	42.2%

※無回答は欠損値として集計

「趣味の会」に参加していると回答した人は、男性は２割であったが、女性では３割を占めた。一方「社会活動」に参加していると回答した人は、男性では12.9％であったのに対し、女性では7.5％であった。

また、「参加していない」と回答している人は、男性は48.9％、女性では42.2％であった。

社会活動への参加の有無を、収入別に見たものが表3-29である。

表3-29　社会活動への参加有無×年間収入（４区分）

社会活動への参加有無	年間収入（４区分）							
	150万円未満		150万円以上200万円未満		200万円以上400万円未満		400万円以上	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
社会活動に参加している	156	44.7%	152	60.3%	259	65.1%	31	72.1%
社会活動に参加していない	193	55.3%	100	39.7%	139	34.9%	12	27.9%
合計	349	100%	252	100%	398	100%	43	100%

※無回答は欠損値として処理

χ^2=37.283　自由度=3　p=0.000*　＊p<0.05

収入階層を４区分にしたものとクロス集計を行ったところ、年間収入が「150万円未満」の場合、社会活動に「参加している」と回答した人の割合は44.7％と半数に満たず、「参加していない」人の割合が55.3％であった。「150円以上200万円未満」の場合は、「参加している」人は60.3％と６割を超え、「参加していない」人は39.7％であった。「200万円以上400万円未満」の場合、「参加している」人は65.1％、「参加していない」人は34.9％、「400万円以上」の場合、「参加している」人は72.1％、「参加していない」人は27.9％であった。収入が高くなるにつれて、参加している人の割合が高くなる傾向にあることがわかる。

団体や集まりに「参加していない」と回答した人に対し、その理由を複数回答でたずねたところ、もっとも多かったのは「体の調子が悪い」で26.8%、次いで「自分の興味をひくものがない」が22.9%、「ひとりでは参加しにくいから」と「参加したくないから」がそれぞれ18.8%であった（表3-30）。

表3-30　社会参加活動に参加しない理由（複数回答）

社会参加活動に参加しない理由（n=489）	実数	%
時間がない	44	9.0%
自分の興味をひくものがない	112	22.9%
体の調子が悪い	131	26.8%
費用がかかる	52	10.6%
近くに活動がない	45	9.2%
それらの活動を知らない	35	7.2%
ひとりでは参加しにくいから	92	18.8%
参加したくないから	92	18.8%
その他	47	9.6%
無回答	13	2.7%

社会活動に参加しない理由を、男女別に見たものが表3-31である。

表3-31　社会活動に参加しない理由×性別

社会活動に参加しない理由（複数回答）	性別			
	男性（n=110）		女性（n=377）	
	実数	%	実数	%
時間がない	9	8.4%	35	9.5%
自分の興味をひくものがない	36	33.6%	75	20.4%
体の調子が悪い	23	21.5%	108	29.3%
費用がかかる	9	8.4%	43	11.7%
近くに活動がない	8	7.5%	37	10.1%
それらの活動を知らない	13	12.1%	22	6.0%
ひとりでは参加しにくいから	15	14.0%	77	20.9%
参加したくないから	20	18.7%	72	19.6%
その他	13	12.1%	34	9.2%

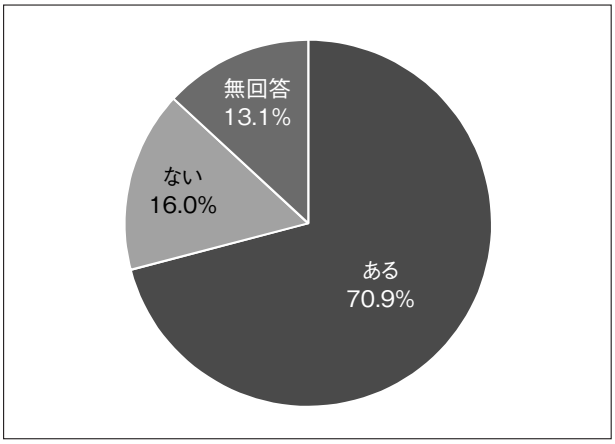
※無回答は欠損値として集計

男性は、「自分の興味をひくものがない」と回答した人が33.6%、「体の調子が悪い」が21.5%、「ひとりでは参加しにくいから」が14.0%、「それらの活動を知らない」が12.1%であった。女性は、「体の調子が悪い」がもっとも多く29.3%、ほか「ひとりでは参加しにくいから」が20.9%、「自分の興味をひくものがない」が20.4%、「費用がかかる」が11.7%、「近くに活動がない」が10.1%であった。男性と女性とでは、社会活動に参加しない理由にやや違いがあることがわかる。

（7）暮らしのなかでの楽しみの有無

暮らしのなかで楽しみについてたずねたところ、7割の人が「ある」と回答している一方、16.0%の人は「ない」と回答していた。

図3-13　楽しみの有無



楽しみの内容については（表3-32）、趣味における楽しみが6割、他者とのコミュニケーションにおける楽しみが2割、日常生活全般における楽しみが2割であった（具体的な内容については、「B　暮らしのなかの楽しみの内容」参照）。

表3-32 「楽しみ」の内容（分類）／複数回答

「楽しみ」の内容（n=1713）	実数	%
趣味	1032	60.2%
他者とのコミュニケーション	342	20.0%
日常生活	339	19.8%

楽しみの有無について男女別に見たものが表3-33である。男性では、楽しみが「ある」と回答した人がおよそ7割、「ない」と回答した人が3割であった。一方、女性では、楽しみが「ある」と回答した人は8割にのぼり、「ない」と回答した人は15.2%であった。

表3-33　楽しみの有無×性別

楽しみの有無	性別			
	男性		女性	
	実数	%	実数	%
ある	144	69.9%	674	84.8%
ない	62	30.1%	121	15.2%
合計	206	100%	795	100%

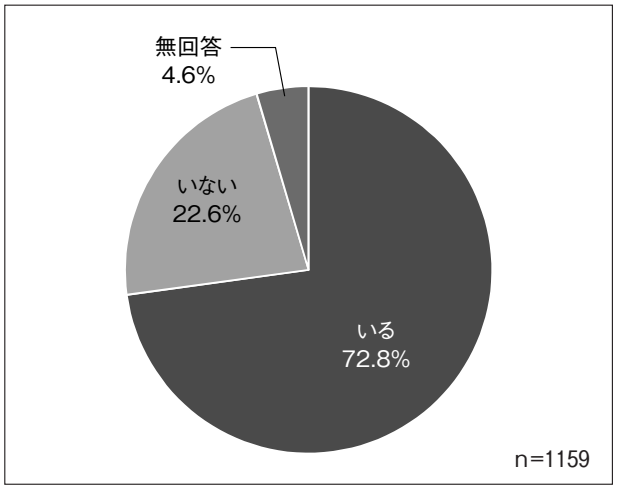
※無回答は欠損値として集計
χ^2=24.238　自由度=1　p=0.000*　＊p<0.05

9．親族・友人について

（1）生存子の有無について

現在生存している子どもの有無についてたずねたところ、「いる」と回答した人は72.8%、「いない」と回答した人は22.6%であった。

図3-14　生存子の有無



生存子が「いる」と回答した人に、その人数をたずねた（表3-34）。もっとも多かったのは「２人」でおよそ半数を占め、次いで「１人」23.0%、「３人」17.7%であった。

表3-34　子どもの人数

子どもの人数	実数	%
１人	194	23.0%
２人	438	51.9%
３人	149	17.7%
４人	25	3.0%
５人以上	9	1.1%
無回答	29	3.4%
合計	844	100%

（2）もっとも行き来のある家族・親族について

日ごろもっとも行き来のある家族・親族についてたずねた。もっとも多かったのは「子ども（その配偶者、孫を含む）」で49.2%とほぼ半数を占めた。次いで「兄弟・姉妹」が25.2%であった。一方、「誰とも行き来がない」と回答した人は6.5%であった。

表3-35　もっとも行き来する親族／種類

もっとも行き来する親族／種類	実数	%
子ども（その配偶者、孫を含む）	570	49.2%
親	5	0.4%
兄弟・姉妹	292	25.2%
親戚	105	9.1%
その他	61	5.3%
誰ともほとんど行き来がない	75	6.5%
無回答	51	4.4%
合計	1159	100%

生存子の有無による違いを見たものが表3-36である。生存している子どもが「いる」場合には、もっとも行き来のある家族・親族は「子ども（その配偶者、孫を含む）」であり、およそ７割を占める。次に多いのは「兄弟・姉妹」で17.7%、「誰とも行き来がない」人は3.8%であった。

一方、生存している子どもが「いない」場合、もっとも行き来のある家族・親族は「兄弟・姉妹」で48.8%と半分近くを占め、次いで「親戚」が22.0%、「誰とも行き来がない」人は16.5%にのぼった。

表3-36　もっとも行き来する親族／種類×生存子の有無

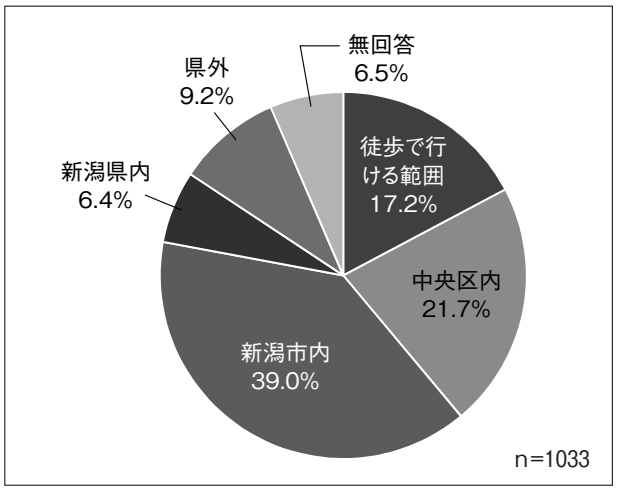
もっとも行き来する親族／種類	生存子の有無			
	いる		いない	
	実数	%	実数	%
子ども（その配偶者、孫を含む）	560	68.8%	4	1.6%
親	2	0.2%	3	1.2%
兄弟・姉妹	144	17.7%	124	48.8%
親戚	46	5.7%	56	22.0%
その他	31	3.8%	25	9.8%
誰ともほとんど行き来がない	31	3.8%	42	16.5%
合計	814	100%	254	100%

※無回答は欠損値として集計
χ^2=357.836　自由度=5　p=0.000*　＊p<0.05

（3）もっとも行き来のある家族・親族の居住地

もっとも行き来のある家族・親族が住んでいる地域については、「徒歩で行ける範囲」が17.2%、「中央区内」が21.7%で、併せて４割弱が中央区内であった。また、「新潟市内」は39.0%とこちらもおよそ４割程度であり、合わせて８割が「新潟市内」に居住していることがわかる。

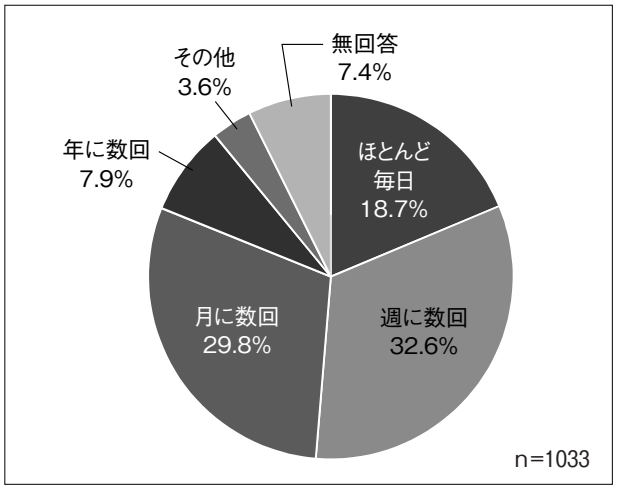
図3-15　行き来する親族／居住地



（4）もっとも行き来のある家族・親族との連絡頻度

もっとも行き来のある家族・親族と連絡を取り合う頻度については、「ほとんど毎日」が18.7%、「週に数回」が32.6%、「月に数回」が29.8%、「年に数回」が7.9%であった。

図3-16　行き来する親族／連絡頻度



これを男女別に見たものが表3-37である。男性よりも女性の方が、家族や親族と連絡を取り合う頻度が高い傾向にあることがわかる。

表3-37　もっとも行き来のある家族・親族との連絡頻度×性別

連絡頻度	性別			
	男性		女性	
	実数	%	実数	%
ほとんど毎日	32	18.7%	160	20.5%
週に数回	45	26.3%	289	37.0%
月に数回	54	31.6%	254	32.5%
年に数回	33	19.3%	48	6.1%
その他	7	4.1%	30	3.8%
合計	171	100%	781	100%

※無回答は欠損値として集計
χ^2=33.369　自由度=4　p=0.000*　＊p<0.05

次に、家族・親族との連絡頻度を生存子の有無別に見たものが表3-38である。生存子が「いる」人の方が、「いない」人よりも、連絡頻度が高い傾向にあることがわかる。

表3-38　もっとも行き来のある家族・親族との連絡頻度×生存子の有無

連絡頻度	生存子の有無			
	いる		いない	
	実数	%	実数	%
ほとんど毎日	159	21.5%	28	15.0%
週に数回	286	38.8%	44	23.5%
月に数回	221	29.9%	73	39.0%
年に数回	46	6.2%	32	17.1%
その他	26	3.5%	10	5.3%
合計	738	100%	187	100%

※無回答は欠損値として集計
χ^2=38.9779　自由度=4　p=0.000*　＊p<0.05

（5）親しくしている友人・知人について

日ごろ親しくしている友人・知人の有無については、85.9%の人が「いる」と回答した。「いない」と回答した人は10.9%であった。

男女別に見ると（表3-39）、男性は親しい友人・知人が「いる」と回答した人が75.6%、「いない」と回答した人が24.4%であったのに対し、女性は「いる」と回答した人が92.1%、「いない」と回答した人は7.9%であった。

図3-17　親しい友人・知人の有無

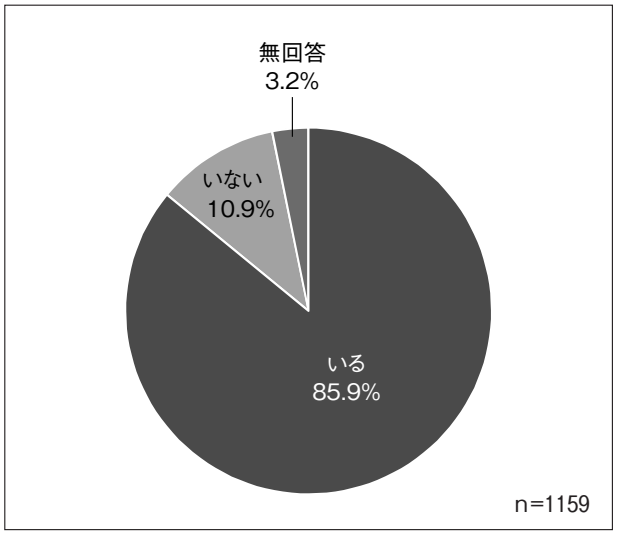


表3-39　親しい友人・知人の有無×性別

友人知人の有無	性別			
	男性		女性	
	実数	%	実数	%
いる	170	75.6%	820	92.1%
いない	55	24.4%	70	7.9%
合計	225	100%	890	100%

※無回答は欠損値として集計
χ^2=49.594　自由度=1　p=0.000*　＊p<0.05

（6）親しくしている友人・知人の種類

親しい友人・知人が誰であるかについては、もっとも多かったのは「近所の人」で45.2%を占め、ほか、「趣味の会の人」18.3%、「もとの（今の）職場の人」が13.9%、「学生時代の友人」が12.6%であった。

表3-40　友人知人／種類

新しい友人・知人の種類	実数	%
近所の人	450	45.2%
学生時代の友人	125	12.6%
もとの（今の）職場の人	138	13.9%
趣味の会の人	182	18.3%
老人会の人	16	1.6%
その他	73	7.3%
無回答	12	1.2%
合計	996	100%

それを男女別にみると（表3-41）、男性は「近所の人」がもっとも多く32.1%を占め、「趣味の会の人」（20.8%）、「もとの（今の）職場の人」（20.2%）と続いた。女性は「近所の人」が48.3%と半分近くを占め、そのほか「趣味の会の人」（18.0%）、「学生時代の友人」（13.8%）、「もとの（今の）職場の人」（12.8%）と分散した。性別により、親しくしている友人・知人の種類に違いがみられることがわかる。

表3-41　親しい友人・知人の種類×性別

親しい友人・知人の種類	性別			
	男性		女性	
	実数	%	実数	%
近所の人	54	32.1%	391	48.3%
学生時代の友人	13	7.7%	112	13.8%
もとの（今の）職場の人	34	20.2%	104	12.8%
趣味の会の人	35	20.8%	146	18.0%
老人会の人	5	3.0%	11	1.4%
その他	27	16.1%	46	5.7%
合計	168	100%	810	100%

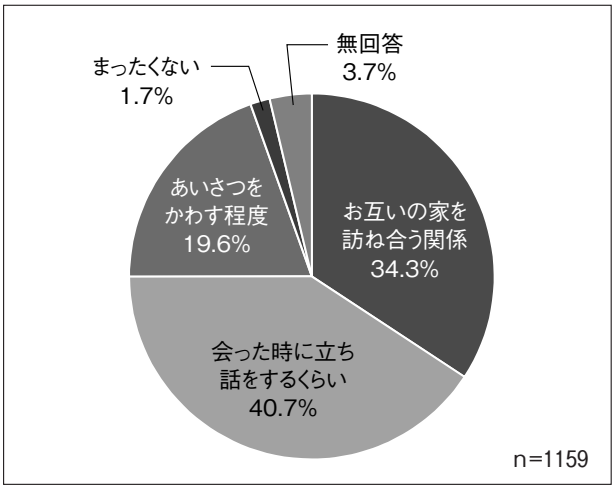
※無回答は欠損値として集計
χ^2=40.342　自由度=5　p=0.000*　＊p<0.05

10. 近所づきあいについて

（1）近所づきあいの程度

近所づきあいの程度については、「お互いの家を訪ねあう関係」が34.3%、「会ったときに立ち話をするくらい」が40.7%、「あいさつを交わす程度」が19.6%であった。

図3-18　近所づきあいの程度



男女別に見ると（表3-42）、女性は「お互いの家を訪ね合う関係」が40.5%、「あいさつをかわす程

度」が15.1％であるのに対し、男性は「お互いの家を訪ね合う関係」は15.7％、「あいさつをかわす程度」が40.8％であった。女性の方が近所づきあいが得意な傾向にあることがわかる。

表3-42　近所づきあいの程度×性別

近所づきあいの程度	性別			
	男性		女性	
	実数	%	実数	%
お互いの家を訪ね合う関係	35	15.7%	359	40.5%
会った時に立ち話をするくらい	86	38.6%	385	43.5%
あいさつをかわす程度	91	40.8%	134	15.1%
まったくない	11	4.9%	8	0.9%
合計	223	100%	886	100%

※無回答は欠損値として集計
χ^2=106.714　自由度=3　p=0.000*　＊p<0.05

（2）近所の人に頼みごとをすることへの抵抗感

近所の人にゴミ出しや家事の手伝いなどを頼むことに対する抵抗感についてたずねた。「まったく抵抗は感じない」（12.9％）と「あまり抵抗は感じない」15.3％を合わせて、３割弱の人は「抵抗を感じる」と回答している。

一方、「やや抵抗を感じる」（37.6％）と「非常に抵抗を感じる」（21.9％）を合わせておよそ６割の人が「抵抗を感じる」と回答している。

これを男女別に見たものが表3-43である。

これによれば、性別と「近所の人に頼みごとをすることへの抵抗感」にはやや関連があることがわかる。男性は「非常に抵抗を感じる」人の割合が32.7％、「やや抵抗を感じる」人の割合が36.6％であるのに対し、女性は「非常に抵抗を感じる」人の割合は23.0％とやや低く、「やや抵抗を感じる」人の割合は44.5％であった。

こうした「近所の人に頼みごとをすることへの抵抗感」を近所づきあいの程度別にみると（表3-44）、

図3-19　近所の人に頼みごとをすることへの抵抗感

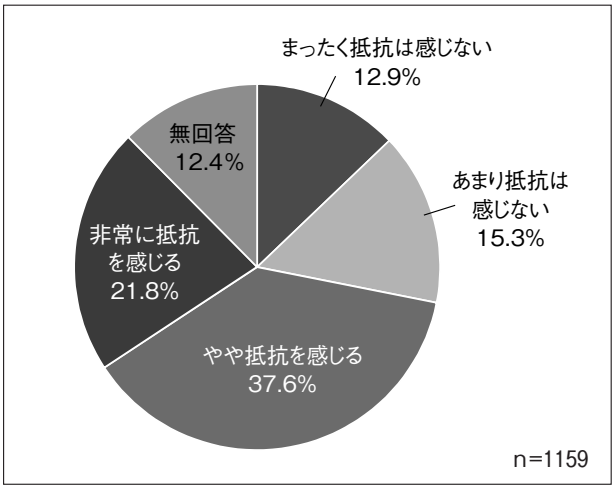


表3-43　近所の人に頼みごとをすることへの抵抗感×性別

抵抗感／程度	性別			
	男性		女性	
	実数	%	実数	%
まったく抵抗は感じない	34	16.8%	115	14.3%
あまり抵抗は感じない	28	13.9%	147	18.2%
やや抵抗を感じる	74	36.6%	359	44.5%
非常に抵抗を感じる	66	32.7%	186	23.0%
合計	202	100%	807	100%

※無回答は欠損値として集計
χ^2=10.809　自由度=3　p=0.013*　＊p<0.05

表3-44　近所の人に頼みごとをすることへの抵抗感×近所づきあいの程度

抵抗感／程度	近所づきあいの程度							
	お互いの家を訪ね合う関係		会った時に立ち話をするくらい		あいさつをかわす程度		まったくない	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
まったく抵抗は感じない	81	22.8%	41	9.6%	15	7.5%	5	29.4%
あまり抵抗は感じない	82	23.0%	69	16.2%	26	13.1%	0	0%
やや抵抗を感じる	149	41.9%	197	46.2%	77	38.7%	4	23.5%
非常に抵抗を感じる	44	12.4%	119	27.9%	81	40.7%	8	47.1%
合計	356	100%	426	100%	199	100%	17	100%

※無回答は欠損値として処理
χ^2=95.389　自由度=9　p=0.000*　＊p<0.05

「お互いの家を訪ね合う関係」の場合、「まったく抵抗は感じない」人が22.8%、「あまり抵抗は感じない」人が23.0%、「やや抵抗を感じる」人は41.9%、「非常に抵抗を感じる」人は12.4%である。「会った時に立ち話をするくらい」の場合、「まったく抵抗は感じない」人は9.6%、「あまり抵抗は感じない」人は16.2%、「やや抵抗を感じる」人は46.2%、「非常に抵抗を感じる」人は27.9%とである。「あいさつを交わす程度」の場合、「まったく抵抗は感じない」人は7.5%、「あまり抵抗は感じない」人は13.1%、「やや抵抗を感じる」人は38.7%、「非常に抵抗を感じる」人は40.7%であった。近所づきあいをよくしていると、近所の人に頼みごとをすることに抵抗を感じない人の割合が高くなり、近所づきあいをあまりしていないと、抵抗を感じる人の割合が高くなる傾向にあることがわかる。

「やや抵抗を感じる」「非常に抵抗を感じる」と回答した人に対し、その理由をたずねたところ、８割の人が「人に迷惑をかけたくないから」と回答していた（表3-45）。

表3-45　抵抗を感じる理由

抵抗を感じる理由	実数	%
人に迷惑をかけたくないから	557	80.8%
わずらわしいから	45	6.5%
プライバシー（私生活）を人に知られたくない	16	2.3%
近所との人間関係があまりよくないから	13	1.9%
嫌な思いをしたことがあるから	16	2.3%
その他	28	4.1%
無回答	14	2.0%
合計	689	100%

11. 緊急時の支援者について

（1）緊急時の支援者の有無

病気や身体の不調などの困ったときに支援してくれる人の有無についてたずねたところ、「いる」と回答した人が88.3%、「いない」と回答した人が8.2%であった。

これを、男女別に見たものが表3-46である。男性は、緊急時の支援者が「いる」と回答した人が84.5%、「いない」と回答した人が15.5%であり、女性は「いる」と回答した人が93.3%、「いない」と回答した人が6.7%であった。

また、緊急時の支援者の有無を、生存子の有無別に見たものが表3-47である。生存子が「いる」場合、緊急時の支援者が「いる」と回答している人は95.1%、「いない」人が4.9%であるのに対し、生存子が「いない」場合、緊急時の支援者が「いる」人は80.2%、「いない」人は19.8%であった。

図3-20　緊急時の支援者の有無

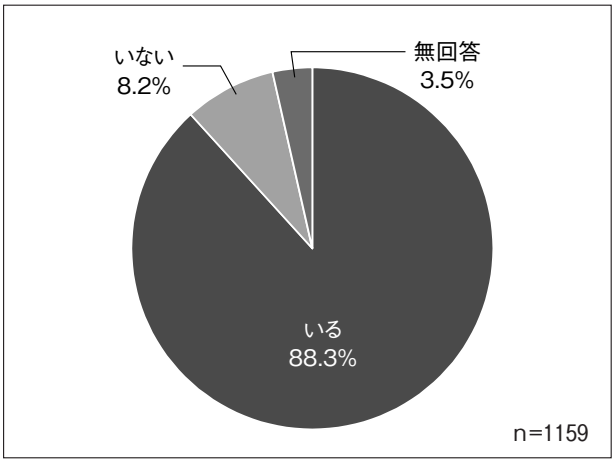


表3-46　緊急時の支援者の有無×性別

緊急時の支援者の有無	性別			
	男性		女性	
	実数	%	実数	%
いる	185	84.5%	832	93.3%
いない	34	15.5%	60	6.7%
合計	219	100%	892	100%

※無回答は欠損値として集計
χ^2=17.575　自由度=1　p=0.000*　＊p<0.05

表3-47　緊急時の支援者の有無×生存子の有無

緊急時の支援者の有無	生存子の有無			
	いる		いない	
	実数	%	実数	%
いる	780	95.1%	203	80.2%
いない	40	4.9%	50	19.8%
合計	820	100%	253	100%

※無回答は欠損値として集計
χ^2=55.747　自由度=1　p=0.000*　＊p<0.05

（2）緊急時の支援者の種類

緊急時に駆けつけてくれる人は誰かについてたずねた。

もっとも多かったのは「子ども（その配偶者、孫を含む）」で55.7％と５割以上を占めた。次いで「兄弟・姉妹」が20.6％であった。

表3-48　緊急時の支援者／種類

緊急時の支援者／種類	実数	%
子ども（その配偶者、孫を含む）	570	55.7%
兄弟・姉妹	211	20.6%
親戚	77	7.5%
近所の人	85	8.3%
友人・知人	53	5.2%
その他	14	1.4%
無回答	13	1.3%
合計	1023	100%

これを生存子の有無別に見たものが表3-49である。

生存子が「いる」場合、緊急時の支援者でもっとも多いのは「子ども（その配偶者、孫を含む）」で72.3％を占め、「兄弟・姉妹」は11.2％であった。一方、生存子が「いない」場合、緊急時の支援者でもっとも多いのは「兄弟・姉妹」で52.7％を占め、ほか「親戚」21.4％、「近所の人」11.9％、「友人」10.4％と分散した。

表3-49　緊急時の支援者／種類×生存子の有無

緊急時の支援者／種類	生存子の有無			
	いる		いない	
	実数	%	実数	%
子ども（その配偶者、孫を含む）	556	72.3%	2	1.0%
兄弟・姉妹	86	11.2%	106	52.7%
親戚	33	4.3%	43	21.4%
近所の人	56	7.3%	24	11.9%
友人・知人	29	3.8%	21	10.4%
その他	9	1.2%	5	2.5%
合計	769	100%	201	100%

※無回答は欠損値として集計
χ^2=359.222　自由度=5　p=0.000*　＊p<0.05

12. 正月三が日の過ごし方

正月三が日を過ごした相手については、「子ども（その配偶者、孫を含む）」と回答した人が54.0％を占め、「兄弟・姉妹」が10.1％、「ひとりで過ごした」人は30.6％であった。

表3-50　正月三が日に過ごした相手（複数回答）

正月三が日に過ごした相手（n=1159）	実数	%
子ども（その配偶者、孫を含む）	626	54.0%
兄弟・姉妹	117	10.1%
親戚	71	6.1%
近所の人	32	2.8%
友人・知人	61	5.3%
ひとりで過ごした	355	30.6%
その他	21	1.8%
無回答	29	2.5%

それを男女別に見ると（表3-51）、男性の場合、「子ども（その配偶者、孫を含む）」と回答した人が42.9％、「兄弟・姉妹」が8.5％で、「ひとりで過ごした」人が43.8％であった。

表3-51　正月三が日の過ごし方×性別

正月三が日に過ごした相手（複数回答）	性別			
	男性（n=224）		女性（n=899）	
	実数	%	実数	%
子ども（その配偶者、孫を含む）	96	42.9%	526	58.5%
兄弟・姉妹	19	8.5%	98	10.9%
親戚	11	4.9%	60	6.7%
近所の人	6	2.7%	26	2.9%
友人・知人	12	5.4%	49	5.5%
ひとりで過ごした	98	43.8%	254	28.3%
その他	5	2.2%	16	1.8%

※無回答は欠損値として集計

一方、女性の場合、「子ども（その配偶者、孫を含む）」と過ごした人は58.5％、「兄弟・姉妹」が10.9％、「ひとりで過ごした」人が28.3％であった。

次に、生存子の有無別に見たものが表3-52である。生存子が「いる」場合、「子ども（その配偶者、孫を含む）」と過ごした人は73.5％、「兄弟・姉妹」と過ごした人は7.4％、「ひとりで過ごした」人は

21.1％であった。一方、生存子が「いない」場合、「兄弟・姉妹」と過ごした人が19.2％、「ひとりで過ごした」人は62.7％であった。

表3-52　正月三が日の過ごし方×生存子の有無

正月三が日に過ごした相手（複数回答）	生存子の有無			
	いる（n=825）		いない（n=255）	
	実数	%	実数	%
子ども（その配偶者、孫を含む）	606	73.5%	3	1.2%
兄弟・姉妹	61	7.4%	49	19.2%
親戚	45	5.5%	24	9.4%
近所の人	27	3.3%	4	1.6%
友人・知人	37	4.5%	20	7.8%
ひとりで過ごした	174	21.1%	160	62.7%
その他	12	1.5%	9	3.5%

※無回答は欠損値として集計

次に、緊急時の支援者の有無別に見たものが表3-53である。緊急時の支援者が「いる」場合、正月三が日を「子ども（その配偶者、孫を含む）」と過ごした人は59.0％、「兄弟・姉妹」と過ごした人は11.2％、「ひとりで過ごした」人は27.6％であった。一方、緊急時の支援者が「いない」場合には、正月三が日を「子ども（その配偶者、孫を含む）」と過ごした人は20.2％、「ひとりで過ごした」人は68.1％を占めた。

表3-53　正月三が日の過ごし方×緊急時の支援者の有無

正月三が日に過ごした相手（複数回答）	緊急時の支援者の有無			
	いる（n=1015）		いない（n=94）	
	実数	%	実数	%
子ども（その配偶者、孫を含む）	599	59.0%	19	20.2%
兄弟・姉妹	114	11.2%	2	2.1%
親戚	68	6.7%	3	3.2%
近所の人	31	3.1%	1	1.1%
友人・知人	55	5.4%	5	5.3%
ひとりで過ごした	280	27.6%	64	68.1%
その他	17	1.7%	4	4.3%

※無回答は欠損値として集計

13. 経済状況について

（1）１年間の世帯収入

年間収入は「200～399万円」がもっとも多く34.7％を占め、次いで「150～199万円」が22.3％、「100～149万円」が17.9％であった。

年間収入150万円未満の人が全体の31.1％と３割を占めた。さらに200万円未満を合計すると53.4％と全体の半数強を占めている。

表3-54　年間収入

年間収入	実数	%
49万円以下	37	3.2%
50～99万円	116	10.0%
100～149万円	208	17.9%
150～199万円	258	22.3%
200～399万円	402	34.7%
400～699万円	39	3.4%
700～999万円	4	0.3%
100万円以上	1	0.1%
無回答	94	8.1%
合計	1159	100%

年間収入を４つに区分し、男女別で見たものが表3-55である。男性は、「150万円未満」が23.2％、「150万円以上200万円未満」が20.0％、「200万円以上400万円未満」47.7％、「400万円以上」が9.1％であった。一方、女性は、「150万円未満」が36.6％、「150万円以上200万円未満」が25.1％といずれも男性より高い割合を占め、また「200万円以上400万円未満」（35.4％）と「400万円以上」（2.9％）はいずれも男性より低い割合であった。女性の方が収入が低い傾向にあることがわかる。

表3-55　年間収入（４区分）×性別

年間収入（４区分）	性別			
	男性		女性	
	実数	%	実数	%
150万円未満	51	23.2%	307	36.6%
150万円以上200万円未満	44	20.0%	210	25.1%
200万円以上400万円未満	105	47.7%	297	35.4%
400万円以上	20	9.1%	24	2.9%
合計	220	100%	838	100%

※無回答は欠損値として集計
χ^2=34.347　自由度=3　p=0.000*　＊p<0.05

（2）収入の種類

収入の種類を複数回答でたずねた。「年金（共済年金・厚生年金・国民年金・恩給）」がもっとも多く、85.1％を占め、次いで「遺族年金」が35.3％であった。ほか、「利子、配当、家賃、地代」が16.9％、「預金引き出し」が16.1％であった。

表3-56　収入の種類（複数回答）

収入の種類（n=1159）	実数	%
年金（共済年金・厚生年金・国民年金・恩給）	986	85.1%
遺族年金	409	35.3%
利子、配当、家賃、地代	196	16.9%
生活保護	51	4.4%
子どもからの仕送り、援助	36	3.1%
預金引き出し	187	16.1%
その他	38	3.3%
無回答	26	2.2%

そのうち「主な収入」としては、「年金（共済年金・厚生年金・国民年金・恩給）」が57.5％、「遺族年金」が20.8％を占めた。

表3-57　主な収入

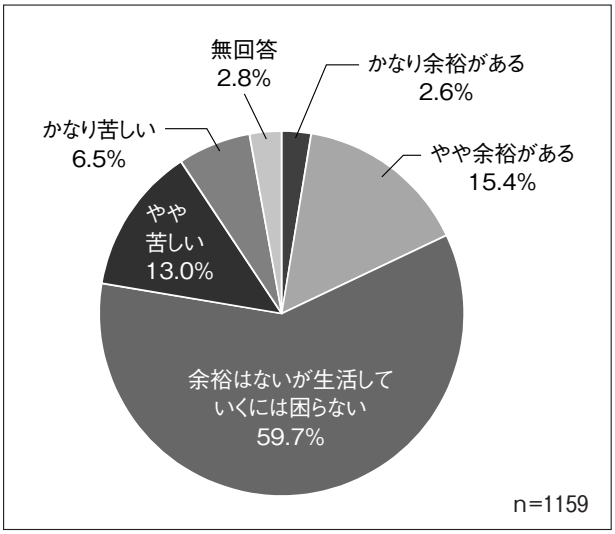
主な収入	実数	%
年金（共済年金・厚生年金・国民年金・恩給）	666	57.5%
遺族年金	241	20.8%
利子、配当、家賃、地代	34	2.9%
生活保護	34	2.9%
子どもからの仕送り、援助	7	0.6%
預金引き出し	25	2.2%
その他	13	1.1%
無回答	139	12.0%
合計	1159	100%

（3）経済状況について

現在の経済状況についての感じ方をたずねた。

「余裕はないが生活していくには困らない」と回答した人がもっとも多く59.7％とおよそ6割を占めた。

図3-21　経済状況について



「かなり余裕がある」（2.6％）と「やや余裕がある」（15.4％）と回答した人を合わせて「余裕がある」と感じている人は18％、「かなり苦しい」（6.5％）と「やや苦しい」（13.0％）を合わせて「苦しい」と感じている人は19.5％であった。

14. 地域別の特徴

ここでは、調査内容について、中央区内を４つに分類した地域ごとにみていきたい。

（１）現在居住している地域（Ⅱ−３参照）

新潟市中央区内を４つに分類し、回答者の分布を見たものが表3-58である。これによると、江東地域に居住している人が17.9％と他地域に比べてやや少なかったものの、ほかは２割半から３割弱程度であった。

表3-58　地域の内訳

地域の内訳	実数	%
しもまち	321	27.7%
上新潟島	323	27.9%
江東	207	17.9%
みなみ	308	26.6%
合計	1159	100%

（２）性別・年齢別

地域ごとに男女の構成割合を示したものが表3-59である。それぞれ男性が２割前後、女性が８割前後を占め、本調査全体での男女の構成割合も、男性が２割に対して女性が８割であり、地域ごとに大きな偏りがないことがわかる。

表3-59　性別×地域

性別	地域分類							
	しもまち		上新潟島		江東		みなみ	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
男性	61	19.2%	67	20.8%	36	17.5%	69	22.5%
女性	257	80.8%	255	79.2%	170	82.5%	237	77.5%
合計	318	100%	322	100%	206	100%	306	100%

χ^2=2.271　自由度=3　p=0.518

次に地域ごとに年齢階層をまとめたものが表3-60である。

どの地域もそれぞれの年齢階層の構成割合に大きな違いは見られなかった。平均年齢も、しもまち地域で78.7歳、上新潟島地域で78.5歳、江東地域で77.9歳、みなみ地域で77.8歳とほぼ違いがない。地域により偏りがなく分布していることがわかる。どの地域も、もっとも多かったのは「75歳以上80歳未満」であり、３割前後を占めた。

表3-60　年齢×地域

年齢階層	地域分類							
	しもまち		上新潟島		江東		みなみ	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
65歳以上70歳未満	27	8.5%	27	8.4%	22	10.7%	29	9.5%
70歳以上75歳未満	59	18.5%	48	15.0%	41	20.0%	61	20.0%
75歳以上80歳未満	102	32.0%	102	31.9%	59	28.8%	98	32.1%
80歳以上85歳未満	66	20.7%	98	30.6%	51	24.9%	75	24.6%
85歳以上90歳未満	52	16.3%	37	11.6%	26	12.7%	34	11.1%
90歳以上	13	4.1%	8	2.5%	6	2.9%	8	2.6%
合計	319	100%	320	100%	205	100%	305	100%

χ^2=16.206　自由度=15　p=0.368

（3）居住年数

現住所への居住年数を地域別に集計したものが表3-61である。しもまち地域、上新潟島地域でもっとも多かったのが「50年以上60年未満」であり、それぞれ22.8％、22.5％を占めた。江東地域では「60年以上」と回答した人が26.0％ともっとも多かった。みなみ地域でもっとも多かった回答は「30年以上40年未満」29.6％、次いで「40年以上50年未満」26.7％であった。さらに、地域ごとの現住所における平均居住年数をみると、しもまち地域41.9年、上新潟島地域42.0年、江東地域43.1年とこの３地域はほぼ近い数字であったが、みなみ地域は33.4年であり、他地域に比べて現住所への居住年数が短いことがわかった。

表3-61　現住所の居住年数区分×地域

現住所の居住年数区分	地域分類							
	しもまち		上新潟島		江東		みなみ	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
５年未満	7	2.2%	11	3.4%	10	4.9%	8	2.6%
５年以上10年未満	16	5.0%	14	4.4%	7	3.4%	10	3.3%
10年以上20年未満	36	11.3%	25	7.8%	18	8.8%	32	10.4%
20年以上30年未満	39	12.2%	34	10.6%	18	8.8%	52	16.9%
30年以上40年未満	36	11.3%	41	12.8%	26	12.7%	91	29.6%
40年以上50年未満	41	12.8%	55	17.2%	29	14.2%	82	26.7%
50年以上60年未満	73	22.8%	72	22.5%	43	21.1%	21	6.8%
60年以上	72	22.5%	68	21.3%	53	26.0%	11	3.6%
合計	320	100%	320	100%	204	100%	307	100%

※無回答は欠損値として処理
χ^2=154.063　自由度=21　p=0.000*　＊p<0.05

（4）住宅の種類

住宅の種類を「持ち家（一戸建て・マンション）」、「民間賃貸住宅（借家・マンション・アパート）」、「市営・県営住宅」、「その他」の４つに分類し、地域別に見たものが表3-62である。

これによると、しもまち地域では持ち家率が74.8％で４地域のうちでもっとも低く、民間賃貸住宅に住む人の割合は18.1％と高い。また、公営住宅に住む人の割合は5.3％であった。みなみ地域は、持ち家率が91.9％ともっとも高く、民間賃貸住宅は7.1％であった。

表3-62　住宅の種類×地域

住宅の種類	地域分類							
	しもまち		上新潟島		江東		みなみ	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
持ち家（一戸建て・マンション）	240	74.8%	264	81.7%	167	80.7%	283	91.9%
民間賃貸住宅（借家・マンション・アパート）	58	18.1%	43	13.3%	33	15.9%	22	7.1%
市営・県営住宅	17	5.3%	9	2.8%	2	1.0%	0	0%
その他	6	1.9%	7	2.2%	5	2.4%	3	1.0%
合計	321	100%	323	100%	207	100%	308	100%

※無回答は欠損値として処理
χ^2=43.165　自由度=9　p=0.000*　＊p<0.05

（5）本人・配偶者の最長職

本人や配偶者の最長職について地域別にみたものが表3-63、表3-64である。

表3-63　本人の最長職×地域

本人の最長職	地域分類							
	しもまち		上新潟島		江東		みなみ	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
民間企業の正社員	97	31.0%	92	29.0%	77	38.3%	93	30.8%
公務員などの正社員	26	8.3%	56	17.7%	24	11.9%	64	21.2%
契約社員、派遣社員、パート･アルバイト、日雇い、非常勤職員	42	13.4%	33	10.4%	30	14.9%	38	12.6%
自営業（家族従業員を含む）	67	21.4%	61	19.2%	34	16.9%	36	11.9%
その他	24	7.7%	11	3.5%	6	3.0%	12	4.0%
仕事をしていなかった（専業主婦・主夫を含む）	57	18.2%	64	20.2%	30	14.9%	59	19.5%
合計	313	100%	317	100%	201	100%	302	100%

※無回答は欠損値として処理
χ^2=44.951　自由度=15　p=0.000*　＊p<0.05

表3-64　配偶者の最長職×地域

配偶者の最長職	地域分類							
	しもまち		上新潟島		江東		みなみ	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
民間企業の正社員	77	30.1%	79	31.9%	49	31.4%	96	38.9%
公務員などの正社員	32	12.5%	55	22.2%	29	18.6%	61	24.7%
契約社員、派遣社員、パート・アルバイト、日雇い、非常勤職員	14	5.5%	9	3.6%	3	1.9%	7	2.8%
自営業（家族従業員を含む）	59	23.0%	52	21.0%	30	19.2%	28	11.3%
その他	16	6.3%	6	2.4%	5	3.2%	8	3.2%
仕事をしていなかった（専業主婦・主夫を含む）	9	3.5%	9	3.6%	6	3.8%	13	5.3%
配偶者はいない	49	19%	38	15%	34	22%	34	14%
合計	256	100%	248	100%	156	100%	247	100%

※無回答は欠損値として処理
χ^2=40.236　自由度=18　p=0.000*　＊p<0.05

しもまち地域、上新潟島地域では、本人や配偶者の最長職として「自営業」と回答した人の割合がともに２割であったのに対し、江東地域では16.9％とやや低めで、みなみ地域では11.9％であった。

「民間企業の正社員」と「公務員などの正社員」を合わせた正社員の仕事が最長だった人の割合は、しもまち地域では39.3％と４割程度であったのに対し、上新潟島地域では46.7％、江東地域では50.2％、みなみ地域では52.0％と半数を超え、その割合に違いがみられた。

また、配偶者の最長職についても、「民間企業の正社員」と「公務員などの正社員」を合わせた正社員の割合は、しもまち地域では42.6％であったのに対し、上新潟島地域では54.1％、江東地域では50.0％、みなみ地域では63.6％と、しもまち地域と大きく異なっていた。

かつて商業活動が活発であったしもまち地域では、自営業者が他の地域にくらべて多かった。それを反映

してか、現在も仕事をしていると回答している人の割合は、しもまち地域が10.2％と１割を超えている（表3-65）。一方、みなみ地域ではわずか3.6％で、地域による違いがあることがわかる。

表3-65　現在の仕事の有無×地域

現在の仕事の有無	地域分類							
	しもまち		上新潟島		江東		みなみ	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
仕事をしている	31	10.2%	26	8.3%	17	8.6%	11	3.6%
仕事をしていない	274	89.8%	288	91.7%	181	91.4%	291	96.4%
合計	305	100%	314	100%	198	100%	302	100%

※無回答は欠損値として処理
χ^2=10.077　自由度=3　p=0.018*　＊p<0.05

（６）生活環境についての困りごと

生活環境についての困りごとを地域別に見たものが表3-66である。

表3-66　生活環境についての困りごと×地域

生活環境についての困りごと（複数回答）	地域分類							
	しもまち（n=310）		上新潟島（n=298）		江東（n=189）		みなみ（n=284）	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
近所に銭湯がない	25	8.1%	16	5.4%	17	9.0%	16	5.6%
近所に外食する店がない	49	15.8%	25	8.4%	14	7.4%	24	8.5%
そばや寿司など店屋物をとる店がない	64	20.6%	26	8.7%	15	7.9%	33	11.6%
近所に買い物する店がない	73	23.5%	67	22.5%	59	31.2%	43	15.1%
仲間・友人などと集まる場所がない	18	5.8%	19	6.4%	10	5.3%	21	7.4%
訪問販売員が多い	15	4.8%	12	4.0%	6	3.2%	15	5.3%
防犯上の不安がある	34	11.0%	31	10.4%	26	13.8%	42	14.8%
近隣との関係	22	7.1%	14	4.7%	8	4.2%	12	4.2%
地震などの防災対策	55	17.7%	65	21.8%	40	21.2%	46	16.2%
特に困っていることはない	134	43.2%	141	47.3%	72	38.1%	153	53.9%
その他	11	3.5%	11	3.7%	10	5.3%	12	4.2%

※無回答は欠損値として処理
χ^2=88.247　自由度=33　p=0.000*　＊p<0.05

しもまち地域では、「近所に外食する店がない」が15.8％、「そばや寿司など店屋物をとる店がない」が20.6％と他地域に比べて高い割合を占めた。「近所に買い物する店がない」は、上新潟島地域では２割程度、江東地域では３割を占めた。一方、みなみ地域では15.1％とやや低い割合であった。

「防犯上の不安がある」の割合は、しもまち地域では11.0％、上新潟島地域では10.4％であり、江東地域では13.8％、みなみ地域では14.8％とやや高い割合であった。

「地震などの防災対策」については、しもまち地域では17.7％、みなみ地域では16.2％であったが、上新潟島地域と江東地域では２割を超えた。

「近隣との関係」については、しもまち地域では7.1％と他地域に比べて若干高い割合を占めている。

「特に困っていることはない」と回答した人の割合がもっとも高かったのはみなみ地域で、53.9％と半数を超えた。

（7）日常生活での困りごと

地域ごとに日常生活上の困りごとをまとめたものが表3-67である。

「生活環境上の困りごと」と異なり、日常生活上の困りごとは地域による大きな違いはみられなかった。

表3-67　日常生活上の困りごと×地域

日常生活上の困りごと（複数回答）	地域分類							
	しもまち（n=299）		上新潟島（n=305）		江東（n=190）		みなみ（n=288）	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
バスや電車、車を使って外出すること	41	13.7%	31	10.2%	23	12.1%	40	13.9%
買い物	50	16.7%	55	18.0%	39	20.5%	49	17.0%
掃除・洗濯	32	10.7%	27	8.9%	19	10.0%	23	8.0%
食事の準備	20	6.7%	27	8.9%	15	7.9%	30	10.4%
銀行預金などの出し入れ	19	6.4%	10	3.3%	10	5.3%	21	7.3%
入浴	9	3.0%	7	2.3%	9	4.7%	8	2.8%
区役所等での手続き	22	7.4%	28	9.2%	15	7.9%	29	10.1%
通院・薬とり	24	8.0%	23	7.5%	14	7.4%	23	8.0%
ゴミ出し	22	7.4%	29	9.5%	12	6.3%	26	9.0%
雪かき	109	36.5%	128	42.0%	74	38.9%	123	42.7%
特に困っていることはない	138	46.2%	122	40.0%	84	44.2%	118	41.0%
その他	8	2.7%	11	3.6%	3	1.6%	10	3.5%

※無回答は欠損値として処理

（8）主な外出手段

外出手段を地域別に見たものが表3-68である。なお、クロス分析を行うにあたり、回答数の少なかった「原付」については、「その他」に含めている。

表3-68　主な外出手段（整理）×地域

外出手段（整理）	地域分類							
	しもまち		上新潟島		江東		みなみ	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
徒歩	82	25.9%	73	23.5%	49	25.3%	60	20.3%
自転車	74	23.3%	42	13.5%	34	17.5%	57	19.3%
自家用車	24	7.6%	34	11.0%	30	15.5%	55	18.6%
バス	82	25.9%	114	36.8%	55	28.4%	78	26.4%
タクシー	50	15.8%	43	13.9%	24	12.4%	41	13.9%
その他	5	1.6%	4	1.3%	2	1.0%	4	1.4%
合計	317	100%	310	100%	194	100%	295	100%

※無回答は欠損値として処理
χ^2=36.403　自由度=15　p=0.002*　＊p<0.05

しもまち地域では「自転車」が23.3％と他ブロックより高く、「自家用車」は7.6％と低く１割に満たなかった。

上新潟島地域では、「バス」の占める割合が36.8％と高く、「自転車」が13.5％と低かった。「自家用車」は11.0％で、江東地域、みなみ地域に比べ低い割合であった。

江東地域では、「自家用車」の占める割合が15.5％とやや高めであった。

みなみ地域では、「徒歩」の割合が20.3％とやや低く、「自家用車」の割合が18.6％と全地域でもっとも高い割合を占めた。

江東地域、みなみ地域では、自家用車を外出手段とする人の割合が他より高い。自家用車の有無を地域別に見てみると、自家用車を「持っている」人の割合は、江東地域で17.5％、みなみ地域では20.8％と、他地域より高いことがわかる。

なお、運転の可否については地域性は認められなかった（付表３）。運転の可否にかかわらず、みなみ地域では主な外出手段として自家用車を選ぶ人の割合が他地域より高く、所有している人の割合も当然高くなることがわかる（表3-69）。

表3-69　自家用車の所有×地域

自家用車の所有	地域分類							
	しもまち		上新潟島		江東		みなみ	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
持っている	38	12.0%	48	15.3%	34	17.5%	61	20.8%
持っていない	278	88.0%	266	84.7%	160	82.5%	232	79.2%
合計	316	100%	314	100%	194	100%	293	100%

※無回答は欠損値として処理
χ^2=9.104　自由度=3　p=0.028*　＊p<0.05

（９）近所づきあい

近所づきあいについて地域別に見たものが表3-70である。江東地域で「お互いの家を訪ね合う関係」と回答した人の割合が38.1％と他地域に比べて高かった。地域ごとにそれほど大きな違いはない。

表3-70　近所づきあいの程度×地域

近所づきあいの程度	地域分類							
	しもまち		上新潟島		江東		みなみ	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
お互いの家を訪ね合う関係	108	34.6%	104	33.0%	75	38.1%	110	37.7%
会った時に立ち話をするくらい	124	39.7%	141	44.8%	89	45.2%	118	40.4%
あいさつをかわす程度	70	22.4%	66	21.0%	31	15.7%	60	20.5%
まったくない	10	3.2%	4	1.3%	2	1.0%	4	1.4%
合計	312	100%	315	100%	197	100%	292	100%

※無回答は欠損値として処理
χ^2=10.632　自由度=9　p=0.302

一方、近所の人に頼みごとをすることへの抵抗感については、地域による違いが見られた（表3-71）。

しもまち地域では、「まったく抵抗はない」と回答した人の割合が20.6％と４地域でもっとも高かった。みなみ地域では9.4％と１割にも満たなかった。

また、「やや抵抗を感じる」と回答した人の割合は、しもまち地域、上新潟島地域では４割程度であったが、江東地域では45.6％、みなみ地域では47.8％であった。

全体では、近所づきあいと近所の人に頼みごとをすることへの抵抗感にはかかわりがあるという結果が出ているが、地域別にみた抵抗感の違いには、さらにほかの要素もかかわっているのではないかと考えられる。

表3-71　近所の人に頼みごとをすることへの抵抗感×地域

抵抗感／程度	地域分類							
	しもまち		上新潟島		江東		みなみ	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
まったく抵抗は感じない	59	20.6%	39	13.9%	25	14.6%	26	9.4%
あまり抵抗は感じない	50	17.4%	53	18.9%	27	15.8%	47	17.0%
やや抵抗を感じる	115	40.1%	111	39.5%	78	45.6%	132	47.8%
非常に抵抗を感じる	63	22.0%	78	27.8%	41	24.0%	71	25.7%
合計	287	100%	281	100%	171	100%	276	100%

※無回答は欠損値として処理
χ^2=17.890　自由度=9　p=0.036*　＊p<0.05

B　暮らしのなかの楽しみの内容

1．楽しみの内容について（複数回答）

問24で「楽しみがある」と回答した人（416人）にその内容を具体的にたずねた。回答者の多くが複数の楽しみを寄せており、それらを項目別に分類して数えると、その総数は1713件であった。

そのうち、旅行や園芸、音楽、スポーツ、テレビなどの「趣味」が６割を占めた。なかでも旅行は104件であり、「楽しみ」全体のなかでももっとも多かった。

次に、友人と電話やメールで連絡を取り合ったりお茶飲みをしたりすることや、家族が訪ねてきてくれること、孫の成長、近所の人との交流など「他者とのコミュニケーション」が２割であった。

そのほか、食事や散歩、料理などの日常生活や、サークル、老人会や自治会、ボランティア活動など地域活動への参加、デイサービスやショートステイなど社会福祉サービスといった生活全般における楽しみを合わせて２割であった。

その具体的な内容を一部抜粋したものが「３．具体的な内容」である。なお、原則として回答者が記述した原文のまま記載している。

2．内容のケース数と上位項目

項目ごとに分類した内容について、その分類における上位の項目とケース数を示す。

（1）　趣味　　1032ケース

1位	旅行	104ケース
2位	テレビ鑑賞	103ケース
3位	読書	70ケース
4位	音楽鑑賞・楽器演奏	54ケース
5位	庭の手入れ	48ケース

（2）　他者とのコミュニケーション　　342ケース

1位	友人	215ケース
2位	家族	104ケース
3位	近所の人	12ケース
4位	ペット	10ケース

（3）　日常生活　　339ケース

1位	食事	90ケース
2位	会話	38ケース
3位	買い物	27ケース
4位	散歩	22ケース
5位	料理	20ケース
5位	サークル活動	20ケース

３．具体的な内容（抜粋）

女性	86	学校の時の友達と町を歩き食事をする事。／趣味の会との人いろいろおしゃべりする事。新潟市内を見学する。
女性	81	友達と毎日電話を３、４人に電話をしています。／又１ヶ月２回ぐらいは会って話をしています。
女性	72	自分のすきなフラダンス教室をもち、地域活性化に活動している（ボランティア）事がとてもうれしいです。
女性	85	遠出が出来なくなったので自然の景色を眺められるドライブが楽しみ。年に春秋とつれて行ってもらうことにしています。
女性	75	サッカー観戦（アルビレックスホーム戦は必ず観戦する）／今はテレビでワールドカップ。
女性	76	三味線を弾きます。舞台やホーム、ボランティア／よろこんでもらえるとうれしいです。
女性	77	外国人留学生との交流・支援
女性	81	友人、知人、いとこ達など、食べ物、読書、身近な報告など、いろいろあるので時間が足りず手紙、ｔｅｌなどとても嬉しく楽しみです。
女性	75	趣味の教室に通っている。絵画、俳句、書道。食事会（趣味を同じくしている方）／旅行（平均１ヶ月に１回か２ヶ月に１回）
女性	79	食推の一員として、地域の人に、調理実習や話し合いをする。／町内の神社の社務所を借りて、月１回集まり、10月は日帰り旅行、１月新年会を致します。
男性	77	ボランティア活動に参加できていること
男性	86	高齢者福祉大学（今年も開催を楽しみにしております）
男性	77	楽しみ＝苦しみ／土曜～日曜は、外泊、今年で20年目／田舎で暮す
女性	73	孫の成長が楽しみ／子供に対して少しでも役に立つ事があればしたいから
女性	82	早朝より１日ラジオの暮らし、テレビは目が良くなくて（夜だけ見る時間）、日常は歩行ができず、食事の楽しみは大きい。
女性	80	昔の職場の友人との電話連絡、情報交換、月１回昔の職場の友人との食事会。／いまは週１回スポーツ教室の帰りに囲む、若い人とのランチ。
女性	74	コーラスに参加している。コンサート、音楽会等のイベントには出向いて、楽しみやパワーを吸収している。旅行、美術展等も色々楽しんでいる。
女性	83	友人が集まり、おしゃべりをしたり、食事会をしたり、花見に出かけたり、楽しんでいる。
女性	78	書道教室に通うこと。ヒマつぶしに通い始めましたが、やっているうちに楽しくなりました。
女性	89	体調の良い時に編み物をする事。頸椎損傷で手、指先が痛いが、少しずつ動かしていた方が良いので…、それが出来る編み物が楽しい。
女性	78	カラオケ教室を持っている１ヶ月２回。年１回文化祭と周年記念発表会をする。旅行と食事の会のリーダー１年旅行２回、食事会６回～８回／チャリティショーのステージで歌う事。年間20本／絵手紙を書いて多くの友人に出す。花を何十種類育てている。
女性	68	すきな仕事が出来る事
男性	85	ヘルパー、ボランティアさんが来る時、ショートステイに行く時。
男性	77	社会貢献に充実感達成感がよろこびとなっている。
女性	66	ダンスに行く事／家事援助に行く事で社会参加している。少しは役に立っていると感じている。
女性	79	月１回グループの人（３～４人）とお会いし話す事（グループ３つ）／年１回積み立てをして旅に行く（４人グループ）／ほんぽーと（中央図書館）から本を借り読書をする
男性	84	①水墨画。スケッチに行き、その土地の風景（季節、天候、時刻）によっても変わる。感動を画にする事（なかなか思うようには描けませんが…）。／②カラオケ。詩の内容を想いうかべて、お腹から声を出して歌う。／１人で家にいるより、大勢の中にいると楽しいから。只いつまで続くかな。
女性	68	友人達と月１回位集まり、お茶のみをする。／月１回ランチに出かける。／年２回旅行に行く。
男性	85	お茶の稽古日に掛け軸。日常感じたこと。茶の文化等の話をその都度話すこと。つい声が大きくなりお腹も空く。弁当持参。上紙の絵を描くのも毎週の楽しみであり、テーマを考えるのが、苦しみであり、また楽しい。

女性	79	１週間に４～５回小学校の友達とコーヒーを飲みながらお話ししています。１～２時間。／車で10分位の友達の所へ時々行って、又お話に花を咲かせます。
女性	88	友達の交わり。新聞、テレビなど、料理番組、ニュースなど。歌謡番組など、至福の一時で一緒に声を出して歌います。
女性	76	毎日３～４人で行っているウォーキングの時間に、おしゃべりをしたり、大笑いしたり、とても楽しい一時です。
女性	78	気心の知れた友人たちとの集まり（食事会）／趣味の会への出席／旅行／シネマ鑑賞
男性	77	足腰がしっかりしている間は、なるべく旅行するように努めています（今は国内だけ）。
男性	82	毎日好きなものを自分で料理して食べる。／週一回の娘からの電話／一か月１回位の自家用車で県外の温泉巡り。
男性	88	四国88ヶ所巡礼の仲間が日本全国にいます。絵手紙や写真などで文通している。
女性	84	手紙書く。／新聞のコラム書写。／植木の手入れ。／自分の生活すべてを老後の修行と心得、感謝しながら生活を続けています。
女性	65	友人と映画／旅行／食事会／庭の手入れ／猫の飼っているので、会話は楽しいです。家に帰っても待っていると思うと。
女性	95	週２回デイサービスに行き、皆様とお逢いする事。88才までは民謡等、マージャンと楽しみもありました。その時若い仲間の人、二人が電話等、又我が家を訪れてくれるので、お互いに楽しくております。
女性	77	お花を育てて眺める事。／TVで映画を見る事。／ごくたまにフルートを吹く。現在は月２回福祉センターで太極拳をさせていただいております。とても楽しく、体調もよい縁で
女性	78	昔話を子供達（幼稚園や小学校に出向く）。お茶を自宅で友達と月２回楽しんでいます。
女性	70	毎日感謝して心をうきうきして楽しんで、毎月すごしています。
男性	77	散策、川辺などをウォーキング。祭りなども大好きでちょくちょく行きます。他、イベント会場などへパワーをいただきに。
女性	80	毎週火曜日に手芸の会を自宅で教室を開き、５人（友達）が集まり、お話等、手を動かしながら、一日を過ごす。
女性	79	趣味のスポーツ。55才から始めた卓球。さすが80才になると体の衰えで疲れる近頃です。
女性	72	生け花サロンを自宅で開き、花を生けて談笑すること。／日本国内、外国旅行（殆ど毎月交互に）、写真プリントなど。／展覧会観覧。／シャンソンを歌ったり、聴いたりすること等々。
女性	70	娘夫婦と孫３人がとなりに住んでいますので、休日になると、買い物、アルビ観戦等、一緒に出かけます。又その他の子供達や孫７人が遊びに来てくれます。今はとても幸せだと喜んでいます。
女性	82	１．週１回のマージャン、友人の家でやります。／２．週３回の社交ダンス、教室で先生と踊ったり、友達とのお話や食事会です。／３．旅行、主に海外へ船（飛鳥）で出かけます。
女性	75	週一度、手編みクラブで仲間と会う事。／友人を大切にして、時々旅をする。／自治会の集いには出席して、近所の方と親交を深める。
女性	82	友達と会食、おしゃべり。昼間、体操らしき活動（民踊など）、少し自分を向上させる様な機会が欲しいが、その様な友達が少ないので物足りない。
女性	78	家の近くに家庭菜園を持っています。朝晩、野菜に語りかけております。草取りも大変ですけど。
女性	80	子供、孫とメールでやりとりして楽しんでいます。またメール友達と話しては出かけたりしています。
女性	83	お花教室を40年近くやっていたので、花展を見に行ったり、生徒さん達がよく遊びに来てくれるので、ちょっと忙しすぎるくらいで喜んでおります。
女性	85	コーラスの会の参加者と一緒に歌ったり、食事をたまにいっしょにとること。また大正琴の会では、いつも昼食を一緒にと色々の世間話を耳にすることができること。
女性	90	料理番組をみながら、自分で作ること。夕食に日本お酒一杯、一合の半分位です。夕食後のテレビのクイズ、スポーツ番組を見るのが楽しみです。
女性	67	毎日のようにスポーツをし、時々子供の所へ行き孫達に会う事を楽しみにしている。
女性	74	毎日曜日に子供（娘）が来てくれること。月一度位のペースで小学校１年の女の孫が、顔を見せてくれてお話して遊ぶこと。整形外科で、毎日会う人達とほんの、ちょっと会話して明日の元気をもらう事／前に読んだ好きな本の読み直し。
女性	83	庭の木、草花の花を咲かせる／思う形に育てる／それぞれの生命を感じる。

C　自由記述について

１次調査の調査票の最後に、区役所などの行政、社会福祉協議会に対する意見や地域での困りごとを自由に記入する欄を設けた。この自由記述の回答者数は278人で、全体の２割弱を占めている。

これらを（１）行政・福祉・医療サービスについて、（２）日常生活について、（３）地域生活について、（４）経済状況について、（５）生活上の不安について、（６）住宅に関する問題について、（７）その他に分類し、それぞれ件数を示したものが以下である。なお、１つの回答には複数の意見が記載されているものが多く、それらを項目ごとに数えているため、件数の合計と回答者数は一致しない。また、原則として回答者が記入した内容を原文のまま記載しているが、固有名詞等については個人を特定できないように加工した。

１．分類

（１）行政、福祉、医療サービスについて	138ケース
①行政に対する要望・意見	58ケース
②民生委員について	28ケース
③社会福祉協議会（の事業）に対する要望・意見	23ケース
④社会福祉サービスについて	19ケース
⑤医療・病院関係について	10ケース
（２）日常生活について	101ケース
①現在の生活状況について	23ケース
②除雪について	21ケース
③健康状態について	18ケース
④買い物について	14ケース
⑤ごみ出しについて	12ケース
⑥食事について	４ケース
⑦掃除について	３ケース
（３）地域生活について	97ケース
①町内会について	30ケース
②近隣関係について	23ケース
③生活環境について	19ケース
④交通・外出手段について	13ケース
⑤防犯・防災について	６ケース
⑥その他	６ケース
（４）経済状況について	37ケース
①税金、社会保険料について	14ケース
②現在の経済状況について	13ケース
③年金について	10ケース

（5）生活上の不安について　32ケース

①将来に対する不安について　23ケース

②緊急時に対する不安について　9ケース

（6）住宅に関する問題について　10ケース

（7）その他　14ケース

2．具体的な内容（抜粋）

（1）行政、福祉、医療サービスについて

①行政に対する要望・意見

男性	75	近所に新潟市役所の分室があるが、地元についてもっと積極的に「面倒」をみてもらった方が良い。／「役所の分室」の延長的ではなく、もっと地元にとけ込んだ会合やセミナー、つどいの会などを開けないものだろうか。考えてみてほしい。
女性	79	１人で生活出来なくなったら、すぐ入所出来るような介護施設の充実を、行政、福祉協議会に心をからお願い致しております。
女性	87	何も出来ない私共、高齢者に気を使ってくれているこの頃、有難いと思っていますが、今は案が色々出る程度、元から先、具体化してよい世の中になる様希望しています。
男性	76	行政は地域住民の要請を早く処理してほしい。机に向かってばかりでなく現場に出てほしい。
男性	86	市の福祉会館で我々高齢者を対象に研修会（施設見学をかねた）講習会を開催して下さい（過去にも実施した）。私は２回位受講いたしましたが現在OB会として月１回程度食事をしながら話し合うのを楽しみにしております。そして友達が増えるのが楽しみです。是非研修会、講習会、見学会等をお願い申し上げます。大勢の高齢者は希望していると思います。今年も是非実施して下さい。
女性	79	街路樹の落ち葉に大変困っています。老人としてホウキの買い物にも困り、何処に売っているやら。お店もない。市として何とか考えて頂きたいと思います。
男性	70	自分の町内で空き家等を市（行政）が借り上げて、高齢者が半日でもよいから協力し合って過ごせる場所があれば、自然と老人同士が話し合い（悩み）、助け合いなどが出来るのではないかと思います。
女性	80	個人のことになりますが、子供が他県にいて、１人暮らしですので今は健康で友達おりますが、年も取ってきましたので、市との連絡でベルが取り付けられると聞いております。どのようにすればよいかおききしたいのです。
女性	80	病院、買い物等に行く場合、タクシーを利用していますが、市の方で負担して頂けないでしょうか。
女性	68	介護（入所）施設の増加。一命はとりとめたとしても障害で在宅は難しい状況の時、１人暮らしの人には優先的に入所出来る様に施設の増加を要望致します。／社会のシステムの向上を望む。医療の向上に比べると遅れている様に思いますので、是非ともお願い致します。
女性	83	年に１回（４月下旬）、下水道掃除が行われますが、私の家は道路に面している為、３～４間距離を私のところでやらなければならないのです。コンクリートの蓋がしてあり、ゴミも入っていないので、最近の２、３年間は、掃除はしていない。老人で出来ない。しなければならないのでしょうか。県道であり、行政でやってもらえないのでしょうか。
男性	77	高齢者にもっと生活資金の（行政で）貸し出しをして欲しいです。
女性	74	夫の死後、各種機関から手続きの書類が届けられましたが、今まで目にした事のない文字や文章で理解するのに苦労しました。それまでの不勉強の為なのも解っておりますが、平易な表現はできないものでしょうか。
女性	81	ゴミ出しの収集カゴ、２つを別々に並べる工夫をすればいいかもしれないが、町内で２つを重ねておくようになってので、ふたのカギが編み目にくいこんで朝それを出すのに大変である。市へ連絡したが、どんなカゴかわからないとの返事。収集者の人にカギの出てる方をお互いに外側にしておいてもらえないかお願いしたが市から指導がないとの返事。

男性	81	他の都道府県では、高齢者の生活について、積極的な相談のアプローチがあると聞きます。たとえば１人暮らしの生活状況、電話機の設置、日常動勢（電波）の把握、火災報知機の設置、食事の提供等、いろいろと接触があると聞きます。私は現在まで一度たりともそのような援助？を受けた事はありませんし、紹介もありません。でも自分自身は現在の境遇に責任があるので行政より面倒をみて戴くのは、心苦しいとも、一生懸命です。食事のことでは一番大切な命を守る糧ですが、一番困っている事です。経済的には生活は困窮を極めてあります。今後の事を考えると心苦しい事ばかりですが、頑張ってゆくしかありませんよね。
女性	73	市役所から年金その他のお知らせが多すぎます。多い時には週に何通も郵便が来ますが、個人情報等まとめていただきたいと思います。そのたびに切手をはり封筒に入れ郵便したりせず、急ぎでなければ、上記のように一個人まとめて送って下さい。税金が使われる訳ですから、その点もよく考えてください。
女性	67	行政の通り一辺倒の対応に腹が立つ。／一例…雑草刈りの業者（市から委託）に反対側の道の雑草一株もついでにお願いしても拒否された（梅雨の末期大雨降るとその一株の雑草が側溝の流れを止める為）。
男性	79	自主、独立、自分が出来ることはやりたいと思っていますが市の行政が大きくなって（政令市）、地域に対するおまかせ・グループ等、そのサークルに補助金やその他グループの行事等に金を使いすぎるのではないか。災害時の避難訓練・火の用心・スポーツなどの住民独自の活動にもうすこし考えて税金を使っていただきたい。来年度から災害報知器が義務化されますが、老人家庭にどれだけの補助があるのか。取り付け料、業者に頼むと、いか程か。最近消防署がパンフを持参したこともありました。お知らせ下さい。
男性	70	地方行政は勉強しないので、何もあてにすることはない。
女性	77	今のところ健康に恵まれており、保険証は使っていない。母が在宅療養だったため、今はいろいろなシステムも、福祉施設もでき、喜んでいる。ますます高齢者が住みよい社会と思える様、宜しくお願い致します。
女性	87	区役所もその他親切にして下さり感謝しております。
女性	81	福祉会館の近所の住人ですので、福祉会館の方には有難く感謝しています。困った時に相談とかしても良いですか？
女性	82	新潟市は比較的福祉行政に力を入れていますので、安心して暮らしています。／病気になった時の病院、施設の増設を希望します。
男性	81	市の福祉行政に感謝している。／民間警備会社と契約していて10年になるが、２回程救急車にお世話になった。ありがたかった。しかし、金費が高価で気にかかる。行政も民間警備会社の様なシステムを作ったら助かる。／市民のために益々のご活動をよろしくお願い致します。
女性	78	もっと身近に相談が出来ると良いと思う。
女性	89	手続きがよくわからないので、税務署や市役所に行くのは好きでない。子供にまかせる。
女性	72	市窓口、総じて丁寧になったようですが、役所の方の勉強不足が感じられます。
女性	67	働いている為、行政への手続きが土日、休日の為、時間がとれない。子供にたのむかしている。
女性	73	困る事や突然の病気など、お願い出来る関係でも、その事柄が他へもれたり広まる事があるので、早くお願いし、かけつけて問題に乗ってくれる行政の窓口があれば安心。
女性	73	生活保護をうけています。生活はやっとですが、医療費をだして下さるので大変有難い事です。ありがとうございます。
女性	74	生活保護を受けたいけど、区役所に行く勇気がない。話をするのに長い時間がかかる。全部を話しても、受けられない事もある。
男性	69	生活保護者の方々は医療費や家賃など保護され、待遇が良い。
女性	70	生活保護者の方が国民年金より待遇が良いのはおかしい。
女性	72	区役所さんに、生活保護と云うのは収入どのくらいの人から？いつも疑問に思っております。生活保護の金額と、厚生年金の最低の人も保護より下の人もいます。よく耳にした事は働いて、13万円ぐらいしかない。それなのに生活保護の人達も13万円ぐらいだったら仕事しないで、保護をもらった方がよほどいいよ!! なんて云う事を聞きました。私もそう思います。
女性	68	生活保護を受けながらゆうゆうと生活をしている人を見ると腹が立つ。基準がわからない。でも元気のうちはまだ働こうと思うけど。以上です。
女性	79	人の話によると生活保護を頂いている方の事も耳に入ってくる事があります。「何故」と、私達も頂いている金額よりも、生活費がずっと多いと聞いた時は耳をうたがいたくなってきます…。

男性	77	月１回程度は現状確認に来られることを希望します。いざという時の避難先やその方法についてより細かな周知をお願いします。
男性	74	無料入浴券の配布は増やしてほしい（１ヶ月に４枚は少ない思う。最低でも10枚以上増やしてほしい)。
女性	77	町の活性化や子供達の充実化も大変必要な事だと思いますが、私達老人の様には低所得層への配慮ももう少し欲しいと思います。１人暮らしですので、例えば冬場だけでも入浴券を多くして戴けるとか、何しろお風呂場が暖まった頃にはもう出る時間となり、冬場のお風呂には、家々風呂があってもとても大変です。
女性	87	市から１年分の入浴券が頂けますが、風呂はありますので券は頂きません。医者、買い物等、バスを使用します。バス券が頂きたいです。

②民生委員について

男性	73	担当の民生委員の方も訪問してくれるし、家の前をよく通るので、時々話をしていくので良い。
女性	69	民生委員の人はどの様にして選ばれるのか。スーパーで会えば買物かごをのぞかれたり、家へ来れば家の事をのぞき込む様な感じだったり、相談は直接役所の方へと思っているが、自分がどんな状態になるかわからないしどうすれば良いか。民生委員の人がどの様な人柄かわからないので信用できないので家の中には入れたくない。
女性	75	民生委員の方が月に一度訪問して下さり、色々と雑談もして下さるので有りがたく思っています。
女性	81	私は多くの病気を持っております為に、民生委員の方には殊の外お世話になっております。気軽に他の人の出来ないことをしてくださり感謝です。
男性	82	いついかなる事が起こるか分かりませんが、町内の民生委員を通してお助け願うような時もあろうかと思います。そのような時、なにとぞよろしくアドバイスをお願い申し上げます。
女性	80	今のところ体もまあまあ健康ですので特に困っていることはございません。毎月民生委員の方に優しくお声を掛けて頂いて感謝したしております。
女性	78	民生委員の方がいつも笑顔で尋ねてこられて、本当にうれしく感謝しています。
男性	77	これまで通り民生委員さん等による、近くの人による目配りをお願いします。
女性	72	民生委員の方がお越し下さり、お話や愚痴を聞いていただき、ありがたくうれしく感謝いたしております。
女性	74	この地区は人口が減少してきておりますが、地域の民生委員の皆さんがとても良くしてくれております。
女性	84	新しい民生委員は顔を見た事もありません。アンケート用紙も私より若い人の所へ届け始めて、民生委員の方に会うような状態なのです。１人暮らしの私にとっては月１回位声かけをしてもらいたいです。
男性	85	民生委員は個人差があるが、地域に於ける存在感はない。
女性	81	現在の状態でどの様なご協力が受けられるのか具体的にあまりわかりません。ただお隣さんが民生委員さんでもあり、町内でもわりと熱心に活動されている所と思いますので、こちらが困った時は教えていただけることと思います。
女性	77	民生委員の方が良くして下さいますので、今のところ困っていることはありません。
女性	84	民生委員の方が毎月必ず様子をみにきて下さり、有難く思っております。
男性	80	よく民生委員の方が声をかけてくれます。時々、自分から訪問し、主人と囲碁などをして楽しんでおります。
女性	79	民生委員の方が２ヶ月に１回訪ねてきてくれることはありがたいと思っています。
男性	86	市の関係でいろいろめんどう見てもらって感謝しています。特に地区民生委員の方々にはよくしてもらっております。但し、世相で仕方ないが、近隣の会話がないのがさびしいです。この点もっとなんとかしてもらいたいと思います。
女性	78	民生委員の方が毎月おいで下さり、とても親切にして下さるのでありがたいと思って居ります。感謝致しております。

③社会福祉協議会（の事業）に対する要望・意見

女性	69	昨年の秋バスの中で、その日介護に行って来た家のおじいさんのことを話していた。下着が云々、家が云々、そのおじさん云々と、その人たちの話している姿を見た時お願いしない様にしたいと思った。（まごころヘルプの人の様だった）

女性	71	今後介助や介護を必要とする時、その手続き、書類が記入方法など、事前に理解しておく為の勉強会、講習を受けたい。
女性	82	平成15年椎間板ヘルニアの術後、１年間まごころヘルプのお世話になりました。その際感じたことは、本人の使用する所以外はしていただけない、ということでした。家の外の廻りは全くだめ（秋には枯葉の山になりました)。ゴミ出し、買物していただけない。
女性	80	社会福祉協議会はどの様な仕事をされ、私達の生活のどの部分を助けて下さるのでしょうか？
女性	75	困った事があった時いつでも来ていただける事が１番です。よろしくお願い致します。
女性	77	毎年、社会福祉協議会等から年末になると町内の民生委員の方を通して、「お節料理」頂いており感謝致しております。又毎月10日頃に「ヤクルト」も届けて頂き誠に有難うございます。今後共宜しくお願い致します。一寸、手が震えていますので、乱筆をお許し下さいませ。
女性	79	社会福祉協議会のことは何もわかりません。従って意見も申し上げられません。
女性	NA	もっと手厚い援助をお願いします。
男性	82	毎月ヤクルトや石鹸を頂戴して、有難く感謝しております。
男性	85	社会福祉協議会、高齢者１人暮らしの人は月１回（ヤクルト）が配られる。夏季は石けん。昨年配布された石けんを使ったところ全く泡立たず、軽石のようだった。この件は担当の民生委員、福祉協議会にも伝えたが、こんなことに金をかけるのはやめて欲しい。市の事業仕分けで廃止の対象にしてほしい。行政の自己満足といいたくなる。銭湯の入浴券の配布も中途半端（月２枚配布)。せめて10日に１枚位配布できないか。
女性	77	社会福祉協議会にはとても感謝しています。
男性	78	①アンケートは無記名で行うことが望ましい。個人情報保護の意味で配慮していただきたい。面接調査の協力は別紙はがきにでも書いて提出するなど、工夫して下さい。／②調査結果は意識調査に協力した人達だけではなく、１人暮らしの人達全員に配布されることをお願いしたい。無記名であれば当然のことと思われるが、よろしくお願いします。
女性	72	有難く思っています（暮れの品物など)。／社会福祉協議会というものがよくわからない。
女性	86	社会福祉協議会の年末の料理はとても楽しみです。長く続けて下さい（特に１人暮らしの男性は楽しみにしています)。
女性	74	社会福祉協議会の団体の名前は知っていますが、申し訳ないですが、どの様な活動をしているのか、把握できていません。
女性	81	在宅での老々介護、高齢夫婦などの生活実態の把握、それに対する適切な指導援助をお願いしたい。／昨年初めておせち料理を頂き、先ずびっくりしました。単価が解らず判断は難しいですが（まるでおチョボロのお姫様の召し上がりもののようでした)、折角頂けるものでしたら、もう少し現実に即した内容量等、充実し本当に喜ばれるようなものにして頂けたら有難いです。
男性	74	市がやっているようなのですが、毎年年末になると思うことがあります。テレビ、新聞などで、１人暮らし高齢者（70歳以上だと思いますが）にプレゼントとして「大みそかのごちそう」を届けていることが報道されますが、当方は一度も受け取ったことがありません。どういう人が受け取れて、どういう人は受け取れないのかは分かりませんが、もし資格に制限がないのなら公平性からみて、該当者全員に漏れのないようにしてほしいです。

④社会福祉サービスについて

女性	82	現在はホームヘルパーさんをお願いして居ります。１人暮らしの場合、この先介護保険サービスを利用させていただくとしても、いろいろ困りごとが多いと利用しにくいのではと心配です。
男性	76	高齢で介護認定されていない１人暮らしの老人の具合が悪い時、低料金で、或いは無料で、日常生活（食事の用意、掃除等）の支援（ヘルパーさん）をしていただける制度が欲しい。
女性	76	１人暮らしの年寄の淋しい気持を少しでも楽になる様な誰でも気楽に行ける様な施設があったらいいな。１日500円位で行ける様な施設がほしい。介護１～の人でないと駄目らしいけど、淋しい老人も１人暮らしで話を出来る様な施設がほしい。
女性	85	新聞にも住宅型有料老人ホームの記事が出ておりますが、月の支出が高額でとても入居できません。もっと軽費の老人ホームがあればよいと思っています。
女性	81	地域の福祉センターに加入しているので、週１回の元気コールがあり、感謝しています。
女性	78	介護付ホームが沢山できてきているが、高くて入れない。低所得でも入れるような施設を作って欲しい。

女性	87	今88才になりますと、まあまあ健康とは云え、足腰など弱り杖をつかっておりますので、立ち座り等が痛みますが、医者へ行く程もありませんで、１人で生活しておりますので、介護保険も使えません。掃除がよく出来ず困ります。月１回でも良いからヘルパーさんが使える様にはなりませんでしょうか。又ギックリ腰になって、ベッドも借りておりますが、自費負担ですが、介護料金で使用できたら良いと思います。
女性	73	対象になるかどうか判りませんが、１人暮らしで一番困るのが、病気の時で、普段健康のため介護保険の対象にはなりません。風邪でも高熱等で動けない時等、一時的に介護保険サービスが適用され、入院出来ると親戚に移したりの心配も不要で安心なのですが…。制度がありましたら、勉強不足で申し訳ございません。
女性	80	近くに老人ホームが出来ましたので、今から見学に行きましたが、月の使用料が20万円以上、とても重いので困りますね。もう少し安い処があるとよいのにと思っています。
女性	84	ヘルパーさんも良い方ばかりでお話相手になって下さり楽しくボケ防止になっております。
男性	71	妻は「要介護５」になって、３年になりますが、行政から家庭訪問や、暮らし向きの質問など今までまったくありません。医療費などの諸手続に対するアドバイスなどを一切受けたことはありません。地域の人の生活に行政は目配りが足りないと常に感じています。
女性	67	高齢者が増えているのに、その人たちのいろいろな施設が少ない。
女性	71	健康保険のように負担者が必要な時に全員制度を利用出来るようにしてほしい。特養や老健のように入所すると長く利用して順番がこないまま亡くなられる方もおられる。

⑤医療・病院関係について

女性	73	今年春に入院することがありました。保証人の印に困りました。すぐに２人は集まりません。病院の、手術の説明の時に、居てくれる人を探すのに困りました。
女性	72	総合病院の場合、紹介状が必要との話を聞きますが、それでは困ります。
女性	86	病気になっても、往診に来る医者がいないのでこまります。
女性	74	高令のために医療機関を数多く利用しております。配偶者と死別してから生きて行くために健康管理が一番だと思っております。３ヶ月分の医療費のお知らせが送られて来ます。多額なのにびっくりしています。現在１割負担で済んでいますが私にとっては助かっております。この負担額が現状維持出来れば幸いと思いますがいかがでしょうか。
女性	78	病気になった場合、入院すると病状に変化がなければ退院させられるが、次の病院の紹介とか、家で完治していないのに居るのは不安である。医療制度を見直して欲しい。
女性	74	糖尿病と心臓が悪いので医者にかかっております。医者代は、今は１割ですが、こんど２割になるとこまります。助けて下さい。
女性	79	近年、医者に行っても不親切です。①例えば転んで、外科や皮膚科に行っても目尻の側にもかかわらず、キズばんでも貼っておれば治ると云われ、何も薬は出ない。現在そこはシミになりました。②泪が出るので、眼科に行きましたが、問題なしとのことで３ヶ月置きに４～５回見てもらえましたが、今度は半年後に来て下さいということで、薬も頂いておりません。
女性	82	病気になった時の病院、施設の増設を希望します。
男性	73	かかりつけの病院がない。市民病院に電話で申し込んだが、ことわられたので、通院する病院がない。

（２）日常生活について

①現在の生活状況について

女性	68	１人暮らしで、友人もいますが、又、１人娘が結婚して遠くに居ますが、心配して来てくれても駐車場（来客用）がない為、だんだん友人も来なくなりました。重い荷物を移動する時等、娘夫婦が来ても、車が止められなくて困っています。人と交流するように言われますが、訪ねてくる人が少なくなりました。是非来客用駐車（一晩）出来ますようお願い致します。
女性	85	区役所、他施設などは、何となく足が重く、現在住んで居る処からバスにのり出掛けなければならないので、気持ち的にオックウです。根（性分）が内こもり的だったのですが、主人を亡くしてから、大分自分の気持ちを相手に理解して貰ふことが出来る様になりました。しかし根本的には勇気がなく、大体の事は友達や近所の親しい人と話しながら、そこから元気を貰って、何とか処理しています。堅苦しいフンイキが浮かんで、現在はとても行ってみたいと思っても、半分どうしたって駄目だろうといふ気持ちが先に走って素直になれないのが現在です。一度訪ねれば、すべて私の思ひすごしかと思ふのですが、その一歩を踏み出せない始末です。

女性	81	色々と気にかけて頂きほんとうに力強く思い感謝しております。只今は自分のことできますが、１年１年老いていくことと思い、心細い気持はしております。今後ひとり暮らしで、どうしていこうかと云う思いはあります。何かと先のことですが心配よろしくお願い致します。ありがとうございました。
男性	86	個人として「出来る事は自分で」をモットーとして出来るだけ他人の世話にならないよう今後共努力して行く積もりでおりますが、独居老人、老老介護の増加している現在、一層の細かい、然も厚い政策を考え実行されますよう希望して止みません。
女性	89	いろいろお世話になって喜んでおります。なるべく自分で出来る間は自分でも自分の事をする様心がけておりますが、だんだんと体の自由がきかなくなり、其の時はよろしくおねがいします。子供がいませんので皆親戚の方々にお世話になっております（お友達や皆さんにも）。皆様にお世話になり喜んでおります。
男性	84	私の収入はほどほどですが、自立自営を目指して、日々感謝の念を持って生活しています。困るから公的保護をなどと言うダラクした根性は大きらいです。役所の皆様ご苦労様で。ご健勝をお祈りいたします。多謝。
女性	81	おかげ様であまり困っている事はありませんが老人ばかりで淋しいだけです。
女性	83	高齢者へと進むにつれて、物忘れを始め体力も減退しております。しかし、自分で今出来る事を大切にしつつ今暫く独り居を続けたいと思っているところでございます。町内会長さんをはじめ、近所の方もお声をかけて下さる温かい皆様で感謝致しております。けれども遠くない将来市の福祉課の方々にお世話になる事と存じます。その際には何卒よろしくお願い申し上げます。
女性	91	本人は認知症の為、ほとんど記入は出来ません。私（養子）が今面倒をみていますが、私自身（77才）、病気がちで全面的に援助出来ず、半分以上はショートステイを利用しています。気が強いので、すべて自分でしないと気がすまぬ様子ですが、近頃とみに認知症が進み、買い物はしているつもりですが危険でさせられません。父の後妻で、私の母が亡くなった後、相当年のとった父の後添に昇格した為、１人住まいが長いです。洗濯もしているつもりですがやっていません。近頃は近所のつきあいもほとんどなく、家にいる時はほとんど寝ています。食事は私が運びます。
女性	83	やはり足腰がよわると不便を感じ、バス等々に乗るのが出来なくなりました。又聴力も衰えているため不便です。近所の方々とも仲良くと思えば、あまえるのも出来なくなりました。がまんをすべきなのでしょうか。みんなやさしい人達も多勢います。明るい老後をすごさせていただければと思います。
男性	79	社会福祉の方に、１年位前まで（正確の日、時は忘れました)、夕食の宅配をおねがいしていました。其の時、配達して下さるオバさん？が時間と自分の氏名を書き乍ら、元気でしたか、風邪引かぬよう、などなど、ひと声、ふた声かけて下さるのが、夕食の献立以上の、何よりもご馳走でした。杖をついてコンビニの弁当を下げている姿が店のガラスにうつる姿にがっくりして、今はパン（トースト）と牛乳か、チン？したゴハンにかしをかけています。外の方々は自分で密かに夕食をとっているようで、私は自己責任、自立、自助したい老人（男やもめ）の泣き言とは思っていますが。
女性	80	感謝。私は平成17年より１人暮らしになりました。当時物音に敏感になり、心臓がどきどきで血圧が高くなり、地区民生委員さんに相談、安心連絡システムに申込ました。以後体調も良く、係の方とは３年も相談にのって頂き安心しております。年老いて周囲の人たちに助けて頂き守られながら残された人生を大事に、毎日を無事に暮らして居ります。又蔭ながら支えて下さっている１人、１人に心から感謝申し上げます。
女性	80	32年に股関節の病で身体４級の障害者です。９年前にぎっくり腰を病んで以来慢性となり、２年前転んで、右手首骨折手術をして、現在金具が入っており、以来要支援を受けており、大変助かって感謝致しております。食事は全部作って、ボケ防止に役立てております。又この地域はみんな交流があり、出来ない事はしてくださり、民生委員の方も時折顔を出して下さいまして、大変心強く感謝致しております。
女性	86	１年１年年老いてゆくのは心細いですが、現在は何とかやっています。
女性	81	年々老齢化になり、お互い心細く感じることもありますが、できるだけお互いに孤立することのないように前向きにいこうと思っております。何かわからぬことに遭遇したら相談しに区役所へ直接いって伺います（民生委員を通して)。／昨年８、９、10月と３度転倒し（幸い頭は打たなかった)、腰と膝の痛みで、現在治療中ですが、骨に異常なく老齢でも何とか生活しています。本年は転んでいません。一番気にすることは、動けなくなった時ですが、その時はまわりの方のお世話になるつもりです。よろしくご教示下さい。

②除雪について

女性	80	今冬の大雪ではとても除雪できず、又、除雪しても雪の捨て場所もなく困りはてました。タクシーも来てはくれませんでした（４～５日は籠城いたしました)。住宅地の除雪についてもご配慮下さい。
女性	89	雪よけ車が玄関の出口をふさぎ堅くなった雪を取りのぞくことが出来ません。

女性	79	除雪車の雪が玄関道路に高くつまれ困ります。体力ない老人です。除雪で何度も腰の痛みをおこしています。
女性	81	今年の様に多雪の場合、特に困った事は小道故に除雪車もまず家の前の除雪でも、高令、其の他病気もあり、近所に頼り事再三有り、細かな行政をお願い致したいと思います。ごみ出しの時は特に足腰が悪いため、苦労致しました。こんな事は、毎年あるわけもないですが、雪路の保護対策をもっとよくお調べして頂きたいと思います。私など未だ良い方で御近所でも本当に困って居られる方々が多いです。予算など大変でしょうが、何卒御配慮お願い致します。
男性	86	新潟の中央区です、雪が消えた頃になると、とても歩きにくくて歩く事が出来ません。除雪しても歩けませんので、歩道にも雪を取ってもらえる様にしてくれる様にお願いします。
女性	75	今冬は特に雪が多く困りました。元気ですので、家の前の雪除けは出来ます。しかし、除雪車が通った後は、硬い雪がうす高く玄関をふさいでしまい、乗り越える事も、除ける事も出来ませんでした。お隣さんの若い力をお借りしました。本当にありがたかったです。前置きが長くなりましたが、除雪車がふさいだ後の道路へ出る為の道づくりをキメ細やかにお願いしたいです。又、露路に積もる雪のけ、ボランティアを募って、雪除けして頂くとありがたいです。
女性	79	除雪について。今までも感じていた事ですが、玄関前出入り出来る様に除雪していても、そのあと除雪車が来て、壁が出来、出入り口をふさがれるので、又人が１人通れる程度にやっと道をあけていたが、それが今冬のように５日間連続では大変でした。日を追うごとに雪は固くなり、その固い雪壁を毎日あけるのは無理で、最後出入り出来なくなり困りました。
N. A.	86	今年の大雪の時、家の前は、近所の人が除雪してくれましたが、道路の除雪が悪く、ごみ捨てや買い物等で無理をして、足腰が急激に悪くなり、外に出る回数が減りました。大雪の時に高齢者でも安心して暮らせるような対策を望みます。
女性	73	雪除けの手伝いサービスを考えて頂けるとありがたいのですが（今年は殊の外大変でした）。
女性	75	今年の冬は大雪で本当に大変でした。狭い道なので自分の前だけよけても人様の前を通らなければ、ごみすて、買い物にも行く事が出来ず大変でした。雪かきをする人は同じ人だけなので、みんな協力して頂きたいです。各自が自分の前だけでもよけてほしいとお願いしたいです。今迄は元気だったので１人で雪かきも頑張って参りましたけど、今は手が痛くて無理できなくなりました。今年の雪かきは手をかばいながら少しづつ休みながら出来ましたけど、又大雪になったらどうしようと思い不安です。
女性	78	老齢になったため、除雪が一番負担になります。下水掃除など。
男性	86	除雪がもっと細部まで来て欲しい。
女性	74	除雪時、私道ということで道路の除雪もしてもらえません。外出も出来ず困っています（特に食品の購入が困る）。除雪をして、腰痛、四肢痛になやまされました。
男性	73	雪かき、重量のあるものを移動が困る。
女性	86	大雪の時は道をあけるのが少々人並みには出来ませんが、子供が来てくれるのを待つか、雪のとけ始めるのを待つしかありません。それが少々つらいです。
女性	84	今年の冬の様に大雪の場合、道路（小路）の雪除けが老齢の身には大変でした。
女性	77	冬、歩道の積雪、車道は除雪車が早朝除雪し、道路に雪を置いてゆく。歩行者は歩くところがないので、車道をあるくのがキケンである。老人は買い物に困る。
女性	88	大量の除雪時、出入り口から車道迄の狭い区間、人１人通れる除雪をお願い出来たらと思います。賃料支払いのこと。

③健康状態について

女性	79	少々体調が悪くとも、①腰痛、②頭痛、③風邪気味でも、動くのがおっくうで我慢するしかありません。／往診して貰うとお薬をもらいに行かねばなりません。仲よし友だちも年配者だけで行動力がない人達だけです。（だから気を付けて日々を過ごしています。）
女性	84	私は昨年の12月に駅へ行く為に近くの停留所からバスに乗ろうとしたら、新潟24年ぶりの大雪。私の胸以上の雪の山、やっと上まで登り降りようとしたらすべって全身を強打し、右上腕骨折。痛い痛い毎日。ドライバーさんが雪の山を少しでも除けて下さっていたらと思います。治癒には１年以上かかるとのこと。通院を続けています。
女性	74	今のところ健康で何の不自由も感じておりません。感謝だけです。
女性	81	地元には公共の施設が近くにありません。今は１人で遠くでも出掛けられるのですが、近くにあるといいのですが、だんだん体力がなくなると大変です。

女性	79	吐き気、目まい、腰痛等々、時たま体調が悪い時はこのまま死ぬのかなと不安になることがあります。ド忘れでなく、最近は物忘れがひどくなり、大事なことを忘れたり、銀行の通帳をどこへ置いたのか全く忘れてしまい困ります。
女性	77	ヒザ腰が悪いので玄関の階段に手すりがあればと思っています。右ヒザは５月中に３回も水を抜きました。
男性	92	永年脚の左膝を患い、永年整形外科に通院しております。昨年よりこの方子供達の厄介になっています（送りと迎え）。しかし、だんだん悪化の途をたどり、最近は頼りの右膝も悪い傾向が案じられてなりません。／私の主たる病気は脳梗塞です。近くに、脳外科病院の再来時、血液検査とMRI検査が予定しています。
女性	80	只今右足変形型膝関節症及び踵等が悪く、何時左足も変形型となり車いすになったら１人で生活が出来ないため老人ホームに入らなくてはならないと常に頭にあり、先のことを考えるととても心苦しくつらい日々を送っております。

④買い物について

女性	79	１人で出来なくなった時、買い物・家事の手伝いを短時間でもよいので、お願いしたい。
女性	70	近くに店がなく、非常に不便のため、小さくてよいので、スーパー的な店があるとよいと思う。
女性	84	生協に野菜や牛乳は配達してもらっています。
女性	79	日常の買い物に、現在は車で行けるが、車に乗れなくなった時、歩いて行ける距離にスーパー等が１つも無い。学校町周辺には個人店も無くなってしまった。
女性	86	近所にスーパー等がないので、ちょっと困っております。時々子供が買って来てくれるのでなんとかたすかっております。
女性	84	買い物がとても不便、重い物が持てないため、どうにかしてもらわれないでしょうか。よろしくお願いします。
女性	80	近所に歩いていける処にスーパー等、日用品、食品等のお店があったらよいと思って居ります。
女性	80	近くに食料品、衣料品、雑貨を買うところ無い。買い物難民です。
女性	70	食料品を買う店がない。
女性	84	買い物がすぐできる店があるととても便利だと思う（近くに店がない、生協の宅配を利用）。
女性	86	町内に（近所歩いて10分位）あった、雑貨店が閉店してしまい（酒、野菜、冷凍物等）、歩いて30分以上のスーパーしか買い物が出来ない。

⑤ごみ出しについて

女性	89	80才過ぎて足腰の悪い人がゴミかごを次の所に持って行く事が出来ないので困る。
女性	75	朝のゴミ出しで体の具合が悪い時はどの様な援助があるのでしょうか。ゴミ出しは時間が決まっているのでヘルパーさんも難しいと思いますが…。
女性	77	「ゴミ」の分別がややこしくて、とまどう事があります。あとは特にありません。暮れのゴミ収集は助かります。きめ細やかなご配慮に感謝して居ります。
女性	84	私の町の人々は共に老いてゴミ出し当番は助けて頂いているものの命がけです。／有料でいいから（１回千円払います）制度的に助けてほしいです。
女性	85	古布、古着の回収をして下さることは、有難いことですけど、私の様に１人暮らしでは利用できず、せめて３か月～６か月に一度で良いのですから、町内のどこかで回収出来る様にお願いします。
男性	91	ゴミの日、毎週、生ゴミの日や、空き缶、プラの日、外ゴミ出しをやって居りますが、市で私共のような人にチケットを発行出来ないものか（生ゴミ、プラゴミ、空き缶等を出す）。大型ゴミの時は外まで出すのに自分では不可能。ゴミ出し用チケット発行をやってください。
女性	85	ゴミ回収を自宅前でしていただければ助かります。
女性	79	足を怪我した時、近所の方でも１週間位のゴミ出しを頼むのは抵抗を感じます。家の前に出しておけば、市の人が集荷してくれる様なシステムがあればと思いました。
女性	79	ごみ分別がよく分かっていない人が多数いる。分かっていても捨てる不届きな者がいる。遠方から自転車で運んできたり、車で来て投げ捨てるので、とても困る。ごみ当番を順番でやっているが全くしない人（アパート）達もいるので、すぐ番が来る。身体的にできなくなったら困るのが心配です。

男性	92	ゴミは一切長女が持ち取り処分してくれておりますが先が案ぜられます。
女性	90	近くにスーパーが欲しい。ゴミ出しの場所へ行くのに遠い。特に冬に道が凍った時に。

⑥食事について

女性	79	１人で出来なくなった時、給食を家に届けて頂きたい。
女性	84	夕食は宅配便で、１食525円でとどけて頂いています。とてもすばらしい献立です。
女性	80	今は元気に公民館を利用していますが、食事がとてもめんどうになります。年寄りの人が行ける食堂があるとうれしいです。

⑦掃除について

女性	84	お掃除は民間清掃会社の人に２週に１回２時間頼んでいます。
女性	82	家と庭の掃除手入れに困っています。お金は未だありますが、人を頼むと多額のお金が要りますので、安いところとかボランティアがあれば助かります。

（３）地域生活について

①町内会について

男性	80	80歳以上のひとり暮らしの老人に町内の班長等の役職をはずして欲しい。
女性	80	年齢と体力には個人差があると思いますが、一応80才以上の１人世帯は「清掃当番」や「隣り組長」を免除していただけると有難いと思います。高齢者の１人世帯が増えているので難しいと思いますが、年齢で区切っていただければ幸いです。
女性	77	ゴミ当番について、少々負担を感じます。
女性	69	雪かき、草とり、掃除当番でまわってくるけど、パートで早朝出勤なので出来なくて、心苦しく思っています。
女性	77	住んでいる町内はどんどん高齢化が進み、現在何とかやっている町内会の仕事、ゴミ出し、ゴミ当番等も体調不良になれば、１人暮らしでは、なかなか酷しいものがあります。回覧板も月１回位にまとめられないかと思います。
男性	86	特にないが町内会の方々が良くやって下さることに感謝している。
女性	76	地元の地区では、個人の情報を書いて、各自冷蔵庫等に保管し、緊急時に備えていると聞きました。市内全域に徹底すれば、即対応出来ると思いますが、いかかでしょうか（氏名、年齢、連絡先、血液型、かかりつけ医、病歴、服用薬等）。
男性	85	町内の構成人員は、少子化現象が極端にあらわれ、子供が極端に少なく、65才以上の老人が多い。従って、町内行事などには支障を来たし運営も出来なくなる。
女性	75	町内会の活動が全くわからない。会費がうまく活用されずにいる。社会福祉協議会の年数回の寄付金を町内会に依頼し、金額も○○以上としているのはおかしい。
女性	80	特にありませんが、地域が老齢化して助け合いが出来なくなっている。たとえば、この冬の大雪の時でも町内からは１人も見舞い（どうしていますか？）とかはなかった。ちょっと強い地震のゆれがあっても…。大雪で思い出しましたが、町内会長が、区からの通達で「あぶないから（骨折とか）、年寄りは３日間家から出ないで下さいとのことです」と云って回っていましたが、その時思ったことは、それならおにぎりの２個ずつでも配ってくださったらなあと思いました。
女性	84	足腰もまだ普通で不自由はありませんが、町内でごみ当番が２ヶ月に１度位の割合で廻って来ます。７時まで、網やサークル出し、終わって道具を片付け水まきをします。普通のお年寄りと違って、夜はおそくまで起きて７～８時間位、ぐっすりねむれますので、ごみ当番の日は６時半頃に目覚ましをかけて起床しますが、冬の寒い日はごみ当番の為に寿命が縮むのでは？と云う思いがします。この７月は第２週目、火水木金と４日間、又目覚ましのお世話にならなければなりません。
女性	66	私の住んでいる町内では顔さえ知らない人が沢山いる。何の集まりもなくコミュニケーションがない。忘年会や新年会もなく、とても淋しく感じる。困った事ではないけども、少しはあった方が良い様な気がする。前に町内会長さんに聞いた事があるが皆さん年を取っているのでとの事。
女性	85	町内自治会員を交互に担当しているシステム、高齢になってきて苦痛を感じるが当番制なので仕方ない。

女性	75	下水掃除について。今迄はお隣さんと２人でしていたのですが、体の方が悪くなられて、私１人で掃除していたのですが年をとってきて手も痛くなり下水の重いフタを上げられなくて大変です。私自身、最近急に大雨になる事が多く心配なので、毎年のように下水掃除は必ずきれいに風が吹くと落ち葉がいっぱいになり、つまっていますので時々見るように心がけております。重い下水のフタを上げて頂くようお願い出来たら嬉しいです。外の下水なども掃除するのを見た事がない場所などを見ますと、雨水だけですけど、ドロがいっぱいにたまって、もしゲリラ豪雨になった時、あふれるだろうと思ったりしています。何年かに１度は掃除した方が良いと思います。
女性	78	80才近いのに町内一斉の下水掃除、重いコンクリートのふたはとても持ち上げられません。上下水道が市で一番早く完備されているし、必要があるか？毎年気が重くなります。／人に迷惑だけかけない様にと頑張るのが精一杯なのに隣組の役員や班長も若い時は自分からかって出ましたが、これも気分が沈みます。
女性	72	年何回かの町内側溝清掃について。住民に高齢者が多く、作業が重く、負担になってきた。市の街清掃等で強力なバキュームカーなどで吸引清掃してもらうと助かる。１人暮らしの女性でも一軒から１人出なくてはならない。
女性	67	毎月第三日曜日に自治会で下水そうじがありますが、女性の体では石のふたを上げることがこんなんです。１日も早く私達の自治会にでも下水工事が出来れば良いと思います。
女性	82	下水道の完備は誠によかったのですが、自治会での実施の年２回の清掃は困ります。専門業者に依頼するとか、自治会でも考えてはいるのですが、早急にお願いします。
女性	79	年１回の下水掃除、ふたが重くて老年者は出来ません。町内でふたを開けて下さると助かるのですが、お願いしなければ見て見ぬふりです。雪が降った時も少しの雪なら問題ありませんが、今年春の雪は困りましたので、福祉の方にお願いしました。すぐ来て下さったので助かりました。／町内で１人暮らしの人、組で何人程いるのか、私達１人暮らしの人も知りたいです。
男性	92	歩行不自由で回覧板回すときに困っている。
女性	74	家と家との間にある溝の掃除、町内でやりなさいといわれるのですが、体力がないし、何故自分たちがやらなければならないのかと…。ボウフラも出ます。
女性	80	80才以上のひとり暮らしの人に地域の隣組班長などさせないでいただきたい。お願いします。話し合ってみてください。
男性	73	病気や身体の不調のときのゴミ出しのゴミステーションの掃除当番、回覧板の回しなど自分の家でストップとなると近所の方に迷惑を掛けることになるので心配している。
女性	83	お正月や敬老の日のご馳走のことをはじめゴミ掃除の免除、そしてまた防災のことを計画してくださっているご様子、感謝しております。

②近隣関係について

女性	78	今のところ介護のお世話になることもなく生活していられる事に感謝致しております。／１人暮らしの為いざという時の為に警備保障会社にもお願いしておりますが、隣近所の人達に助けられて安心して暮らしております。
男性	76	行政や社協に対する注文も多々あるが、向う三軒両隣が一番大切だと思う。その為いろいろの活動を通して人と人がふれあえるように１人ひとりの努力が必要と思う。
女性	79	引っ越して来て８年たちますが、隣組近所との付き合いはあいさつ位であまりありません。現在は健康で不満もなくすごしておりますが、不意の天災や事件の時など、又、倒れた時の事などの不安はあります。近所が大切な事は重々わかるのですが。
女性	95	隣組時代がなつかしく感じます。今は二世三世と時代も変わり、昔の様にしっくりとはいきません。これも時の流れと思っています。回覧板はポストへ入れ顔を拝見する事がない。役所用語はむずかしく、理解しづらい事もある。この頃は文字が大きくて見やすくなりました。友人は皆様天国に行き、私１人となりました。少し長生きしすぎたかと思っていても天命ですから、残る余生を大事にしてゆこうと自分自身をはげましています。生きとれば楽しい事の連続です。（95才老女）
女性	84	隣組で、すぐ近くにお住まいの息子より、少し離れた位の御夫妻が本当に良くして下さるので感謝しきれない程です。ゴミ捨てから雪上げ、植木の枝切り等々、いろいろの事をやって頂いております。
女性	69	近所に猫を飼っている人がいて、外に餌を与えている。当方の庭等にウンチをして困っている。家の中で飼ってほしいと話をするも猫をおさえられないと言われる。このままで状態が続くと思うと憂うつである。
女性	78	現在住んで一番古いので近所の皆様とは仲良くしていきたいと思っています。／上京の時、又留守の時など頼めますし、家が暗くても心配しないでねといろいろ頼んでいます。

女性	72	町内の方々も親切ですし、夜中でも困ったらいつでも電話して下さいと云ってくれます。有難い事です。
女性	82	大雪や台風等の時、近所の方が心配して下さるが、個人的にどの様な謝礼をしたらよいのかとても気を遣います。
女性	85	私自身、今のところ１人暮らしに辛さを感じることはありません。近所の方々も親切に見守って下さいますし、東京在住の子供達も月１回交代で訪ねてくれる。色々な面で面倒を見てくれます。ただ最近同じ町内に親しい方々が相次いで老人ホームへお入りになり、あっという間に３軒ほどの空き家が出来てしまいました。私も先々を考える時、この古い家でいつまで独りで住むことができるのかと時々不安になります。でも私はこの地域が好きでここでみんなといっしょに最後を迎えたいと願っておりますが、福祉の手がどの程度差しのべて頂けるのか、全くわからず計画が立てられません。これから人の手が必要になった時、子供がとにかく一番ですが、地域ではどこに相談したらよいのでしょうか。不勉強は自分のせいだと自覚しておりますが、老人会などでの世間話ではあまりにも老後の生活が侘びしすぎる心痛むことがあります。
女性	69	日頃社会参加に消極的ですので、私にとってはどの辺が不満や意見あり、なしなのか理解しておりませんが、時折ご近所での出来事にハッとさせられる事はあります。具体的には文章化する事には至りませんが、自分の身に置き換えて考えさせられる事がままあります。
女性	72	急病の時、すぐに来てくれる方が近所にいてほしい。

③生活環境について

女性	69	近くで安くてもう少し体を動かせる所があったらいいのにな、と思います。出来る事なら色んなボーリングセンターやプールとかの割引券とかがあったらいいなと思います。
女性	69	町中のところどころに椅子を置いて欲しい。足、腰わるいため。
女性	76	近所の飼犬猫のフン。／草だらけである事。
女性	81	隣接する土地が、竹があり、どこまでも広がる。坂になっている所にあるので業者も足場が悪く手入れをしない。坂の上にある家は土止めがないので、竹を切らないでという。
女性	88	現在の住居の状況（三方道路にかこまれた角屋敷）のため、外回りの掃除が、足の悪い現在の状況ではうまくゆかず、御近所の方々にご迷惑をかけていること、心苦しく思っています。今冬の除雪時には痛感しました。業者にお願いする方法を知りたいと思います。
女性	77	早朝や夜間に犬の散歩者が多い。その際アーケードの柱や家の玄関の扉や柱に放尿させることが多いため、柱の根本のさびが早く食物を扱う商店街なので何とか厳しい定例を作って欲しい。アーケードの柱のくさりが早く困っている（飼い主のモラルを問う）。
女性	86	地域に集合所があるとよいと思います。
女性	66	地域で少し手助け、話し相手、会話等がしてほしくても、声を出せない方がいると思うので、どなたでも気軽に立ち寄れる、しかも徒歩で行ける、そんな場所があったらと思います。
女性	83	地元の中心街に、年老いた人達が休憩する場所があるといいと思っております。
女性	NA	家の前の道、ガス水道工事の為、工事した後の道のでこぼこの為、雨が降ると水たまり出来、すべってころぶ、おそれ有り。困っています。／足にボルトが入っているので足の動作が、にぶいので、一層すべりやすいので早く道をなおして下さい。お願い致します。
女性	72	道路の舗装常態が雑で、でこぼこだったり、穴があいていたりする。補修は出来ないのか。／小路が狭く（４メートル道路)、角にブロック壁と電柱あり。車の出し入れが危険。ミラーが欲しい。
女性	79	家のすぐ裏に新しくスポーツセンターが出来、夜遅くまで、音楽の音（ジャズダンス）が大きくて困って居ります。もう少し音をおさえて頂ければと思って居ります。
女性	78	今になっては遅すぎますが、地元の商店の閉店は残念です。

④交通・外出手段について

女性	69	外出の手段は主にバスですが、バス代が高く、ついつい回数をへらしたりする。郊外線は特に。このバス代、行政で何とかしてほしい。
女性	80	「バス停」が目前にありながら、片側にしか無く、行く先によって、「ひと停留所」先まで歩く事になり、年令とともに不自由を感じております。
女性	87	私は18年12月に足をけがしました時に何をするのもタクシーを使用しました。其の時のタクシー代の高かった事。出来ればタクシー代を補助していただけたら助かると思います。

男性	91	自家用車の運転は廃車したのでタクシーに切り替え、チケットを取り敢えず２冊より使用しています。毎月病院通い、タクシーの利用が多くなりました。市で補助券発行は出来ませんか。
女性	83	この４月より病院の回路バス線が１時間おきになりましたので、バスの便に不自由しております。
女性	78	地元の地区の灯を消さない様にはといっても、私ども１人住まいの年配者には、交通の便が悪い。行きは良くても、帰りはバスセンター始発、市内乗り換えです。自宅にこもっているよりはと、習字や運動に行きますが、一日の出費がバス代の方が多い日があります。
女性	79	元々少ないバスが４月から更に少なくなり、悲しいです。赤字路線ですから仕方ないとは思いますが、乗る人が多い場所とか、県庁行きのバスは新しい車輌で昇降のステップが低いものが殆どですが、京王のバスは旧式が多く、膝が悪い老人には大変な思いをしています。市民病院が遠くなり、バス停も遠く不便です。タクシーに乗る余裕はありません。
女性	78	以前より思っておりました事ですが、東京都等、高齢者にバスの無料券を配布しておりました。皆さん喜んでおりました。新潟交通と市での話し合いは出来なかったと思います。古町はどちらから来るバスも止まります。年寄りは金を持っている、持っていると云うだけでは駄目です。年寄りは出かければ必ずお金を使います。バス代が高くて中々出かけられません。市の職員の、市の議員の報酬を少し減らせば出来るかと思います。
女性	78	バス停の件。最寄りのバス停に椅子を置いて欲しいです。私、腰痛のためバス待ちが苦しいです。ぜひともお願い致します。

⑤防犯・防災について

男性	73	交番、消防署が近く、年に２回訪問してくれるので安心できる。
女性	75	災害時の問い合わせにお願い。災害時１人暮らしの人の避難場所をすぐに把握して問い合わせでわかるシステムを作って下さい（普段は固定電話のナンバーディスプレイで済みますので、携帯電話は必要有りません）。
女性	76	防災対策として日々からだが弱っていくのに皆さんとの連絡がうまくやって行けるか不安。町内でキチンとされている話を聞くとうらやましい。
女性	72	駐車場ばかりで、家が建たず、淋しい。一方、防犯にも不安がある。／近くの駐在さんに見回りをしてほしい。
女性	86	１人暮らしの場合、防犯、急の病気の時の電話等（専用の）があれば良いと思う。
女性	88	万一災害時、出来る方に、避難所迄搬送して頂ければ有難いと思います。理想です。

⑥その他

女性	78	行政や福祉協議会に頼める事ではありませんが、自分住んでいる町内に、気軽に集まれる場所が欲しいと思います。私の家が広ければ解放したいのですが、自分１人で暮らすのにやっとなので残念です。
男性	80	囲碁講習など、計画が時々あるようですが、離れた地域で開催されるため参加出来ず残念です。近くの公民館や、町内会館などを利用し、手軽に参加出来るようにして下されば助かりますが、如何なものでしょうか。
女性	77	福祉会館ではカラオケ教室に入っている事、文化祭など色々楽しいですことがあり、とても良いことだと思います。転勤族だったので、色々な方との出会いがあり、すぐ友達になれる性格です。今まで詩吟、習字もやっていたけど、現在はカラオケ教室１本にしました。歌はまあまあですが好きなので休まないようにいっています。主人のおかげで、１人で生活出来る事で毎日楽しく暮らせることに感謝しています。
女性	82	近くに週何回か気楽に行ってお話ししたり、有料でお茶でものませてくれる所があったらうれしいです。
女性	89	近い処にお茶のみの集会所があったら嬉しい。
女性	77	シルバーの集まりが少ないと思う。前に住んでいた所は、区で医学関係の講演を毎月してくれた（500円位の経費）。故郷をめぐり、日帰りバス旅行等に新潟市も良い所があるので、公民館でプランを立て実行してもらいたい。幼児、若いお母さんを対象としたのは時々ある様だが？

（4）経済状況について

①税金、社会保険料について

女性	66	現在特に困り事はない。／税に申告に行くのが面倒だ。
女性	82	保険料、税金の額が病人には多大です。
女性	77	よくわかりませんが、私の生活はちょうどすれすれくらいの位置にあるのではと思いますが、収入の割には税金が多いのではと思います。食生活にはぜいたくをしなければやっていけますが、お金を払っての旅行とか習い事は難しいと思います。
女性	77	介護保険料が高いのでもうすこしへらして頂くわけにはいかないでしょうか。少ない年金から引かれるので困ります。
女性	79	収入が減少しているのに、租税公課がその割に多いので困っています。
女性	76	税金が高くて困ります。市県民税、介護保険料、国民健康保険料。
男性	81	年金生活で収入が同じなのに税金ばかり多くなり困ります。
女性	79	私達高齢者には医者に行く機会があまりに多くなるので、保険料を安くしていただいて喜んでおります。
女性	70	国民健康保険と介護保険両方ではなく、１本にまとめてもう少し安くして下さい。
女性	72	今の心配は保険料が２割になるのではと心配です。
女性	80	固定資産税が上がって非常に困っている。
女性	77	固定資産税、介護保険、消費税が10％になるのとか年金が少なくなるのが心配です。
女性	77	県市民税の増加にはおどろいています。

②現在の経済状況について

女性	69	生活保護７万円で光熱費、食費、町内費、その他兄弟のつきあいは非常に苦しく、なるべく金のいる時は参加しないようにしています。わがままですみません。／光熱費１万５千円プラス５千円、食費２万円プラス５千円、雑費1,500円。／新聞、町内費、洗剤、毛染め、カット、トイレットペーパー、風呂代、衣類、トイレ用品。
女性	79	借金が沢山あるので収入がある様に思ひますが大変困ります。それは税金が大きいので困ります。
女性	77	生活資金がつきる恐れ有り。
女性	65	個人的なことではありますが、今は飲食業を経営して居ります。年金は６月から入りましたが、元気なうちは良いのですが、営業出来なくなった時の事を考えると、年金だけでは生活出来なくなりとても不安です。
女性	73	独り生活の年数はまだ１～２年程度で経済の面でも困ること多い感じである。／いままでの経済面の貯えがあれば感じないのだと思うけど、気持ち面で現在までの生活から見ると不安である。／年金もまあまあの年金額であるけど、税金が多いので余裕がない。だからといって自動車もなければ動きが出来なく動きがとれない。家も現在まで多家族なので、全ては金額のかかること多い（家の老朽化）。
女性	74	家賃の支払いが有るので苦しいです。
女性	89	現在、内科で透析を受けておりますので、１日おきに通院致します。朝は息子に送ってもらい、帰りはタクシーです。毎日の生活は何とか暮らして居りますが、預金が少なくなり、先が心配です。今の国民年金では困り、もう少しと思っております。宜しくお願い致します。
男性	72	私は障害者でもあるのに、毎年11月頃にインフルエンザ注射代1,050円取られ、又テレビのチューナーも有料との事。私より高収入の者でも不義家族を利用して市民税を払わなくてすべて無料との自慢する奴も居る。私は腹が立つが、生活が苦しくても口座より引き落とされています…。

③年金について

女性	68	若い頃一生懸命働いてきましたが、厚生年金の額が少なく、生活に困っています。生活保護を受けている人（若い頃、国民年金も掛けない人）より、厚生年金の収入が少ないことに大変不満を感じています。生活保護者は本当に困っている人には良いと思いますが、生活保護者は最低の保障があるのに何でそうゆう人達より真面目に働いてきた私達が国の保障する額より少ないのか分かりません。
女性	72	年金支給日について。新潟まつり、お盆と何かと入用な８月支給日を１週間程くり上げ支給は出来ないものか。

女性	84	国民年金だけでは絶対に生活することは出来ません。議員の数を半分以下にするべきです。
男性	69	国民年金は生活が苦しいです。
男性	73	国民年金が生活保護より安いというのはおかしい。せめて同じくらいにして頂きたい。
女性	75	年金が少ないので、人並みの生活ができる年金がほしいです。
女性	87	年金から天引きを増額してほしくない。

（5）生活上の不安について

①将来に対する不安について

男性	68	妻がガンで死亡して２年半が過ぎ後期高齢者の仲間入りしようとしている重度障害者のひとりとして、これからの生き方、生かされ方は病と老化との闘いとなるが、行政や地域の民生委員の方々にも努力に感謝していますが、おひとり様の在宅者の日々の生活には“まさか”の不安が常にあり、まさに明日の生命がわからない。行政や社協の手の出せないプライベートの範囲に限界がある。突然に来るであろう死をしっかり受け入れて“有難うさようなら”と言える心を備えておかなければと思う今頃である。
男性	86	年々加齢による後々の不安感があります。特に１人暮らしになると心の整理をしたい。友だちと話し合い等していますが、結局は目的まで話しが続かない。老人が終局を求める時、頭中に浮かばない。
女性	73	意見や困っていることは、今特にありませんが、あまり健康でないため、今後がとても不安です。安心して過ごすための準備をしなければと思いますので民生委員を通じて相談窓口を利用することもあるかと思います。
女性	82	主人がなくなり日が浅いので、よくわからないが、これから出てくるのではないかと思う。
女性	88	いまのところなんとか生活しています（夕食は隣の弟家族から作ってもらっています）。けれども今の生活がいつまで続けられるか見当がつきません。／往復30分の内科の通院、その他バスでの通院（整形外科：２週に１回、眼科・歯科：年３、４回）。日常の買い物。現在１番大変なのは家の掃除です、伸ばし伸ばししながらやっと最低のことをやっています。以上の状態が不能になった時はどうしたらよいかお聞かせいただければ幸いでございます。有難うございました。
女性	79	年々病院通いが多くなり生きる辛さを感じておりますが、現在は１人で自立した生活を過ごしております（民生委員の方にお世話になっております）。でもいつ何時１人で生活出来なくなるかと不安の毎日です。
女性	74	１人暮らしの高齢者です（自分のことですみません、心配なことなので）。子供は県外に住んでいます（永住のため新潟には帰れません）。私が今病気になったり、認知症になったらと考えるとゾッとします（出来ればずーっと新潟にいたいのです）。友人達も互いに高齢状態であてにならず、各々が同じような心配をしています。いざとなったら具体的にどうするか知識が少ないからとも思いますが、新潟市の老人が安心して老いていられる知識を！先輩たちのよい具体例を多く多く知りたいと思い願っています。
女性	69	今は生活しているけど、大きな病気になった時にお金の事が心配。もっと年をとって生きていたら、老人ホームに入れるのか色々と考えてしまいます。
女性	79	現在は健康で１人で何でも出来るから良いが、それがいつ崩れるか心配なのですが、入る特別養護老人施設が少なく、何年も前に申し込んでおかないと入園できないとお聞きします。現実はどのようになっているのか知らせてほしいです。細かく連絡してほしいです。
女性	70	現在はそれなりに自分で出来ますが、病気で体の自由がきかなくなったらどのような手続きがあるのか聞いてみたい。自分の親の時は大変苦労しましたから事務的ではなくよくわかるようにお願い致します。
女性	64	病気のため働けず、預金で暮らしています。今後の事が心配です。預金は残り少なく、子供もいませんので、常に先の事を心配しております。
女性	80	私は歩くのが好きですからどこへでも行けますが、年をとったらどうすればいいのか。年金で入所できる老人ホームでも探すつもりでおります。
女性	79	今は自分のことは何とか自分で出来ていますが、これから先、自分がどう具合が悪くなるのかわかりませんので、その時の状況でどう配慮したらよいか不安に思っています。
女性	79	日々心身共に衰え、終焉を考えると、不安要素ばかりで、とても１人で対応出来ない事ばかりです。その様な近況の中で民生委員の方や福祉協議会の存在を知り、力強く感じました。よろしくお願いします。

女性	75	昨冬は大雪で腰痛持ちには大変でした。カーポートはゆがみ、隣近所皆車をお持ちでどうしても道路は空けなければならず、スコップを持ったまま、雪を捨てる所もなく、女１人暮らしの悲哀を感じました。いざという時の災害時にはどうなる事か。不安です。高齢者の１人暮らしなので何時どうなるかは覚悟しておりますが、それなりの施設等への入居も考えなければと思っています。
女性	81	現在困る事はないが、この先のことを考えると不安です。みんな同じように近所の人も年をとるので、現在では考えられないことがおきるようで心配です。
女性	68	今後更に高齢化した時に、病気等で、自宅で１人暮らしができなくなったらと思うと、大変不安に思っています。将来の不安に対して具体的な対策（例えば、特養ホームの現状、手続き等）を考えるうえでの資料や説明（会）を配布願います。

②緊急時に対する不安について

女性	82	病気、夜中など急に具合が悪くなった時に身内が近くに居ないので救急車を呼ぶ以外に方法がないのが不安です。
女性	75	この地区には１人暮らしの老人が多く、買い物にも行けない状態の老人もいました。こんな時火災発生があったら大変と思いました。／この地区には専門学校、大学が多く、若者の多い街と思います。その方に力をお借りしたいです。
女性	76	１人なので万一の時、市のどこへ連絡すれば、なんとか手助けしていただけるのでしょうか。
女性	80	１人暮らしですので、病に倒れた時が心配です。入院手続きとか面倒なことが出来るかが…。
女性	82	大雪や病気の時のゴミ出し等で困った時は、やはり個人で手助けを有料サービスセンター等で依頼した方がよいのでしょうか…。だとしたら、どこへ電話したらよいのでしょうか。ちなみに「民間警備会社」には入っていますが、手助けと言うわけにはゆきません。将来の事が心配です。
女性	72	１人暮らしのため、急病になった時、ボタンを押すだけで、誰かが来てくれるそういう設備がない。
女性	70	日常生活の中で、突然病気で動く事が出来なくなったと思うといつも不安になりますが…。少しでも動ける状態でしたら近くに民生委員の方がいらっしゃいますから相談したいと思っております。

（６）住宅に関する問題について

女性	82	市営住宅など生活に便利な所などを増やしてもらいたい。老後の住まいも。
女性	65	預金も少々だから、今家を売りに出しています。
女性	83	家を売ると、行き場所がないです。ヤチンをいただいた家を売ると、なかなかうれません。どうしたらよいか心配です。
女性	84	夫が先に死亡しましたが、まだ不動産の相続手続きをしておらず気になっておりますが、なかなか手につかないでおります。
女性	80	雨・風・天災の多いこの頃、住宅は安心して住めるところは家賃が高い。内装や生活様式は１人であれば昔式のものでよいのに…と思いますが、不動産を持つ人の意見は立場が異なるから仕様のないこと、骨組みのしっかりしたもので、安い家賃のものがほしいです。平成16年10月長岡の地震で引っ越してきましたが、現在もそのままの家賃で、いくらお願いしても下げてもらえません。相手にしてもらえません。80才ではローンを組むことは不可能です。管理費共７万４千円ずつ捨てるのはつらい事ですが、天災の一大事を思うとじっとしています。
女性	75	家がふるいので、あまもりの修理ができる（壊れたら修理がすぐできる）生活がしたい。
女性	68	公営住宅（県営住宅、市営住宅等）、いくら抽選を受けに行っても、当選しなくて、結局はもうあきらめてしまい、こうして民間アパートに住んでおります。年金だけのやりくりでは、家賃（現在４万５千円）はとても大変です。少しでも補助が有ったらどんなにか助かるのにと思っております。子供達にも頼る訳にもいかず（それぞれの生活がやっとですので）心細い限りです。よろしくお願い致します。
女性	77	これから日が短くなって参ります。階段が、一晩中電気がつかず、又手すりもありません。怪我した方もいます。おまわりさんが来たのですがお話しになりません。こわくて何も云えません。新潟の人はやさしいけど時折こわい思いをしています。

（7）その他

女性	68	おかげさまで現在困っていることはありません。ひとさまに御迷惑をかけずにお墓に納まることができれば（樹木葬）と思っています。
女性	68	区役所様、地域のふれあいスクールに参加すると、給与という名目で振込みがある。いただけるのは有難いことと思うが、確定申告時にめんどうになので返上したい。地域の方に申し出たら不可と言われたが、無償ボランティアも認めてほしい。
女性	85	先日のエコープラザ（新潟市資源再生センター）で衣類のリサイクルの記事がありましたので、バスの便を問合せたところ、とても不便で行けません。年に１、２回でもよいのです。旧市内のどこかで収集できませんか。お願いします。燃えるゴミに出すのは「もったいない」です。
女性	78	６月から高齢者大学教養講座に入りました。78才になっても音楽関係、絵画、日本人形師、社交ダンス、民謡等、まだまだ数え切れない程の趣味を習ってきました。40年間働いた割に年金が少なくて、固定資産税も分割してもらっています。何故なら建物は自分の物ですが、土地が借地の為に地代で年金の半分ももっていかれるので、食べ物を始末したり、苦労しています。でも地代の支払いは資産税の値引きの対象にはならないのです。でも大勢の友人に囲まれ幸せな日々を送っています。100才目指して頑張ります。まだまだバリバリ現役で若い人の指導をして行きます。宣敷見守って下さいネ。／大学に入った理由は上記の様に色々習ってきましたが、専門的になるばかりで、世間の状勢とか、社会状況等は何も知りません。たとえば、法律とか森の衰退とか、人間の尊厳とかこれから習得して行こうと思って入りました。頑張ります。
男性	69	自分に適した仕事があれば働きたい。

D　2次調査の結果から

1．類型化の考え方について

ひとり暮らし高齢者の生活実態により迫るために、１次調査とあわせて訪問面接調査を実施した。実施にあたって１次調査の項目を指標として類型化した。その指標として、「緊急時の支援者の有無」と「近所づきあいの程度」を用いた。その理由として、多くの場合、生命と生活の再生産は、家族を単位として行われているからである。そのため病気や身体の不調など困った時にすぐ来てくれるという「緊急時の支援者」として、家族・親族が期待され、支えられると考えられてきた。実際、１次調査では、「緊急時の支援者」が「いる」と回答した人の83％は、「子ども」「兄弟・姉妹」「親戚」で、家族・親族がその人の生活に大きな役割を担っていることがわかる。

加えて、生活は、特定の地域社会という場において営まれているので、地域との関係性も生活を規定する条件になる。そこで、地域との関わりを示す「近所づきあいの程度（２区分)」をもう１つの指標とした。

これら２つの指標をもとに、世帯を４つに類型化した。家族や親族、近所の人との関係性を視点にして、１次調査では明らかになっていないひとり暮らし高齢者の意識に迫りたい。

表3-72　２次調査対象者抽出の類型化と抽出ケース数

		近所づきあいの程度	
		あまりしない	よくする
緊急時の支援者	いない	類型１（46）6ケース	類型２（47）9ケース
	い　る	類型３（194）18ケース	類型４（809）16ケース

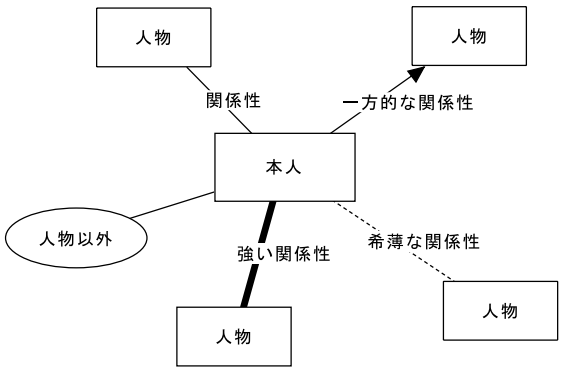
※（　）内の数字は、全体おける該当ケース数で、（　）外の数字は２次調査で訪問聞き取り調査をすることができたケース数である。

2．２次調査回答者の事例（抜粋）

ここでは、訪問調査によって得られたデータについて、類型ごとに事例を紹介したい。あわせて、その人が日常生活において関係している人や制度などについて関係図として示した。

事例については、性別・年齢・地域ブロックを標記している。

関係図については、下記の通り、□が人を表し、○が人以外を表している。それぞれの間を結ぶ線については、関わりの深いものについては、線を濃くしている。矢印はその関係性を示している。



（1）類型１　緊急時の支援者「なし」×近所づきあい「あまりしない」

女性・79歳・しもまち

２階建の長屋タイプの借家。家賃は月に１万４千円。風呂がなく、銭湯を利用している。１階は玄関を空けると４畳半一間と流し台がある。現住所には10年になる。

東京都出身、夫と知り合って40年前に新潟に来た。新潟に来た当初は住みづらく思えたという。20年前に夫が亡くなってからひとりで暮らしている。家族は、東京に妹、千葉に弟がいる。妹とは電話で話をするが、弟とはあまり連絡をとっていない。

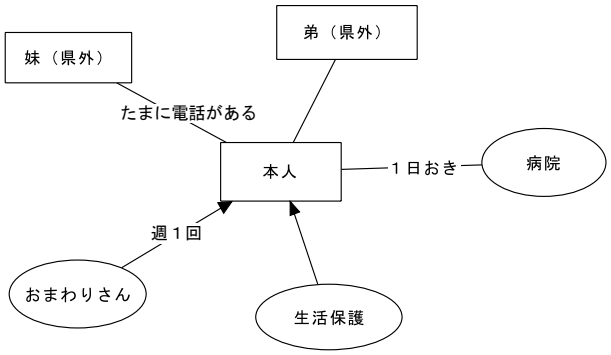
日常生活の困りごとは、自分の体調のこと。内蔵系、神経系、心療系など、１日置きに通院している（タクシー代は移送費として支給される)。めまいで

立っているのもつらいことがある。先日も自転車で転倒してしまった。幻視や、夜は眠れない日が多く、医者から眠剤を出してもらっている。

近隣とは話をしたことがない。長屋なので隣は昼間ほとんどいないし、もう一方の隣は変わった人で自ら話をすることもない。回覧板も回せない環境。

収入は、生活保護のみ。「市のお世話になっている」という。１週間の生活として、食事は全部自分で作っている。肝臓を気遣って油ものは避けて、炭水化物を多く取っている。家に風呂がないので、１日置きに銭湯に通っている。洗濯は１週間１回まとめてやっている。社会参加活動は、今は特に何もしていない。外出は、自転車で本町市場に買い物や、１日おきの通院（通院は日課）。室内犬を飼っている。最近、訪問販売や勧誘が多くて、警察からも注意するように言われたばかり。

現在及び今後の生活としては、医者が一生懸命に自分を診てくれているので、その気持ちに応えたい。そのおかげで、酒もやめられた。「今が一番つらいかもしれないが、前向きでないと生きていけない。



男性・78歳・みなみ

袋小路の途中にある２階建ての一軒家、広い庭がある。ふだんはパソコンと木彫り道具と水槽のある部屋で過ごしている。寝室は２階。

村松生まれ。大手メーカーに勤め全国を転勤した。定年前に退職し、関連企業に転職した（開発を担当）。現住所には25年になる。妻（千葉）とは平成６年から別居しているが、年に数回行き来している。子どもは２人とも千葉にいる。孫が４人。娘とはメールをしている。妻とも関係は良好で、どちらかが病気になった時は面倒をみる約束になっている。

家事全般は自分で出来るため、特に困りごとはないが、持病があるため重い物は持てない。掃除は苦手。除雪と庭の手入れが大変。

隣のひとり暮らしの女性や社交ダンスの仲間には安否確認してほしいと話している。近隣には元職場の同僚が暮らしており気心が知れているが、会社時代の役職をひきずっている。近所の動向を見ている人がおり、防犯対策にはなるがプライバシーが守られていないと感じている。

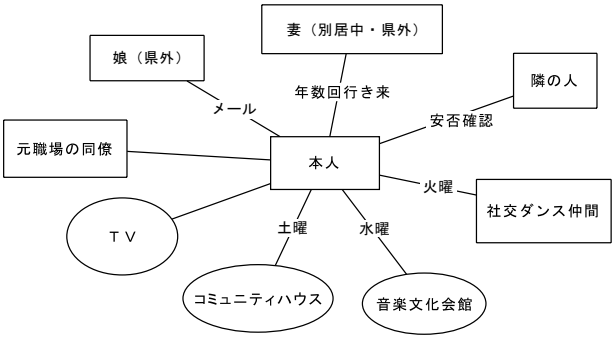
健康状態は、心筋梗塞、肺気腫、花粉症など月に３回程通院しているが、タバコはやめられない。薬は多いがきちんと服用している。体力的に社交ダンス１曲は踊れない。

収入は年金のみだが、半分は妻に送金。固定資産税は自宅、妻・息子のマンションの３軒分を支払っている。年収「150～199万円」、経済状況は「やや苦しい」と感じている。

週に３回、社交ダンスなど活動している。それ以外は家でテレビを見ている。基本的に６時起床、再び寝て11時に起床。就寝は夜中３時。食事は１日２食、自分で調理している。

社会参加活動としては、以前自治会長を務め、社交ダンスの会の会長は現在も続けている。買い物は近所のスーパーに車で行っている（近い距離でも車）。趣味活動で頻繁に外出するが、「自宅に人が３人もやってきたのは３年ぶり」という。

多趣味だが、誰かが誉めてくれたり、お茶をいれてくれたりということがないので寂しいと感じている。今後もこの生活を続けていきたい。「デイサービスは食事が一番心配で、みんなで一律の物を食べるくらいなら自宅にいて、はいつくばってでも食べ物を買いに行く」。孤独死して近所へ迷惑はかけたくない。墓地も位牌も戒名もすでに準備済み。



女性・78歳・みなみ

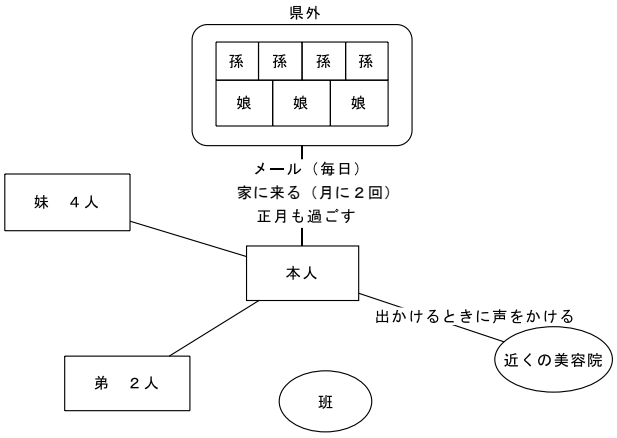
築46年の一戸建て。玄関先には草花が植えてある。千葉県生まれ。父の仕事（開業医）の都合で高校まで新潟で過ごした。東京の大学に進学したあと、お見合いで夫と結婚してから新潟で暮らしている。親類に医者が多く、夫も医者（本人は専業主婦）。子どもは娘３人、みな東京に住んでいて、携帯電話のメールで連絡している。娘たちが代わる代わる月に２回ほど家に来てくれる。正月も子どもたちは孫を連れて遊びに来る。自分も年に数回東京に行っている。兄妹は７人。妹たちとは連絡をとっているが、新潟に住んでいる弟とは、あまり連絡は取っていない。

日常生活のこまりごとは、バスの便が悪いことと、防犯上の不安。近所は寂しいので、警察にまめに姿を見せてほしいと思っている。周りはアパートが多く近所づきあいはあまりない。それでも家を留守にする際は、近くの美容院の人に伝えておく。何か聞きたいときも、そこに行って聞いている。具合が悪くなっても医者の知り合いがいるので安心。ただ、意識がなくなるなど急なときを考えると不安。

収入は遺族年金のみ。楽ということはないが生活はやっていける。年収は「150～199万円」。

５時起床、新聞を読み、８時にゴミ捨て。夜は12時くらいまでニュースを見ている。防犯上、人がいるようにできるだけテレビをつけている。就寝は午前１時頃。社会参加活動としては、昔は大学婦人協会に入っていたが、会費が高くやめた。自治会は２世帯で一班なので、１年おきに班長になっている。買い物は近くのスーパーが多い。タクシーを利用することもあるが主にバス。

「これから自分がもし倒れても延命は望まない」と子どもに伝えてある。墓はなく、２年前に亡くなった夫の御骨は家にある。新潟の市営墓地に入れようと考えている。無宗教なので寺には入れたくない。



男性・83歳・上新潟島

大通りを入った住宅街にある木造２階建て（１階２部屋、２階２部屋）。玄関にスロープなど、バリアフリー工事をした。ゴミ出しは自分でしている。子どもの独立を機に（24年前）、現住所に夫婦で引っ越してきた。周り近所にはお年寄りが多い。

新聞社に長年勤務していた。妻は専業主婦で10年前に癌で亡くなった。３年半妻の看病をした。子どもは２人、長男が川崎、次男が妙高に住んでいる。正月は孫と過ごす。３年前から子どもが日曜日に電話をかけてくるようになった。

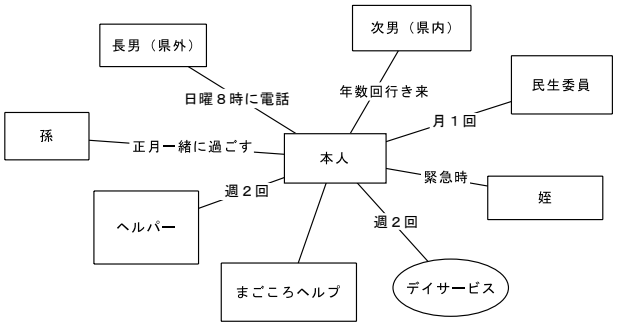
日常生活のこまりごととしては、大雪。除雪車によって家の前に雪壁ができて扉が開かず出られなくなった。その他「近所に買い物するところがない」。近所付き合いはほとんどなく、民生委員が月１回程度訪問する。緊急のときは姪にきてもらうこともあるが、自分でやれることは自分でやりたいと考えている。

膝が痛く、杖を使っている。20年以上前に心筋梗塞になり右半身が動かなくなることがある。２ヶ月に１回通院。薬は自分で管理して１日３回服用している。要支援２で、介護保険のサービスを受けている。デイサービス週２回、ショートステイ月２回、その他「まごころヘルプ」（住民参加型有償福祉サービス）を利用している。民間の配食を昼と夜利用している。

経済状況は、すべて口座引き落としにしているので計算していないが、「貯金は増えている」という。負担に思う費目は特にわからない。年収は「200～399万円」、経済状況は「やや余裕がある」。

社会参加活動は、いまはほとんどしていないが、たまに展覧会に行く。お茶が趣味でお茶の道具を持っている（茶道具を博物館に一部寄付した）。外出は、週に１回以下で、スーパーや古町まで行く時はバス・タクシーを利用する。

現在及び今後の生活については、「みんな悩んでいる」こととという。子どもと同居する気持ちはなく、施設入所（介護付きマンション）を考えている。



女性・79歳・しもまち

昔ながらの住宅地で周りにいくつかの商店街がある。持ち家一戸建て（２階建て）、主に１階で暮らしており、２階は息子が帰ってきたときに利用する。

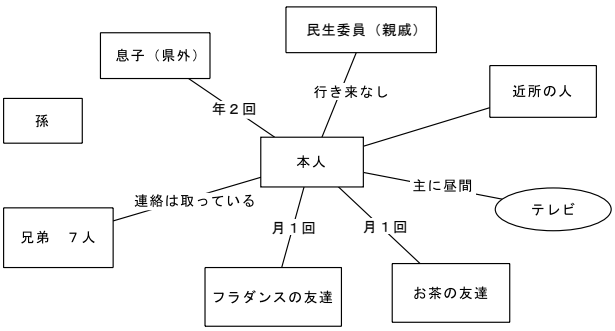
佐渡生まれ、農家で育ち、東京で花嫁修業をする。夫は大手通信会社に勤めていた。10年前に夫を亡くしてひとり暮らしになる。８人兄弟の３番目で、新潟市内に兄弟は住んでいないが、全員と連絡を取り合っている。子どもは１人、大宮に住んでいる（孫３人）。年に２回遊びに行っている。近所に民生委員をしている親戚がいるが行き来はない。

日常生活のこまりごとは、街路樹の葉っぱの始末と民放テレビが面白くないこと。近隣関係はほとんどなく、回覧板が回ってくることも煩わしいと感じている。あえて遠くの友達と付き合うなどあまり近所と交流を持とうとしてこなかった。「最初から近隣のつながりはなく、これからも近所に頼ることはない」という。主観的な健康状態はどこも悪くない。

収入は、夫の恩給（遺族年金）と本人の国民年金で金額が分からない。「専業主婦はそういうことを知らないものだ」という。年収は「200～399万円」、経済状況は「余裕はないが生活していくのに困らない」。

朝は早く起きて化粧をする。夜は９時半から10時の間に就寝する。週２回外出している。昼間は主にテレビを見て過ごす。お茶とお花を習っている。フラダンスも習っていたこともある。趣味の友達と月１回食事会をしている。移動手段はバス、荷物が多い時や歩き疲れた時はタクシーを利用する。生協の宅配を主に利用し、古町や駅に出かけた時に買い物をする。ちょっとしたものは近所のドラッグストアを利用し、スーパーは利用しない。

夫が座っていた椅子を今も片付けられない。色々な空間に思い出があると言っており、自分の好きなきれいな物に囲まれて暮らしている。体が動かなくなった時のことを心配していて、息子と大宮で二世帯住宅で暮らしたいと考えている。



女性・77歳・みなみ

２LDKの分譲マンション、ローンは完済。平成３年から住んでいる。ゴミ捨てには自分で行っている。ネコ２匹と暮らしている。

20代で結婚し、夫は45歳で亡くなった（病気）。54歳で再婚し、後夫は繊維工場の自営業主。10年前に肺癌で亡くなり、それからひとり暮らし。本人は専業主婦。後夫の子どもは１人で、自分の子どもは２人（52歳と48歳）。県外に住んでいるが音信不通。妹もいるが連絡はなく、親戚とも連絡なし。前夫が亡くなってから心の病に罹り、入院していた時期がある。その際、妹と子どものことでトラブルになり、婦人相談所や家裁にも相談した。

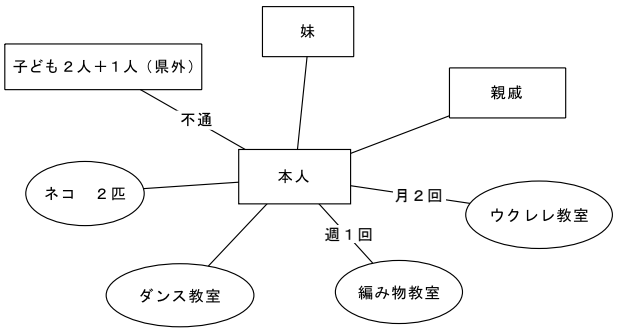
ふだんは「困っていることはないが、楽しみもなく、毎日を自然に過ごしている」という。バス停が遠く、雨や雪だと出かけないが駅の方まで歩いて行くこともある。週１回クロスパル（中央公民館）の編み物教室に通うときに、本町や駅内で買い物をする。

近所の人とは、挨拶を交わす程度。マンションには同年代がいない。近隣清掃や集積場の当番はなく若い世代がやっている。回覧板は声をかけず玄関前に置いている。１人だけ買い物の援助を申し出てく

れる人がいるが頼んだことはない。持病はないが、現在は整形外科（膝・背骨・腰）、内科（胃潰瘍）へ月１回程度通っている。

収入は遺族年金のみで２ヶ月で40数万円。不自由なく生活できる。贅沢をしないようにしているので、あるもので生活し、お金を使うのは食費程度。年収は「200～399万円」。食事は自炊で３食食べるが、量は減っている。家事全般は好き。ネコの世話をしているので、泊りがけはしない（声をかけられても行かない）。ウクレレ、編み物、ダンスなどいろいろな趣味の活動に参加している。

これからについては、周りの方が亡くなられており、死の順番が近くなってきたと思っている。墓はないが、お骨の行く末や家財道具も始末する業者について情報を集めている。将来は、ケアハウスに入居したいと考えている。



（２）類型２　緊急時の支援者「なし」×近所づきあい「よくする」

女性・78歳・上新潟島

１年前からいまの民間賃貸アパート（長屋）を借りて生活している。家賃は３万２千円。未婚で独立してからいまに至るまでひとりで暮らしてきた。平成５年に隣家の火事で家を追い出されてしまい、一時期は自暴自棄になっていた。最長職はコンパニオン、60代半ばまで手伝いをしていた。その後数年は清掃の仕事をした。

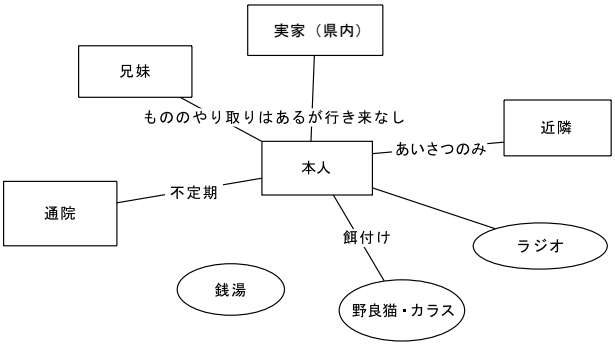
実家は阿賀野市、腹違いの兄弟を含め兄弟が10人いる。現在もお歳暮などのやり取りはあるが、ほとんど行き来がない。日常生活でのこまりごとは、収入がなく貯金のみでの生活ということと、老化により体が思うように動かないこと。近隣関係は、率先して声かけをして近所の人と挨拶を交わすようになったが、その他の交流はない。清掃活動はやっておらず、また回覧板も回ってこない。

健康状態は、白内障で不定期ではあるが通院している。胃の調子が悪く５年ぶりに診察してもらった。加齢による腰の痛みがある。通院は、お金がかかるので、歩いていっている。介護保険はまだ利用していない。生活保護は該当しないと思っている。お風呂券を市役所からもらっている。

貯金を取り崩して生活しているため節約している。「生活資金がつきる恐れある」という不安を感じている。最近、敬老の日の祝い金として市役所から５千円、町内から２千円もらい、涙を流して喜んだという。

起床は午前２時～３時で、就寝は午後５時～６時。４時からラジオを聴く。食事は外で食べることが多い。お風呂は、家にあるが狭く腰が悪くて危ないため銭湯に行く。洗濯機がなく基本は手で洗うが大きいものはコインランドリーを利用する。

社会参加活動は、特にしていない。連絡がないので町内会の行事に参加していない。天気が良い日は、散歩に出かける。



女性・76歳・みなみ

住宅街にある築37年木造２階建て（ローンなし）。普段は居間で過ごし、布団も敷いてそこで寝ている。２階はほとんど利用しない。掃除は毎日する。室内で犬を飼っている。

夫は会社員で20年前に亡くなった。それ以来ひとり暮らし。本人はお弁当屋で調理の仕事を20年、その他色々なパートや内職等をしていた。家族・親族とは連絡が取れない。兄弟は離れている。姪は新潟

にいるが、ほとんど連絡はとっていない。「子どもいない」。

電球の取り替え、高い所の物を取ることが一番の困りごとである。お墓の掃除も大変。２月の大雪の時は雪掻きをしていて足を悪くしてしまった。

隣近所とは挨拶はするが井戸端会議のようなことはない。今は近所の人に何かしてもらいたいことはないが、今後はお願いするかもしれない。近所の葬祭には参加している。

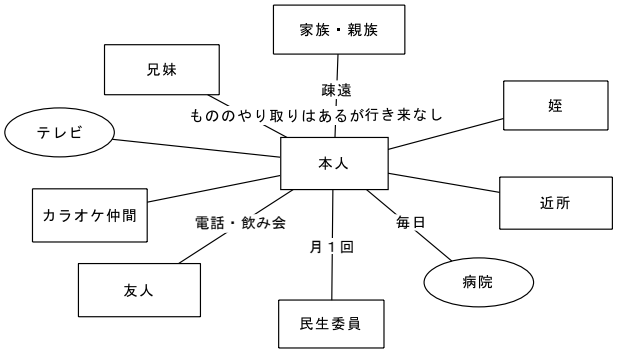
腰、膝、首が痛むため毎日整形外科に通っている（徒歩７分）。以前は自転車に乗っていた。夜眠れないために安定剤をもらいに内科にも通っている。通院は日課になっているが、楽しくはない。動けなくなることが不安である。何かあったときのために携帯電話を持っている。膝の手術は勧められたが、犬の世話があるためしなかった。

国民年金で細々と暮らしており、贅沢はできない。どの費目も負担に思い、なかでも友人との電話代が１万円以上かかる。それでも「人と話をしないと、ボケるので」という。年収は「50～99万円」、経済状況は「余裕はないが生活していくには困らない」。

ふだんは５時半起床、深夜０時前後に就寝。朝昼は必ず食べるが、夜は食べないこともある。自炊をしていて、既製品は食べない。知り合いの車で買い物に行くこともある。朝は病院、朝・夕に犬の散歩に行く。洗濯は、夏は毎日、冬は２～３日に１回。

カラオケの会に参加して、毎週４時間、10人ぐらいで歌っている（主に60代女性）。友人と飲み会をすることはあるが家に呼ぶことはない。足が悪いため、自治会等の集まりは行けない。

犬が番犬にも家族の一員にもなっている。犬のおかげで筋力の衰え（散歩のため）防止、心の支え、安心感になっている。犬より先には死ねない。犬のおかげで夏でも戸を開けたまま寝られる。足が弱っている状態なので、倒れたらどうしようか、夜中に具合が悪くなったらどうしたら良いのか、病気になったらどうすれば良いのか、等の不安がある。



女性・73歳・みなみ

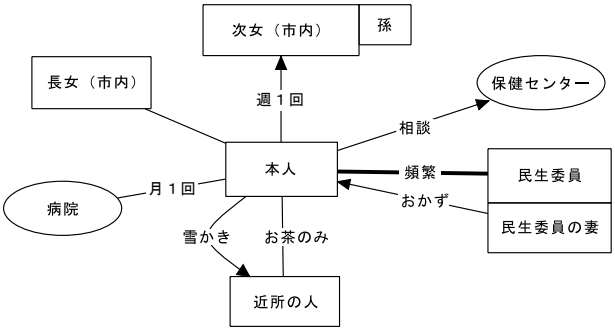
大きな通りから少し入った住宅街にある。木造２階建てで、建坪50坪、築24年。固定資産税は年12万円程度。部屋は広々としていて片付いており、掃除が行き届いている。ゴミの管理は本人がしている。松の剪定は親戚に頼んでいる。

夫は大手運送会社に勤めていた。本人は、製造業のライン作業、新聞配達、ビル清掃など70歳まで働いた。子ども２人が嫁に行き、８年前に夫が亡くなり、ひとり暮らしとなる。長女は亀田で、孫は成人している。次女がひとり親で幼児２人（３歳と４歳）を抱え市内のマンションに住んでいる。週末、次女の家に行ったり、次女の家族と外食する。

こまりごとは、次女が元夫と話し合いがうまくいっていないことと、本人が近所の人でうまくいっていない人がいること。近所との関係では、民生委員が頻繁に訪れ、相談相手になっている。本人も体の不自由な方の雪かきなど手伝いをしている。民生委員の奥さんがおかずを持ってきてくれるなど、交流がある。

身体は軟骨がすり減り、長く座っていられない。介護保険を利用していないが、今後利用したいと考えている。遺族年金と基礎年金と貯金を切り崩して生活している。次女のマンションの頭金（1,300万円）を負担した。生活は質素。年収は「50～99万円」、経済状況は「やや苦しい」。

ふだん、平日は布団干し、掃除、草むしりなど家



事を中心にしている。週末は、孫に会いに、次女のマンションへ行き、掃除などをする。社会参加活動としては、近所の人たちとお茶のみ、老人会、老人会の旅行、カラオケなどをしている。買い物は、歩いて15分のスーパーに行く（天気の良い日は自転車）。

今後については、娘との同居は考えていない。自分の生活をする。

男性・77歳・上新潟島

大きな通りに面している古くからある住宅街。近隣に大型スーパーがある。メゾネット式のアパート、家賃は月５万円。日中は２階で過ごすことが多いが、トイレが近いから本当は１階で過ごしたいと思っている。２階に上がるには急な階段があり、手すりもない為、転倒の危険性が高い。

佐渡市生まれ。中学卒業後、映画関連会社で技師として勤め、21歳の時に東京にでた。それから職場を転々として、昭和49年（41歳）から新潟市内で照明技師として60歳まで働いた。26歳で結婚。子どもは２人。57歳の時に離婚。それからひとり暮らし。現在、別れた妻（県外）とたまに電話連絡をしている。長男は市内、次男は仙台にいるがほとんど連絡をしていない。

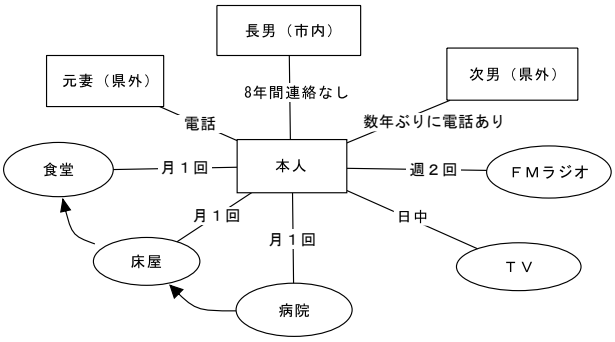
こまりごとは、年金が少なく、生活費を切りつめていること。今のところはなんとかなっているが、今後体調を崩した時が心配。あと雪かき。近所の人とは、あいさつをする程度。回覧板は隣に回しているが掃除当番には行っていない。隣家の人が亡くなっても気づかないくらいの関係。近所の葬祭には参列していない。

脳幹出血で軽度の左半身麻痺あり（障害者手帳２級）。月に１回、バスで通院。以前は酒が好きだったが、ここ３年はお酒を一滴も飲んでいない。健康の為、家の中を歩くように心がけている。収入は、厚生年金が年110万円のみ。貯金はない。経済状況は「余裕はないが生活していくには困らない」。

FMラジオの演歌の歌番組を楽しみにしている。朝４時起床、朝食（パン・牛乳・バナナ、）。日中はTVを見て過ごす。昼・夕食兼用で午後２時頃食事（ご飯、焼魚等）。たまに夜食としてカップラーメンを食べる。昔から仕事一筋であった為、地域の活動や趣味のサークル等の活動は、今も昔もしていない。

普段は、近隣のスーパー（徒歩10分）に２日に１回買い物に出かける。月１回の通院帰りに昔住んでいた所にある行きつけの床屋や食堂に寄って話をしたり、食事をすることを楽しみにしている。

今後については、もしものことも考えていない。倒れたらそれまで。骨は牛乳瓶にでも入れてくれれば良い。歩けなくなればヘルパーに買い物等頼まないといけないが、お金がかかるので生活できないと思っている。



女性・73歳・上新潟島

33坪の平屋、築11年。床暖房のボイラーなど壊れるものも多くなってきている。生活スペースである居間は使う物が本人の使いやすいように置かれており、物も多かった。キッチン等もフラットなつくりで、家事なども自分でできている。愛犬（11歳）と暮らしている。７年前に夫（20歳年上）が亡くなったことを機にひとり暮らしを始める。40歳～60歳まで地図の校正の仕事をしていた。夫は保険会社に勤めていた。

４人兄弟で、今は80歳の姉が市内にいるのみ。高齢のため気安く頼みごとができない。実子はおらず、東京に義理の娘（前妻の子）がいて、時々新潟に来る。市内に姪もいるがあまり行き来がなく、安否の連絡程度の付き合いである。

日常生活のこまりごととしては、電球の交換。足もとが不安なため。また、入院する際、保証人を見つけるのに苦労したことがある。行政への届出に関しても情報が伝わらず、分かりにくいと話す。町内行事や当番活動には参加している。頂き物のやりとりや回覧板もあるが、あまり深い関わりはない。地

域に若い人が少ない。

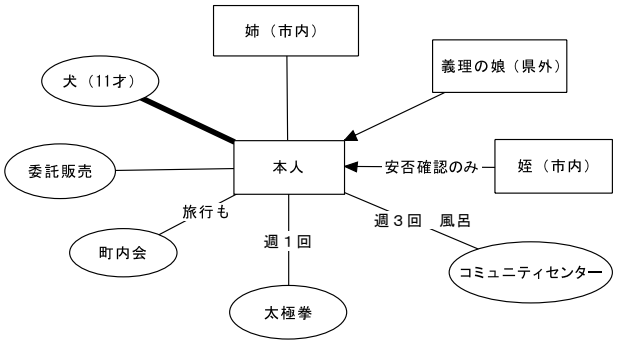
腎臓結石、糖尿病など。定期健診には行っている。４ヶ月に１度投薬のために通院している。糖尿病の新薬モニターになっている。薬の関係で病院をたらいまわしにされたことがあり、自己防衛しないといけないと言っていた。

年金と遺族年金の合計15万円での生活。生活は大変。そのため外出が少なくなったと感じている。固定資産税が月10万円でかなりの負担。バス代がもったいないので、自転車が主な移動手段。年収は「150～199万円」、経済状況は「やや苦しい」。

週３回、昼間コミュニティーセンターの風呂へ行き、週１回は銭湯へ行く。そこで顔なじみになったメンバーと安否を確かめ合っている。週１回太極拳に通っている。

町内会の活動には、誘いがあれば参加している（年に１回全員で行く旅行など）。サプリメント（自然食品）の委託販売をしている。委託販売と平行して、個人でも購入しており、それが健康につながっていると考えている。家に閉じこもるようになったら終わりと具合が悪くなければ、天気の良い日に自転車で出かけている。

今後は、人の世話にならないようにとそればかり考えている。そのため早いうちから有料老人ホームの利用を考えていたが、最近は家に愛着がわき、どうしようかと心揺れている。ただ、老人ホームの料金が高いことが気にかかっている。



男性・75歳・上新潟島

持ち家一戸建て、築19年、固定資産税10万円以上。気づいた時に掃除をしている。住宅に対して困りごとはないが、冬になると広いため寒い。ふだんは２階の日の当たる部屋で川を眺めながら過ごしている。

長岡市生まれで、４人兄弟の長男。大学卒業後、大手放送局に勤務し、定年（60歳）まで働いた。兄弟とは連絡を取り合っていない。実家は他の兄弟が継いだ。25歳で結婚し、子どもは２人（東京）。子どもとは年に数回連絡を取り合う程度。孫とはほとんど関わりがない。

特に困りごとははない。移動は自転車。買い物は近くのスーパーで、天気のいいときは、古町や万代まで行くことがある。車を所有していて運転することもある

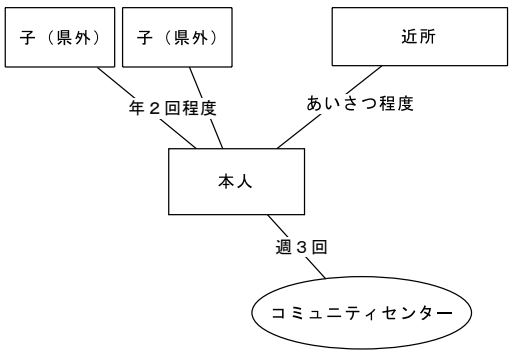
町内での関わりは、挨拶とたまに立ち話をする程度。近隣清掃などの当番はない。回覧板は回している。近所の祭りなどイベントには参加していない。助け合うということもない。困ったことがあっても、「頼りにくい状況にあるし、頼まれてもどうしようもないと相手も思っているだろう」と話していた。自宅へ行き来することもない。近所の葬式には参加していない。

前立腺肥大で、手術を２回した。いまは通院していない。服薬もなし。たばこは１日10本程度。お酒は飲んでいる。「ウイスキーをたしなむ程度」という。

収入は国民年金と厚生年金を２ヶ月に20万程度。余裕はある。それでも「税金が半分くらいになると助かる」という。年収は「200～399万円」、経済状況は「やや余裕がある」。

週３回、昼間コミュニティーセンターに行っている（徒歩数分）。お風呂に入り、顔見知りと小宴会をすることもある。自宅では飲んだり、テレビを見たりしている。食事は１日１食のこともある。自炊はしている。家事は自分でやっている。

以前町内会長をやっていたこともある。周りからは厳しい人と言われていたという。



女性・81歳・江東

大通りから一本入った閑静な住宅街。細い路地の先にある木造一戸建て（２階建て）。新潟地震（昭和39年）の際、水没したため改築した。

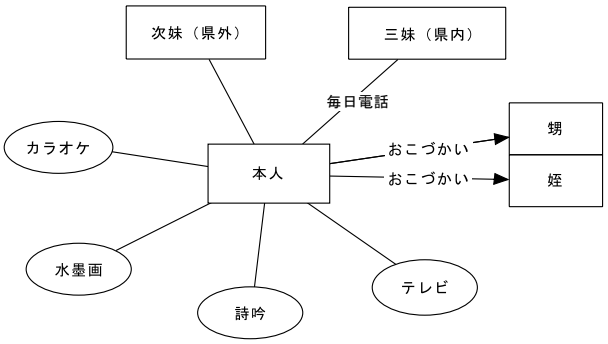
沼垂生まれ、４人姉妹の長女。父親の仕事の都合で東京に引っ越す。東京大空襲に遭い、再び新潟に戻る。21歳で大手ガス会社に入社し、20年間勤めた。その後55歳まで仕事を転々とする。結婚はせず、両親と３人で暮らしていた。両親をそれぞれ看取り、25年前にひとり暮らしとなる。生存している妹は２人。次妹は埼玉、三妹は長岡にいる。次妹とは連絡を取りあい、三妹とは毎日電話をしている。姪、甥には小遣いを送っている。

日常生活のこまりごとは、特にない。近所は顔見知りが多いが、住民の代替わりもあり、挨拶はするが立ち入った話はしていない。近所の葬式については、町内会全体で参加するようにしている。昨年の大雪の際は、近所の家の前も含め、除雪はすべて自分で済ませた。来年、町内会の組長となることが決定している。健康。内科、眼科、歯科には定期的にかかっている。病歴はなし。

経済状況は、かなり余裕がある。必ず帳簿をつけている。主な収入は厚生年金（月20万円）と利息収入。月々の支出は、光熱費１万円、食費５万円、稽古代１万円、その他雑費５万円、社会保険料５万円、固定資産税は10万円となっている。社会保険料については、負担感を強く感じている。年収は「200～399万円」。

平日は、カラオケ、水墨画教室、詩吟教室に定期的に通い、週末は自宅で過ごす。その他、定期的に友人と会食をしている。旅行に出かけることもある。ほぼ毎日外出している。趣味の活動や友人との会食などで出かけ、徒歩で行くことができる範囲内で外出することが多い。通院の際も、かかりつけ医が徒歩圏内にあるため、歩きで移動する。

今後、病気や認知症になったときのことを考えて不安になることがある。身近に孤独死の例もあり、妹には毎日連絡を入れてもらっている。自分からも家族に連絡を入れており、友人にも定期的に連絡を入れるようにしている。また、入院が必要になったときの手続きも不安。そのため施設入所も考えている。土地建物の処分については、相続税等の問題もあり、不安を感じている。また、身近に献体を希望している友人がいるという。



女性・79歳・みなみ

築45年の持ち家一戸建てに住んでいる。部屋はよく整理され、庭の手入れも行き届いている。家は２階建て、夜は２階で寝て、昼は１階で過ごす。足が少し悪いため、２階への階段に手すりがないことが問題。固定資産税は年８万円。

生まれは豊栄で、新発田の女学校を経て、新潟市の教員養成学校へ。その後、新潟市内で小学校の教員となり、定年まで勤める。24歳頃に結婚。夫は大手電力会社（事務職）に勤めていた。娘が１人いる。娘は、東京に在住しており、現在55歳。夫は４年前にパーキンソン病で亡くなる。西区に夫の実家があり、時々訪ねている。西区に本人の実家もある。兄弟はもう亡くなっているが、お嫁さんがいるので訪ねている。自分の実家なので気楽である。甥っ子が市内に来たときに家に寄ってくれるため、頼りにしている。

夫の死後、ひとり暮らしになったので不安を感じる。実際、１年前に、不審者２人に家にあがられた。それ以来、訪問販売などに対する不安があり、鍵を閉めるようにしている。

近所との関係は良好である。長年の付き合いのあるおばさんがいて、１週間に何回か交流している。大雪のときなどはご近所のお世話になり、トラブルがあったときも町内会長に声をかけてもらった。

精神的な不安からくる不調（不快感）がある（物忘れが目立っている）。２週間に１回は近くの病院に歩いて通っている。睡眠導入剤を服用している。

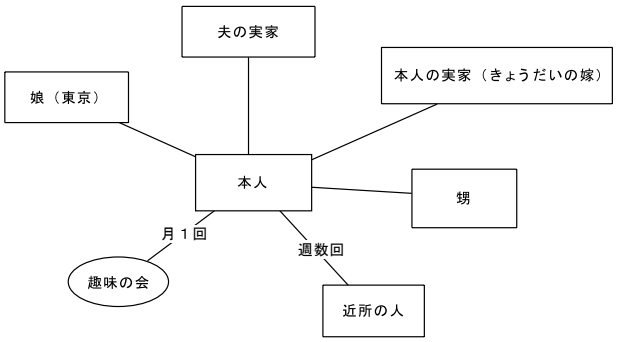
１人暮らし用の安心連絡システムを利用し、安否確認を行っている。

経済状況は、年金に頼っているが生活には困っていない（２ヶ月で50万円）。貯金は娘が必要なときに使っている。年収は「200～399万円」、経済状況は「余裕はないが生活していくには困らない」。

１週間に何回かは近所の友人と交流している。１日おきに買い物に出かける。ご飯は１日おきに炊いている。掃除は場所を決めて、少しずつしている。２週間１回は病院に出かける。

以前はお茶の会に所属し参加していたが、夫の看病から行かなくなり現在は参加していない。遊びで月に１回出かけることはある。

４年前の夫の死以来、さびしさと不安がある。お盆と正月には、東京に住む長女と一緒に夫の実家の墓に行っている。長女に新潟に帰ってきてほしいと思っている。



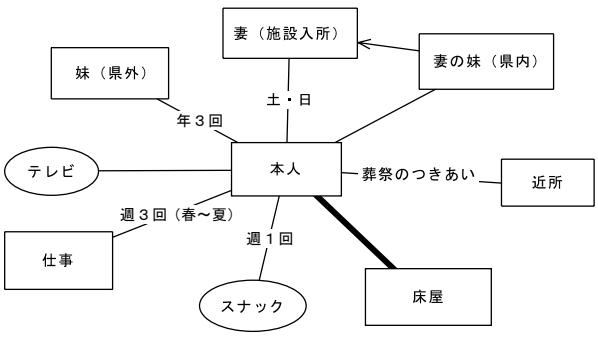
男性・71歳・みなみ

住宅街（古い団地）の２階建て一軒家。娘が来たとき用に１台駐車場を借りている。１階には台所、座敷が２部屋、浴室があり、改装してリビングと座敷をつなげた。「段差があり、その少しの段差にもつまずく」という。

出身は中央区内。現住所には35年。卒業後、放射線技師として勤務。現在も４～11月はレントゲン車に乗っている。定年前に妻がアルツハイマーを発症し、介護の負担が大きかった。ひとりで介護をしていたので、介護鬱など精神的にも疲弊した時期があった。近所の人が施設を探してくれて、７年間に妻を特別養護老人ホームに入所させることができた。妻の入所をきっかけにひとり暮らしになり、それ以来、気持ちを切り換えて１人の生活を楽しめるようになった。妻は、民間企業の正社員として働いていた。子どもはひとり。長女を７歳の時に小児ガンで亡くし、次女が千葉にいて、年に３回程度帰ってきている。毎週土日に妻の面会に行っている。妻の妹に必要な時に来てもらっている。

隣の家とは、奥さんと親交があったが、奥さんが亡くなってからは挨拶程度になってしまった。近所は世代交代して付き合いがなくなっている。葬祭のお付き合いはある。妻がアルツハイマーを発症した当時は、近隣にも病気のことを隠していた。妻が入院したばかりの頃、精神的に追い詰められることを言われることもあったが、最近ではそのようなことも言われなくなり、気持ちが切り替わり、自身の趣味も楽しめるようになった。何かあったときは、昔からの付き合いのある床屋にお願いしてある。健康状態は、コレステロール値が高いが、薬を飲む程度。妻は「要介護５」で、施設に入所している。入所の費用は月４万円。経済状況は、年金、アルバイトと妻の年金で、贅沢をしなければ大丈夫と言っている。年収は「400～699万円」。

週３日はアルバイト（放射線技師）、土日は妻のもとへ行く。金曜日は昔からの習慣で夜は飲みに行く（スナック、カラオケ）。１日の生活は、仕事のある日は５時に起き、朝食（食パン、サラダ、フルーツヨーグルトドリンク）を自分で用意する。14～15時には帰宅し、スーパーへ買い物に行く。冬期間は仕事がなくなり、ナイター中継もないので、何もすることがなく困っている。近所の清掃活動、雪かきは行っている。仕事、買い物、妻の面会と毎日外出している。車を所有していて、ふだんは車を使っている。



（3）類型3　緊急時の支援者「あり」×近所づきあい「あまりしない」

女性・83歳・上新潟島

閑静な住宅街で周りには新築の家が多い。長屋造りの平屋の持ち家。道路側の棟に住んでいる。奥の棟は貸していて、男性（79歳）が1人で暮らしている。築57～8年。隙間風があり、冬は寒く、玄関や台所に段差がある。奥行きの広い敷地で、木々に囲まれている。庭には犬がいる。固定資産税は年17万円。ふだんは居間でテレビを観ていることが多い。風呂はあるが、光熱費、掃除などを考えて自宅では入らず、コミュニティセンターを週3回利用している。

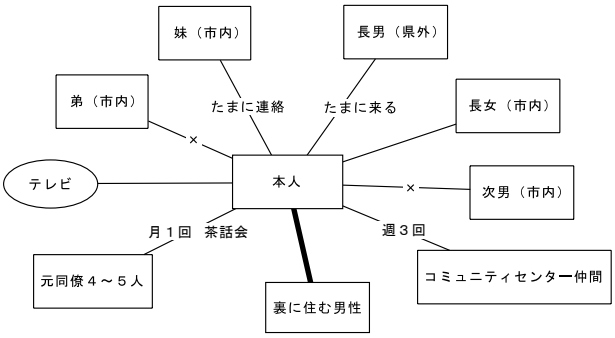
南蒲原郡生まれ。8人兄弟姉妹。昭和41年に夫が事故で急死。その後女手1人で子どもを育ててきた。ガスの検針、新聞配達などをかけもちして生活を賄ってきた。新聞配達を2009年3月までしていた。今も集金は続けている。兄弟姉妹のうち、生きている弟と妹は市内に住んでいる。妹からたまに連絡があるが、弟とは連絡を取っていない。夫の親族とは絶縁状態。子どもは3人。長男は東京、長女と次男は市内にいる。長男と次女はたまに家にくる。次男とは連絡をとっていない。

収入が少ないことが一番の困りごと。ゴミ捨て、古紙回収、庭の手入れ、雪かきなどは、裏に住んでいる男性がしてくれる。以前、自宅で動けなくなったときに、その男性が食事の用意や通院の付き添いをしてくれた。近隣関係はあいさつ程度。近所の葬祭は参加している。内科（高血圧）と眼科に定期的に徒歩で通っている。

6万円の国民年金と1万円の新聞集金の収入のみで生活しているのでかなり余裕がない。年収は「50～99万円」、経済状況は「かなり苦しい」。洋服は買わず昔のものを仕立て直して使っている。食材も見切り品を買っている。バスにはなるべく乗らない。コミュニティセンターの帰りに友達に食事を誘われても外食費がかかるので行かない。食事は自炊で、お米を1日0.5合。

コミュニティセンターには顔なじみの友達がいて、話をするのが楽しみ。その帰りにスーパーで買い物をする。洗濯は、大きいものは洗濯機を使うが、小さいものは手で洗っている。働いていたときの友人4～5人と月に1回程度お茶会を持ち回りでしている。

墓は近くにあり、お彼岸とお盆のときに行く。墓掃除は、長女がしている。友人との会話のなかで、孤独死の話を聞き他人事には思えない。倒れたときのことを考えると不安になる。近くに新しく高齢者の施設はできているが、費用が高額で入れない。国民年金生活者でも入所できる高齢者施設をつくってほしいと思っている。



女性・88歳・しもまち

古い住宅地にある一戸建て（2階建て）に嫁いできてから70年ほど住んでいる。昔は人も多く住んでいて商店街も栄えていたが、今は静か。きれいなところに住みたいので、障子やテレビなど、自分で必要と思ったことは業者などに頼んでいる。人の手が入っているため片付いた感じである。ゴミは娘がきたときに捨ててもらっている。家の中では、歩行器を利用して移動している。

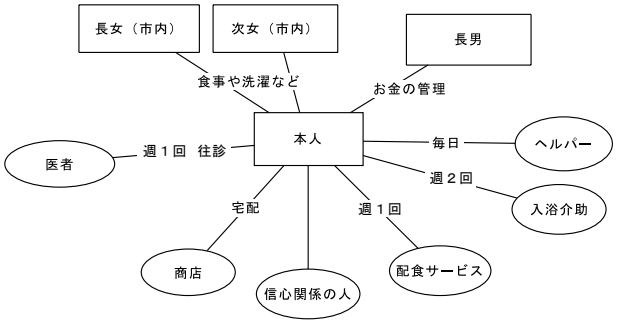
20代の頃、大手製造工場で、親方をしていた（およそ10年）。その後は専業主婦。祖母と息子夫婦と一緒に暮らしていた時期もあったが、食生活が合わず息子夫婦は転居した。神統が人生軸のようになっている。衣服は和装がほとんどで、動けなくなってから洋服の生活になった。

子どもは3人。長女と長男が新潟市内、次女が弥彦にいる。娘が食品を届けてくれて、洗濯もしてくれる。お金の出納は全て長男に任せている。6人兄弟の5番目。他の兄弟はみな亡くなっている。夫は30年前に亡くなり、それ以来ひとり暮らし。ひとり暮らしは気楽だと話しており、長く続けてきている

ため寂しさもなくなるという。

日常生活の困りごとは、お金がないこと（収入は遺族年金のみ）と近所にお店が少ないこと。近所はみんな仲がよい。友人や信心関係（「神様を家に安置しているので、人が集まる」）、宅配の商店（果物屋）など、いろいろな人が様子を見に来る。回覧板も電話で隣人にとりに来てもらうようにしている。年収は「50～99万円」、経済状況は「やや苦しい」。

定期検診には、足が動かないので行っていない。時々長男が連れて行ってくれることがある。毎週往診がある。薬をもらっているが食事が1日2食になっているので、1日3回のところを2回飲むようにしているという。デイサービスなど外出するものは使っていない。毎日夕方1時間のヘルパー、週2回の入浴介助、週1回の配食サービスを利用している。



女性・68歳・上新潟島

賃貸アパート4階建ての3階に住んでいる。エレベーターなし。1DK。家賃3万円。

3歳まで東京に住んでいたが、東京大空襲をきっかけに父の郷里・新潟へ移住してきた。中学卒業後、大手バス会社に就職して車掌として働いた。その後、京都へ移り住み、住み込みで旅館・フロント係・売店の販売員をした。病気のため、平成2年に帰郷。59歳まで働いた。まごころヘルプで4年間ガイドヘルパー等に従事。独身。ひとり暮らし42年。

姉と弟が新潟市内に住んでいる。時々連絡は取るが、価値観が合わないのでめったに会わない。よほどのことがあれば来てくれるし、自分も出向く。

日常生活の困りごとは灯油の買出しとクーラーが設置できないこと。灯油は台車で運ぶ。運搬が大変で、ストーブをあまり点けないようにしている。

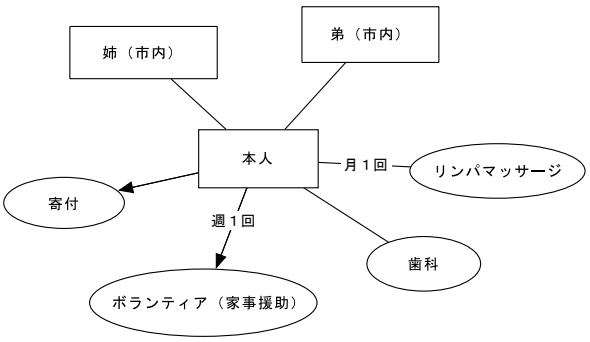
近隣関係としては、両隣が空部屋なので気楽で良いと思っている。回覧板は回って来ない。ゴミステーションの当番も回ってこない。

平成元年、子宮癌を患い、2年前にリンパ節へ再発。サポーターのようなものを右足全体へ装着のため、座れない。リンパマッサージへ通っている（1ヶ月に1回程度）。歯科へもたまに行く。

収入は厚生年金（11万円／月）と郵便局の個人年金（2万5千円／月）。大きな支出は、旅行代金と健保のきかない施術料、サポーター購入代金等。以前、フィリピンのフォスターペアレントとして、現地の子ども2人分の送金をしていた（現在は中止）。年収は「100～149万円」、経済状況は「余裕はないが生活していくには困らない」。

週1回、ボランティアで家事援助に出掛けている。それ以外は読書（寝ながらが多い）をしている。週に2度、買い物に行く。10日に1度、図書館へ行く。2ヶ月に1回程度旅行に行く。友達が一緒の時もあるが、1人旅が多い。レンタル別荘を借りている。

自分で出来るうち、動けるうちは、這ってでも自分でやりたいと考えているが、いよいよとなったら誰かにお願いしなければならない。先祖の墓の管理は弟に任せてあり、自身は「樹木葬」への登録を済ませている。周囲になるべく迷惑をかけないようにと考えている。



女性・92歳・みなみ

駅南の分譲マンション（築29年）7階の3DK。管理費1万5千円（月）。住み始めて15年、固定資産税9万5千円（年）。家の周りは、マンション・ビル、コンビニ、駐車場が多い。駅が近い。夜景が綺麗（ベランダからの眺めが良い）。

市役所に20年勤務、和裁の仕事を26年した。鉄道関係に勤めた夫は30年前に亡くなった。東区の持ち家（60坪）にいたが、老朽化したことをきっかけに、現マンションに引っ越した。

兄弟は５人だがみな亡くなっている。子どもはいない。親戚が新潟市内におり、ふだんのやりとりはないが、お盆と正月に来て食べ物を持ってくる。冠婚葬祭の付き合いはある。９月に母の実家から米が送られてくる。

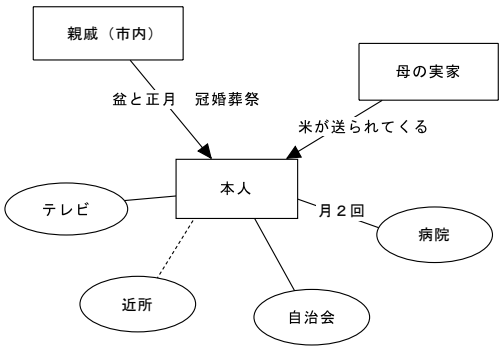
マンションの住人と顔を合わせる機会がない。事務所も多く、昼間は働きに出ている人が多い。エレベーターで会っても挨拶がない。近所の葬式も参加しない。マンション自治会には入っているが、回覧板は断った。雪かき、近隣清掃などは管理人・業者がやっていると思う。

月２回通院（高血圧・胃下垂）歩いて５分。薬７種類（朝・昼・夜）。腰痛有り、軽い安定剤服用。

収入は、夫の遺族年金は２ヶ月で21万円、収入の波はない。不足するときは貯金を崩す。普段の生活費には困っていないが、親戚などの冠婚葬祭費が大きく、負担が大きい。年収は「100～149万円」、経済状況は「余裕はないが生活していくには困らない」。

６時起床、夜11時就寝。料理はせず、スーパーなどで買ったものを食べる。洗濯は２週に１回。買い物は月２～３回まとめて買う。年に５回お寺へ行き、たまに本町市場へ行く（バスやタクシー）。

楽しみはテレビくらい（夜はつけっぱなし）。事故が恐いので外出したくない、すぐ疲れる。１日でも長く生きたいと思っている。先のことはあまり考えない。「そのときのことは、そのときになったら」。



女性・78歳・しもまち

持ち家一戸建て、退職金で繰り上げ返済をしてローンは完済（築35年）。ほとんど１階で過ごしている。

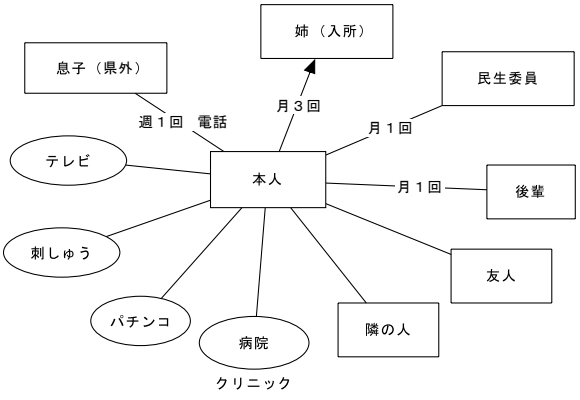
地方銀行で定年まで働いていた。結婚は27歳、29歳で離婚。息子１人を育て上げた。元夫は50歳で亡くなった。４人きょうだいの末っ子で、姉１人、兄２人。姉は84歳、老人保健施設に入所している（認知症）。分家の兄は姉のことを押し付けてくるという。息子は千葉在住だが３年に１回転勤。週に１度電話をしてくれる。こちらから電話をして愚痴をこぼすこともある。息子は単身赴任、嫁と子ども３人は別で暮らしている。姉が入所してからは息子宅で正月を過ごす。

日常生活の困りごとは、近くに相談できる人がいないこと。何かあったときにすぐに来てくれる人がいない。姉の介護のことで、きょうだいの仲が悪くなってしまったという。

民生委員と、近くに住む後輩、友人、隣の家の人が何かあったときには言ってくれと言ってくれている。回覧板はある。近所の人とのつながりがない。

白血病の一種を2006年に発症。２ヶ月に１回受診する。合併症もある。正座ができず、長時間歩行もできない。不安があると膀胱炎になりやすく、クリニックで薬をもらう。

収入は月23万円の企業年金と厚生年金。１人では十分やっていける。国民健康保険料15万８千円（年）、介護保険７万９千円（年）、県民税・市民税14万６千円（年）、固定資産税５万６千円で、合計年間44万円払っている。年収は「150～199万円」、経済状況は「余裕はないが生活していくには困らない」。



８時起床、12時就寝（TVをよく見ている）。パチンコを楽しみ、そこで友達の輪が広がっている。刺繍に月２回行っている。ふだんは、バスで市場へ買い物、パチンコへ行く（古町、本町）。帰りはタクシーで帰る。

息子が「何かあったらいつでも来て」と言ってくれている。父母の墓は見えるところにあり、そこに入りたいが、兄との関係もあり入れないかもしれない。何かあれば、友人や後輩に何とかしてもらいたいと思っている。

女性・84歳・しもまち

小路を入った一番奥の木造２階建てに住んでいる。築30年持ち家。庭も広く、数年前までは庭師が入っていた。

以前は、孫を含め息子夫婦と暮らしていたが、息子夫婦と孫はマンション購入後駅南へ引っ越したため、夫と２人暮らしになった。４年前に夫が亡くなり、ひとり暮らしになった。民間企業（製造業）の正社員として、長年勤めた。夫も民間企業（卸売業）の正社員であった。

６人兄弟姉妹で、４人は亡くなり、弟がひとり区内に住んでいる。弟から頻繁に連絡があり、家に来てくれる。息子夫婦も区内に住んでおり、庭の手入れや洗濯、買い物などいろいろな支援をしてくれる。長女は東京に住んでいて、月に一度泊まりに来る。

近隣清掃は免除されていて、回覧板は隣の人がコピーを郵便受けに入れて、次の人に回してくれている。「動けなくなってからお友達とお茶のみができなくなった」という。

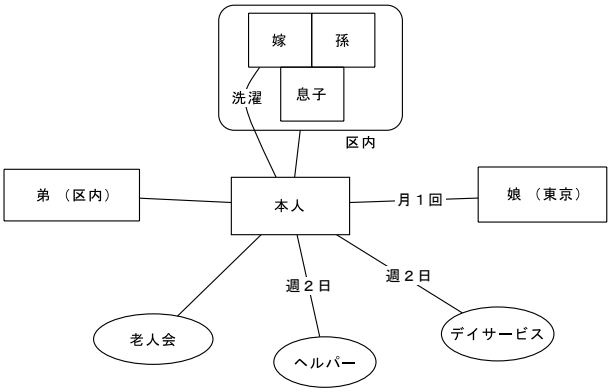
腰を痛め、ボルトが入っている。施設では、腰掛けてできる体操をする。保健師が個々に応じてやってくれる。階段はのぼることができない。介護保険を利用していて、週２回デイサービス、週２回ホームヘルパー（料理と掃除）を利用している。

厚生年金と遺族年金で暮らしている。外出しないので、お金はほとんど使わない。年収は「150～199万円」、経済状況は「やや余裕がある」。

５時頃起床し、就寝は20時頃である。朝早く電気をつけたり、夜早く電気を消して近隣の迷惑にならないようにしている。台所にはよく行き来する。２階へは上がらない。１人でいるときは新聞を読んだり、横になっている。

町内の老人会に入っているので、腰の調子がよいときは月に一度開催されるお茶会に参加している。

もしものときを考えて、家族に向けて専用のノートに気づいたことや思ったことを何でも書き記している。お墓は、車で行くことのできる距離にあり、息子に誘われるがほとんど行かず、仏壇でお参りしている。



女性・75歳・上新潟島

公園と海が近い、月３万円の民間借家で、居間・寝室の２部屋。２階は使っていない。清掃は週に２回。ゴミ捨て場へ行くことはおっくうに感じている。家の風呂を10年前から使っていない。

夫が亡くなってひとり暮らしになった（14年間）。夫は民間企業（正社員）を中途退職してパン屋を始めた。５人兄弟姉妹の末っ子で、長兄は亡くなり、長姉と三姉は入院している。次姉は名古屋にいて、連絡は取っている。夫の親類とは、冠婚葬祭などの付き合いがある。子どもはいない。

日常生活の困りごととして、足が痛いことや体調が悪い時は、特にゴミ捨てをつらく感じている。実家の周辺には、昔から付き合いのある人が何軒かある。ゴミ当番や町内の役員になれば、集まりに参加している。家事で困ったとき、近所の人が手伝いをしてくれることがある。近所の葬祭は家に知らせが来る。

ひざの治療に整形外科に通い、注射を定期的に打ってもらっている。歯科には必要に応じてその都度通っている。どちらも徒歩で通っている。

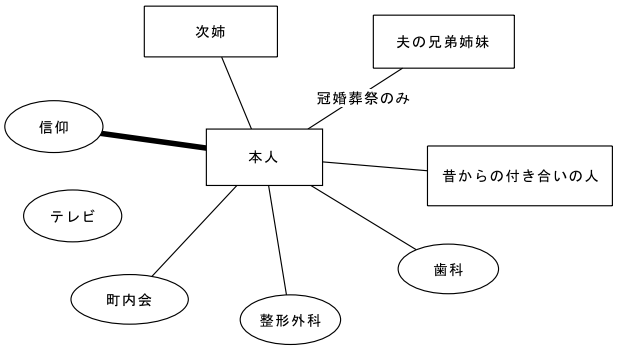
収入は、遺族厚生年金と国民年金で月12万円程度。余裕がないと感じている。冠婚葬祭費を負担に感じている。年収は「150～199万円」、経済状況は「余裕はないが生活していくには困らない」。

朝５時50分にお祈りのために起床し、深夜０時前に就寝する。食事は既製品を買うか、外食するか、残り物を食べるか。洗濯は週に２回。毎日、音楽を聴いたり、テレビを観たりして過ごしている。

神道に20年以上入信していて、「信仰に支えられている」という。お祈りに、月数回バスで市内の場所に行っている。県外にも年に数回行っている。

銭湯に行って、人と話をするのを楽しみにしている。最近は、仲間も老い、「りゅーとぴあ」（新潟市民芸術文化会館）などへは出歩かなくなった。趣味仲間の１人が寝たきりになって、疎遠になっている。昔は、歌声喫茶にもよく行っていた。

週に３回ぐらい外出して、自宅には月に１回ぐらい友人がくる。買い物は、スーパーに行き、本町へも行く。



男性・71歳・しもまち

親世代から住んでおり、家は37年前に自身で建て替えた（リフォーム済み）。

22歳から定年まで郵便局の配達員。65歳まで嘱託で同じ郵便局にて勤務。60歳より自治会長を務める。母親・妻・子ども２人の５人暮らしであったが、母親が認知症で介護が必要になったことで、妻と離婚（平成６年）。母は、平成８年に死去。それ以来１人暮らし。子どもは２人とも県外在住。

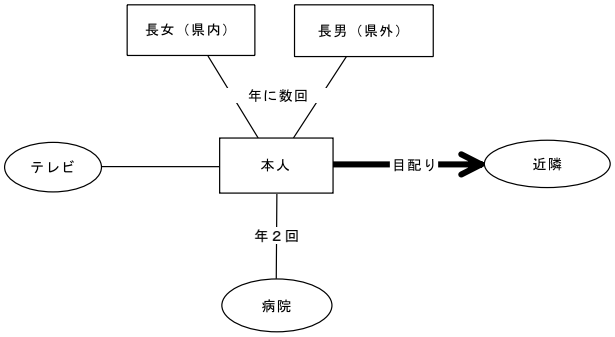
10年前より自治会長として近隣への目配り、心配りを行っており、近隣住民から相談事持ちかけられる。

５年前（平成17年）大腸ガン手術。経過観察良好。その他、高血圧の為かかりつけ医に定期的に受診、服薬をしている。毎日朝の血圧測定と１時間のウォーキングを欠かさない。

収入は、共済年金と国民年金で月20万円（年240万円）。冠婚葬祭や大きな買い物があれば、貯金を崩すが普段、特にお金に困ることはない。

週１回もしくは２回自治会関係の会合ある。ふだんは６時起床、ラジオ体操、７時朝食、片付け、掃除、10時ウォーキング、11時車に乗って外で昼食、買い物、13時自治会仕事（書類作り）、TV観賞、16時入浴、18時夕食（晩酌）、そのあとTV観賞。月１～２回は前の職場の同僚や幼馴染と飲みに出掛ける。

出来る限り健康を維持して１人暮らしを続けたい。自宅に入れるうちは介護が必要になってもサービス利用して生活したいが、子ども達に迷惑かけたくないので施設に入りたい。自分が母親の介護で離婚するなど苦労したので子ども達には迷惑かけたくない。



女性・88歳・上新潟島

住宅は、弟の敷地内にある築38年の２階建て住宅。普段の生活は１階で、寝室も１階になる。

出身は新発田。新発田と新潟市内の小学校で定年まで勤める。兄弟は７人で存命は５人。同一敷地内にいる弟以外との交流は希薄である。弟のところから夕食が隣から届くこともあるが、自分からは訪ねることもなく会話もあまりない。未婚で、ひとり暮らしは60年前から。

現在、一番大変なのは掃除。特にこたつが重い。その他のことは全て自分でしている。掃除でヘルパーを利用したいと思っているが、近所の目を気に

して気兼ねしているという。

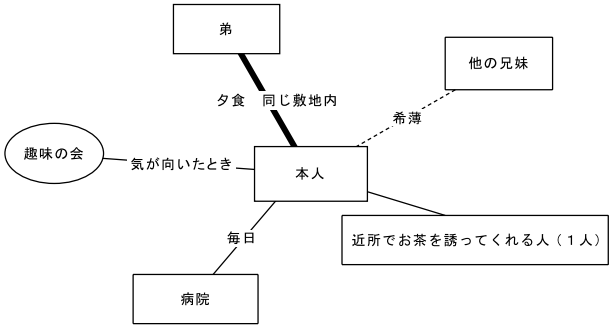
近所づきあいはあまりなく、民生委員が訪ねてきてもあまり出ない。近所に１人、お茶に誘ってくれる人はいる。

健康状態は、生活動作は不便なく行っている。通院していて、内科では膵臓と胃と血圧の薬を処方されている。血圧は毎日自分で測っている。眠れない時に安定剤を飲むこともある。最近、朝に起きられないことがある。

年金で生活している。固定資産税等はない。年収は「200～399万円」、経済状況は「余裕はないが生活していくには困らない」。

外出は週に１～２回、買い物に行く程度。地域の催し物には、退職直後は参加していたが、それ以降は参加していない。趣味の講座なども以前は行っていたが、最近は気が向いた時に出掛ける程度になった。

お墓は弟の墓に入れてもらうつもりでいる。動けなくなったら施設に入る。それまでは、今の生活を続けたい。



男性・86歳・みなみ

田んぼを埋め立てた住宅地の中で周囲はアパートがたくさんある。近くに専門学校等の学生が住むアパートが多い。持ち家一戸建て築40年、２階建て、庭有り。近くにスーパーが複数ある。コミュニティセンターも近くに有り。固定資産税は10万円くらい。掃除は自分で行い、きれいにしている。ゴミ捨て、ゴミ当番も行っている。風呂・トイレには妻の介護保険で手すりをつけた。

村上で生まれ、妻と新潟で出会い、22歳で結婚。息子と娘の２人子どもがいる。仕事は、警察官で、業務の関係で地域との交流もあった。退職後、シルバー人材センターの仕事を数年経験した。５年前に妻を亡くし、独居となる。妻は亡くなる10年くらい前に脳梗塞で倒れ、寝たきり状態となる。介護保険を利用しつつ、自ら妻の介護を行っていた。

県内に兄弟が住んでいるが、時々電話したり何かあったときに行く程度で、普段の交流はあまりない。娘は新潟市内に住んでいて、一緒に旅行に行くことがある。息子は近所に住んでいて、仕事帰りに毎日顔を見に来る。孫と連絡をとり、米やお金を送っている。

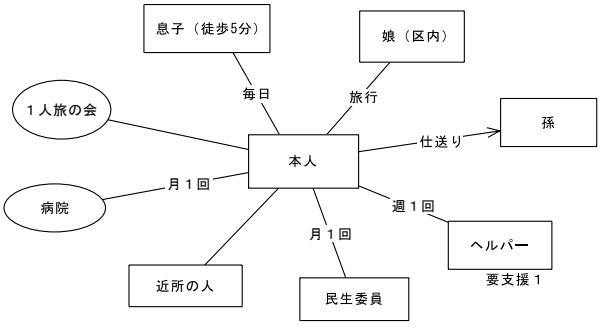
食事の準備が苦手で困っている。近所との付き合いはほとんどなく、挨拶も交わさない。若い人が多く、挨拶しても返事をくれない。民生委員が月に１回訪問し、困っていること等聞いてくれる。コミュニティセンターの集会にも誘ってくれたりする。

前立腺肥大で頻尿、夜５～６回起きてしまう。月１回通院し、他の病院に紹介してもらっている。睡眠剤を服用しすぎ調子を崩したこともあった。年のせいで膝が弱り、歩くのが大変になってきた。要支援１の認定を受け、ヘルパーを週１回利用している。苦手な調理を手伝ってもらっている。

年金が月25万円、生活には困っていない。むしろ「余っている」と言っていた。孫に仕送りをしている。年収「200～399万円」。

毎日買い物に出掛ける。自転車で移動。人との触れ合いを求め、外出を心がけて駅まで行ったりする。年に数回旅行に行く。１人で行くことも多い。

具合が悪くなったら病院、施設に入りたい。本当は長男家族に同居してもらいたいが、迷惑をかけたくない。妻の介護の経験から大変さを知っており、ころっと死ねれば良いと考えている。墓は内野にあり、互助会に入会し、葬儀の心配は特にしていない。



男性・78歳・しもまち

海岸付近の住宅街にある10年前に立て替えられた市営住宅（４階／２DK）に住んでいる。家賃は24,300円。ゴミ捨てはヘルパーに頼み、掃除は有償福祉サービスを利用している。

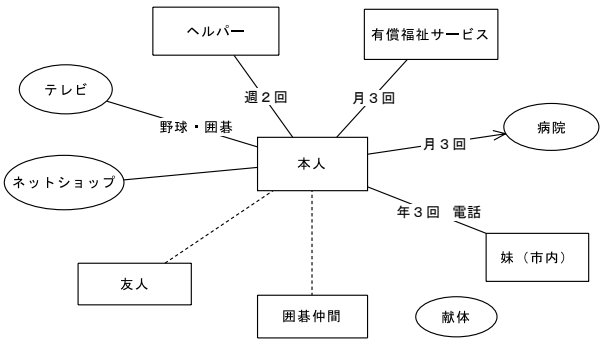
地方銀行に26年勤め、45歳の時に退職し、中小企業に転職した。平成元年に離婚、妻や子どもたちと連絡を取っていない。妹が２人新潟にいる。電話で連絡を取り合い、年に数回は会う。他の親戚とのやりとりはない。

近所づきあいはなく隣の住人の顔も分からない。民生委員が月に１回訪問に来て、話をする。そのとき町内の情報を教えてもらう。廊下の掃除は住民が交代で行うことになっているが免除されている。近隣の冠婚葬祭の状況はわからない。緊急時の支援者は「民生委員」。

障害者手帳（３級）を持っている。歩くのが困難、自宅の浴槽をまたぐのにも時間がかかる。座っていると腰を痛めるため、長時間座っていられない。月３回車で病院に通っている（近いうちに車を手放す予定）。介護保険のサービス（週２回月・木ヘルパー利用。主に調理、洗濯干し）と有償福祉サービス（掃除、月３回）を利用している。

収入は２ヶ月で40万円弱（厚生年金、国民年金）。年収は「200～399万円」、貯金はできないが不足はしていないという。一番の大きな支出は食費。通院以外に外出はない。買い物はネットショップと生協を利用している。

前の民生委員が囲碁好きでほぼ毎日対局していた。しかし、その方が亡くなってからは囲碁をしていない。コミュニティセンターに囲碁教室があることは知っているが、出掛けるのが大変であり、また集団での集まりが嫌であるため参加していない。自由に囲碁を打ちたいが相手がいない。飲み仲間がみんな死んでしまった。献体をすることにしている。



女性・65歳・みなみ

４LDKの分譲マンション。駅にも近く、大型ショッピングセンターも近い。マンションの角部屋でベランダも広い。13年前に現マンションを新築で購入。以前も近くのマンションに住んでいた。

新潟市内で生まれる。歯科衛生士の資格を取り、親戚の開業医に勤めていたが、28歳の時に市民病院の事務職となり、その後は市役所に勤務し、定年（60歳）まで勤める。結婚歴はなく、父親が死亡後母親と２人暮らしをしていたが、母親が特養に入所、12年前に死亡してから１人暮らし。

兄は市内、姉２人は県外（東京、盛岡）。姉２人とは交流は頻繁にあったが、２人とも高齢になったこともあり、現在は電話での交流が主になっている。兄とは年に２回（盆、正月）程度。

固定資産税（11万９千円）など税金関係が予想以上に負担となっている。昔はもう少し余裕があって生活していたと思うが、現在は何を買うにも考えてしまう。マンションでの生活なので、現時点では困っていることはそれ程ないが、雪の時はやはり除雪に困った。

マンションの同じフロアで２軒程親しくしている。家の中まで行ってお茶を飲んだりするほどの交流はない。そこまでは自分も煩わしさもあり望んでいない。

現在は通院している病気はない。１人暮らしなので健康には気をつけている。スポーツなど積極的に行っている（減量に取り組み中）。

年金、個人年金。税金の支払金額・期日を一覧表にしてリビングに貼ってあった。年収は「200～399万円」、経済状況は「余裕はないが生活していくには困らない」。

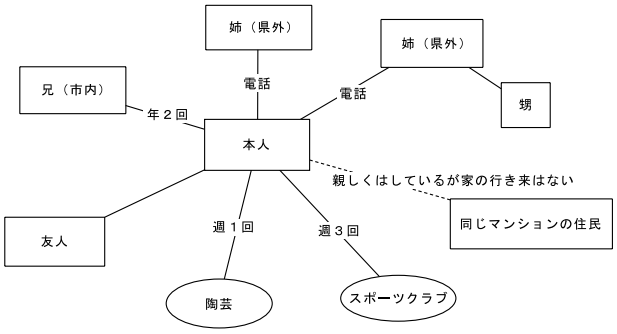
週３～４回はスポーツクラブで、毎週木曜日には陶芸教室も若い頃から通っている（秋葉区）。買い物は週２回、だいたい火・木曜日の午後。１週間のサイクルは決まっており、生活は規則的。

町内会の行事には参加していた。ボランティア等

にも興味があったが、いろいろあって自分には向かないと思って現在はしていない。スポーツクラブ、陶芸などは続いており、積極的に楽しんでいる。

趣味、買い物、友人との交流など外出は負担なく行っている。自分で車を運転している。

日常生活は自立しており、趣味活動、友人との交流も良好で安定しているが、子どもがいないこともあり、将来への不安は大きくある。将来は県外在住の姉の息子を頼りたい気持ちはあり、成年後見制度にも興味ある。最終的には自宅を処分して施設入所も考えている。



（4）類型４　緊急時の支援者「あり」×近所づきあい「よくしている」

女性・77歳・上新潟島

古くからの住宅街にある木造２階建てアパートの１階に居住。築30～40年。ここに住んで25年になる。居間兼寝室の６畳間と３畳の物置スペース、風呂、トイレがある。居間に敷いているカーペットや風呂の敷居につまずいて転倒することがある。また、風呂の浴槽が据え置き式のバランス釜なので、出入りが困難になってきたことにより、手すりの取り付けを検討している。

16歳で家族を亡くして以来、弟（８歳下）を養うために小学校で学業を終え、洋裁等で生計を立てる。17～23歳まで結核の治療のため入院生活を送る。その後、居酒屋の洗い場や大手通信会社の雑役婦を行い、昼夜かけもちで仕事をすることが多かった。結婚暦はなし。両親・兄・弟（２人）・妹との５人暮らしであったが、16歳までに弟１人を残して全員病死。市内在住の弟とは電話での連絡が時折ある。いとことも電話や年賀状でのやりとりがある。

少し遠出をした際、移動手段がタクシーしかないので、金銭面を考えると、外出の回数を控えざるを得ない。体調が悪い時に買い物やごみ出しを気軽に頼める親しい人が近所にいる。また、お互いに安否の確認をしている隣家の老夫婦がいる。

昨年10月に自宅前の水溜りに足をとられて転倒。左肩を強打し、神経を傷め、入院・手術。現在は、経過観察の定期通院は終了。しかし、左手の痺れは現存している。その他、白内障により、２ヶ月に１度眼科通院中。

昨年10月の転倒により、入院・手術した先の病院のケースワーカーから介護保険の申請を勧められ、認定を受ける（要支援１）。しかし退院後、サービスの利用はなし。今年５月に有効期限が切れても、更新の手続きはしなかった。本人としては、サービスの必要性が出たら、地域包括支援センターに連絡し、手続きをしたいと思っている。

厚生年金と国民年金を合計して２ヶ月で、20万円弱の手取り。支出の内訳は、食費・生活費で５－６万円。家賃が３万４千円。その他、光熱雑費で年金を使い切る状況。弟の借金の立て替えや冠婚葬祭費は貯金を引き出して使っている。香典はだすが、式に参加することはない。年収は「50～99万円」で、経済状況は「かなり苦しい」。

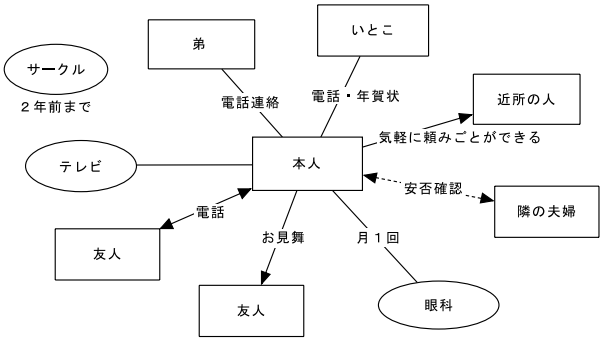
朝８時前後に起床。すぐに入浴し、その後朝食。朝食はパン、牛乳、果物（バナナ、りんご等）。その後、家事をやりつつ趣味の水彩画や昼寝をして昼間を過ごす。食事は、習慣的に昼食はとらず、１日２回。夕食は17時くらいにとり、その後テレビを見たり、友人に電話をかけるなどして、23時に就寝。買い物は週２回。洗濯も週２回。２週間に１回、老人保健施設に入所している友人の見舞いに出掛けている。

足が不自由になる２年前までは水彩画のサークルに参加していたが、現在は行っていない。回覧板がいつからかなくなった。

週２回歩いて５分位の商店に買い物に出掛けている。通院、友人の見舞いや銀行等にはタクシーを利用している。たまに車を持っている人が出かけるときに一緒に連れて行ってもらえたりする。

体調が悪くなったら、年金内でやりくりできる施設に早く入りたいと思っている。他人や身内に迷惑

はかけたくないという思いが強い。墓は本人が建てたものがあり、死については毎日考えている。自分より、弟が先立ってくれることを願っている（弟に対する親のような思いが強いため）。



女性・64歳・江東

古い住宅街で、木造２階建て。細い路地を入った所。築27年、固定資産税は年５万４千円。普段は茶の間で過ごし、隣の部屋で寝ている。ゴミ捨ては自分でできる。階段が急なので手すりが欲しい。

生まれた時からこの土地で。飲食店で２年働き、その後40年駅前と万代で経営。８年前に辞めた。清掃の仕事をし、70歳まで続けたかったが病気のため辞めた。３年前、食道ガンになり、手術をし、現在も通院中。未婚。昭和40年に父が、平成７年に母が亡くなりひとり暮らしになった。５人きょうだいの末っ子で、兄が２人、姉２人。兄１人は生きているが、他のきょうだいはみんな亡くなった。生きている兄もガンで弱っている。姪っ子とは仲が良く、旅行に行ったり、家に来たりする。甥っ子はあまり交流がない。兄とは連絡を取り合っている。

ガンの再発が心配。収入がないので、将来の生活費も心配。昔、空き巣に入られ、セキュリティが不安。除雪は手術の傷が痛むので辛い。役所の職員の知識のなさに不満を感じることもあるという。

近所の人の状況をよく知っている。花が好きなので花について外で近所の人と話すが、家に入れたり深くは関わらない。家に入れるのは、２人の友だちのみ。葬祭には参加するようにしている。自治会もあり、回覧板も回ってくる。

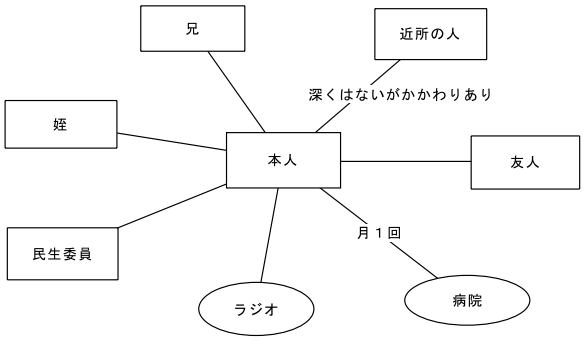
３年前から食道ガンで、３ヶ月に２回通院。MRIは年２回検査。その時、不安と安心が半々。薬を飲んでいる。寒くなると手術の痕が痛くなる。食べ過ぎると苦しくなる。

収入はない。年金はかけていなかった。しかし、飲食店を辞めた時貯金が4,000万円あり現在までに1,500万円使った。今は大丈夫だが、今後足りるのか不安。生活保護も考えている。医療費の出費が大きい。70歳まで働こうと思っていたが、病気で計画が崩れたという。年収は「100～149万円」、経済状況は「かなり苦しい」。

７時起床、21時就寝。３食食べている。洗濯は３日に１回ほど。１日１合のお米、朝はそうめん。この１週間で来客が５回、外出が４回。行き先は市場、薬局、図書館、歯医者。最近、姪と日帰り旅行の予定もあったが雨で中止になった。

花が好きで、家の周りでたくさん花を育てている。読書が好きで図書館へよく行く。友人と市場へ行く。以前は散歩をしていたが、姉の死のショックから、行かなくなった。女性が集まると、人のうわさ話になるのが嫌なので集まりたくない。買い物は２、３日に１回、歩いて５～６分の所へ行く。最近、近くにできた市場へ行く。冬のために生活用品を買い置きしている。近所に銀杏拾いに行く。

ひとりには慣れたが不安である。民生委員と仲が良い。セキュリティや緊急時が不安なので、民間警備会社のようなシステムの導入を行政に無料でしてほしいと思っている。家族が皆、ガンで亡くなっているので、自分のガンの再発が一番心配。また、お金のことも心配。



女性・91歳・しもまち

持ち家一戸建て。数年前に道路を広げる工事を行い、車庫を半分削られる。家自体は古いが、きれ

いに手入れされている様子であった。１階に居間・寝室。客室・台所、２階に部屋があり１部屋６畳程。あらゆる部屋に折り紙で作られた作品が飾ってあった。

新潟生まれ１人っ子。夫は17年前、１人息子は家庭を持ったが亡くなった。お茶の先生を約40年され、家とコミュニティセンター、村上で教えていた。趣味が多くお茶・琴・折り紙・俳句・琵琶・三味線・盆石他多数。

夫と息子が亡くなり、孫夫婦とはたまに連絡を取る程度である。いとこが近所に住んでいる。日常生活の困りごとは、特にない。

近所の住民、俳句仲間、お茶仲間、民生委員など頼れる人が周りにたくさんいる。自宅には人がよくやってきて、困りごとがあるかどうか聞きに来てくれる近所の人がいる。ゴミも隣近所の人が捨ててくれるとのこと。俳句仲間同士で、趣味で作った作品をプレゼントしあったりしている。緊急時の支援者は、「近所の人」と回答している。

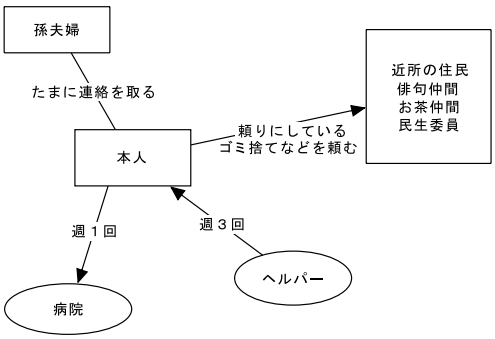
腰が悪く、杖をつくほどではないがあまり外出はしない。最近はめまいが多く、血圧の上がり下がりの波があり、体調が悪いこともあった。食欲不振の時もある。血液検査の結果は良好。胃の検査はまだ受けていない。

介護保険制度利用（要支援２）。ヘルパーが週３回、そのうち２回は入浴介助をしてもらっている。

収入はわずか。特に欲しいものはないため、生活には困らない程度の状況。年収は「100～149万円」、経済状況は「やや余裕がある」。

この曜日に何をするという決めごとはないが、３ヶ月に１回内科に、火曜日は大体毎週痰を切る薬をもらいに行き、腰のリハビリで近所の整形外科に出掛ける。お茶会を不定期に自宅で開き、趣味の折り紙などを教えている。朝８時起床、夜は０時前に寝るとのこと。だいたい19時以降は自分の趣味の時間に使う。社会参加活動は特にしていない。

現在、生活が充実しており、今後も特に不安もなくいろいろな人に頼りながら生活していきたいと思っている。



女性・80歳・みなみ

分譲マンション、14年前に購入、オートロック。10階建て１階に居住。３LDK。自分で描いた絵（色鉛筆）が壁に飾られている。

長岡生まれ、４人姉妹の３番目。父は呉服屋経営、母を小６の時に亡くしている。女学校３年の時に戦災にあい、戦後洋裁学校に４年通う（ダンスと歌を習っていた）。結婚を機に東京へ移住（20歳頃）。一度も勤めに出た経験がない。夫が脳梗塞で倒れ、要介護の状態となった為、郷里の姉妹を頼って新潟へ。以降、現在のマンションで暮らす。夫は平成11年に他界。姉は、市内に住んでいて、脳梗塞で足が悪い。妹は近所に住んでいて、月に１回程会い、電話連絡は週に数回している。それぞれの誕生日には姉妹３人で会って食事をすることになっている。妹の娘がいるが、交流はほとんどない。

マンションの住民とは、顔を合わせば挨拶をする程度だが、声かけをしてくれたり、おかずを持ってきてくれたり、家具のやりとりをしたりする人が４人いる。町内会の食事会などにはこの人たちが誘ってくれる。

膝や腰が痛むので、長時間歩くことが出来ない。遠くの病院や役所へは、バスかタクシーを使うが、費用がかさむ為、あまり行かない。何をするにしてもお金がかかるので、手を出せないことも多い。平成６年、脳動脈瘤の除去手術。右肩、左肋骨の骨折有り。骨粗鬆症、膝関節変形症、めまいなど。あちこち痛むので長時間歩いたり、座ったりが困難だが、なるべく歩くようにしている（歩きすぎないように、転ばないように注意して）。朝、５時頃に目覚めるので、ベッドの中で体操をしたり、ルームランナーで運動している。利用している制度はない。

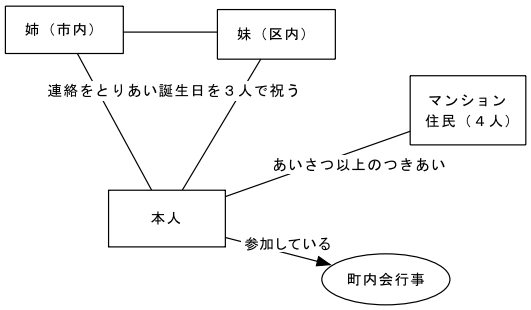
収入は年金のみ。有料老人ホームへ行くほどのお金はない。趣味で絵を描いていて、習いに行きたい

と思うが、月謝やその後のお付き合いなどで費用がかかるので、行けないでいる。余計なものは買わないようにしている。年収「100～149万円」、経済状況は「かなり苦しい」。

マンションの目の前がスーパーマーケット。買い物にはほぼ毎日出掛ける。１週間のうち、決まった外出先はなく、必要に応じて通院など用事を足す。家ではテレビ観賞、絵を描くなどして過ごす。

町内会の行事には、なるべく参加するようにしている（食事会・防災訓練・草刈りなど）。他の参加者と会話が上手くできないので、友達が出来ない。東京暮らしが長かったこと、勤めに出た経験がないことで、新潟には昔からの友達がいない。

自分が死んだ後のことが、心配でたまらない。家財道具の処分や、仏壇のこと、全部整理して養老院に入りたい。施設でぽっくり逝きたい。



女性・95歳・上新潟島

住宅地の中にある持ち家一戸建て、築60年。段差が高いところもあるが、手すりや杖を使用して歩行している。自分で掃除をしている。ヘルパーに週１回燃えないゴミを捨ててもらう。他のゴミは自分で捨てにいく。

佐渡出身。東京へ行き、夫と出会い結婚。終戦後、夫の仕事がなかなか見つからなかったが、金融関係の仕事につくことができた。自分は専業主婦。子どもはいなかったが、新聞広告で里親募集を見て、養育里親をする。６件を受け持った。しかし、養子縁組をしなかったので、しておけばよかったと今になって後悔している。里子とは大きくなって疎遠になっている。夫が亡くなり、独居となって13年。

姉は104歳で健在。佐渡に住んでおり、自分のことをよく気にかけてくれている。西区にいる姉の娘が、３日に１度訪れてくれる。他の兄弟は特に面倒は見てくれない。夫の兄弟の子の嫁が東京に住んでいる。困ったと感じると、周囲の人が手を差し伸べてくれ、困った状況にはならずにすんでいる。

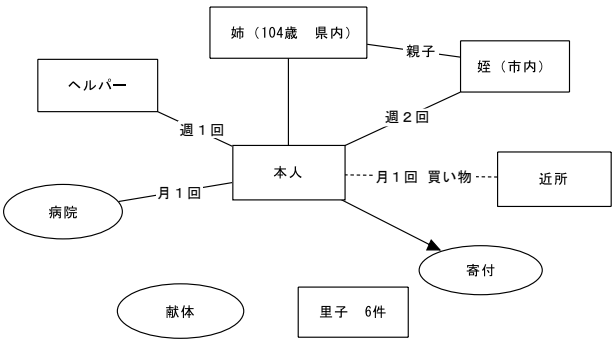
隣の家の人が良くしてくれている。ゴミ捨て、買い物等声をかけてくれる。知り合いの人が病院に連れて行ってくれたりする。ゴミ捨ての際に、近所の人を見かけると話をすることもある。お互い体調が悪く、家への行き来はない。

右足（膝）が痛い。杖をつけば歩行可能。痛いことをあまり人には言いたくない。介護保険を利用、要支援２。ヘルパーを週に１回、１時間のみ利用。掃除や力仕事を主にしてもらっている。デイサービスは週に１回、最初は週２回利用していたが、窮屈、退屈に感じ、１回にしてもらった。

月収は本人の年金と遺族年金で月10万くらい。年収「200～399万円」。生活は年金で十分足りている。夫が残してくれた遺産があり、色々なところへ寄付をしている。困っている人がいるとお金をあげている。用があったときに出掛けるが、遠出はせず、タクシーで移動。徒歩５分くらいの所もタクシーを利用。

自分のペースに合わせて生活している。起きたいときに起き、食べたいときに食べ、好きなように生活している。読書、花の世話が趣味。

最期は献体を希望している。お墓はあり、姪が守ってくれている。遺言を準備しており、普段世話をしてくれる姪に全ての財産を渡したいと考えている。



女性・80歳・しもまち

持ち家一戸建てで、ローンは返済済み。固定資産税が年３万２千円。築45年で、隣が実家（兄家族が

住んでいる)。現在の家の土地は実父にもらう。２階は男性に貸している。室内は整理されており、ヘルパーが掃除してくれる。ゴミ捨ては自分で行く。以前は敷居につまずき転倒があったが、現在は改修して、転倒の危険も無く過ごしている。

若い頃に結核を発症し、入院していたことがある。30歳で結婚、共働きで60歳まで建設業など経理事務で働いていた。夫も結核を患っていた。製造業で定年退職まで働いた。５年前に亡くなり、それから１人暮らしをしている。１人暮らしは不便だと感じている。

子どもはいない。５人兄弟の４番目。隣に住む兄は寝たきりで姪夫婦が介護している。姪はよく家に来て、困りごとなど手伝ってくれるなど行き来がある。長姉は認知症で施設に入所している。家族が、手紙などで様子を知らせてくれる。次姉はアメリカ、妹は埼玉にいる。親戚との行き来はなく、正月は１人で過ごす。

お金が無いことが一番の困りごとと感じている。２階の住人（電気屋勤務）が雪かきをしてくれた。電気が切れたらすぐに何かとしてくれる。だが、荷物をたくさん廊下に置いていて、言っても片付けてくれない。他のところに引っ越すか声をかけたこともあるが、出て行かれると困ることも多いと感じている。ノンステップではないバスは医者に乗らないように言われている。

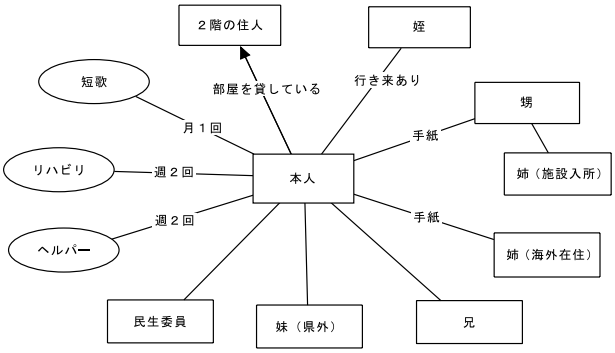
近所は年配の方が多く、行き来はない。民生委員はよく来てくれる。冠婚葬祭はお金を借りてでも参加するが、負担に感じている。回覧板は実家に渡している。頼みたいことは民生委員にお願いしていて、近所の人には頼みにくいと感じている。

左肺を切除、白内障の手術をしたことがある。脳梗塞を40歳前に発症し、左半身麻痺。現在は近くの医院に、週１で往診してもらっている。薬は、ヘルパーか薬局の人が届けてくる。サプリメントも飲んでいる。坂を上るのが辛い。片麻痺の関係で鍋のお湯をこぼしてしまい、左足をやけどする。治りはしたが、入浴すると痛みが生じるため、シャワー浴しかできなくなった。ヘルパーを週２回利用している。掃除、買い物、野菜の皮むきをしてもらっている（月4,500円)。リハビリは週２回の送迎あり（月2,700円)。デイサービスへ以前は行っていたが入浴できなくなったため、現在は行っていない。

老齢年金が２ヶ月で20万円。食費、ヘルパー、リハビリに使い、ギリギリになる。年収は「100～149万円」、経済状況は「かなり苦しい」。

６時に起床、０時に就寝する。昼間寝てばかりいるので眠れないため。食事は３食とっている。仏壇のために朝ごはんを炊く。あとは即席のみそ汁。蕎麦屋に出前を頼むこともあるが、めったにはしない。洗濯はたまったらする。天気が良い時には日に当てる。短歌をやっていて、月１回自治会館へタクシーで行く。自宅に先生や生徒を招くこともある。その後、西堀の居酒屋で飲んだり、カラオケをして楽しむこともある。

今後については、人に迷惑をかけずに、いっぺんに死にたいと考えている。施設に入ると、お金がかかってしまうため。１人では生きていけないと感じているという。



女性・68歳・上新潟島

民間賃貸アパートの１階に居住している。駅から近く、交通の便は良い。居室は６畳と４畳半の二間であるが、常にふすまを開けて生活している。家賃は月４万２千円だが、振込料が315円かかっている。

母が亡くなった後、姉夫妻と西区で生活していたが、１人暮らしを望み、現在のアパートに移ってきた。古町の洋食屋でレジ打ちの仕事をしていたが、リウマチを患い39歳で退職した。若い頃は好きな人もいたが、兄妹が先に家を出て行き、母を置いて結婚することはできなかった。８人兄妹の内、兄が２人亡くなっている。同市内に、すぐ下の弟が住んでいるが、その弟とは１週間に１度程度、頻繁に連絡を取り合っている。弟が車で家に訪れる際には、買

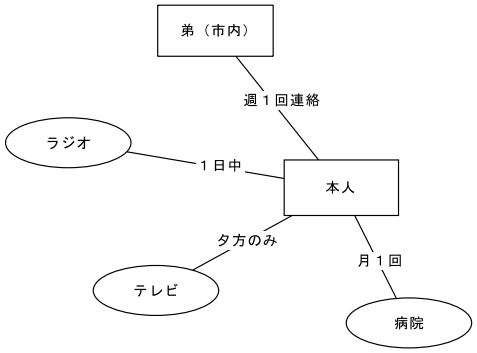
い物をお願いしている。他の兄妹とも月に１度程度電話で話をしているが、つい長電話（１時間ほど）をしてしまう。

洗濯物を干すのが大変。リウマチで手が上がらないので、干すときは孫の手の先の溝にハンガーを挟んで、物干し竿に引っ掛けている。雪の日はゴミ捨てが大変で、１週間くらいは出さなかった。ゴミ捨ては人に頼みづらいと感じている。ビンのふたやキャップなど開けられないときは、近所の人に開けてもらう。近所の人が家を改築していた頃、自宅のお風呂を貸したことはある。週に１回程度、近所の人が話に来る。回覧板は声をかけてまわしているが、同アパート２階に住む人には回していない。以前、自分が部屋でラジオを聞きながら唄っていると、声がうるさいと苦情が出たことがあり、口論になったことがある。

リウマチのため月に一度大学病院、半年に一度専門病院へ通っている。昨年、乳がんの手術をした。過去に６度の手術を行っており、もう手術は「恐くない」と話す。リウマチと診断された頃が一番辛かった。介護保険は制度説明を受けに区役所へ行ったが、しおりをもらっただけで申請はしていない。医療については、「県障」（重度心身障がい者医療費助成）を利用しているので、医療費が助かっている。

収入は厚生年金のみ。決して多くはないが、贅沢をしなければ、それなりに生活する上で困ってはいない。仕事をしていた頃は貯蓄があったが、リウマチの医療費や食事療法で使ってしまった。年収は「100～149万円」。

起床は８時15分、服薬、掃除を済ましてから朝食。就寝は11時15分、一晩中ラジオをつけっぱなしにしている。夜中、途中で目が覚めても、ラジオを聞いていると、またすぐに眠れる。テレビは夕方しか見ない。ラジオの方が面白い。お風呂はシャワーのみ。買い物は週に１度、スーパーや本町でしている。家のすぐ近くにも大型スーパーがあるが、広すぎて買い物しづらい。移動はできるだけバスを使っているが、冬や夜についてはタクシーを利用している。



お墓は見附市にあり、年に１度も行かない。兄妹に管理してもらっている。親も言っていたが、「死んでしまえば淡雪と同じ」で、葬式にはお金をかけないで欲しいと思っている。

男性・66歳・江東

住宅街の中の二階建ての一軒家。築60年で土地は借りているが建物は持ち家。４年前に新潟に戻ってくる。家を継ぎたくないが、継ぐ人もいないため仕方なく住んでいる。土地は年５万円で借りている。来たばかりはボロボロで自分で壁紙、障子、ふすま、室内灯等を修繕した。亡くなった母の名義を変更しておらず、固定資産税はどうなっているのか分からない。

４人兄弟の末っ子で、父を戦争で亡くしている。母が子ども４人を育て、貧乏な生活を送っていた。中卒で鉄骨組みの仕事に就き、その後大手運送会社の荷物の仕分けの際、左手人差し指を１関節なくし危険を感じ転職した。その後新潟県内外で転職を繰り返す。最長職はタクシーの運転手。未婚でずっと１人暮らし。兄弟とは仲が良く、近くに住んでいる兄と連絡も取り合い、家にも来る。自分の死後の希望を兄弟に伝えてある。迷惑はかけたくないので、自分からは助けを求めないという。

心配事や不安はたくさんある。自分の生活レベルに合わせた生活をすれば良いと思っているため、困ったことがあっても我慢すれば良いという考え方にある。幼馴染の民生委員が近くに住んでいる。たまに自宅で飲んだりすることもある。近所の人とは挨拶をする程度。近くに同級生がいるが連絡は取り合っていない。葬祭は頼まれれば参列している。

十数年前から血圧が高く、服薬している。２ヶ月に１回受診。年とともに体調は悪化してきているが、年だからしょうがないと考えている。風邪などで寝込んだ際は、治るまでじっと動かず、自宅療養をしている。健康維持のため（人の世話になりたく

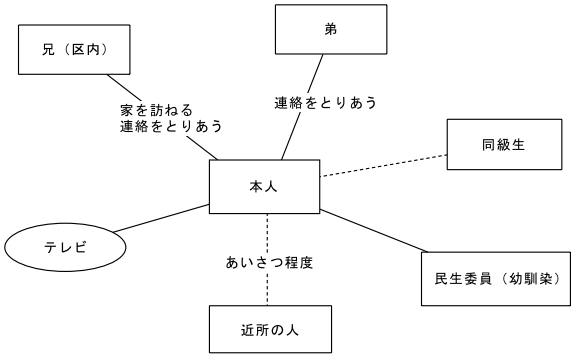
ないという考えから）毎日２時間歩いている。

厚生年金と年金基金で月に14万程度の収入。年収は「150～199万円」、経済状況は「余裕はないが生活していくことには困らない」。収入に合わせた生活をすれば良いと考えて生活しているため、金銭的に困っていることはない。負担に思う費目も特にない。

朝６時起床。朝食はバナナ、さつまいも等ですませる。昼・夕はしっかりと食べている。調理師の免許を持っていることもあり、調理は自分で行う。午前中、ワイドショーを見て情報を得る。クラシックを聞いたり、映画を見ることもある。15時くらいから晴れていれば毎日、２時間くらい歩く。帰りに買い物をする。民生委員に頼まれ、地域の防災組合の防災組長をやっている。

山登りを年に３回くらいする。泊まりで県外に行くこともある。山登りは30歳くらいから始め、昔は仲間がいたが現在は１人で行っている。買い物・散歩で晴れていれば毎日外出しているが、誰かと触れ合ったりすることはないという。

１人暮らしは孤独で寂しいと感じているが、１人でいる気楽さも感じている。自分は１人で生きていけるという強い気持ちがある。



女性・80歳・みなみ

住宅街の一軒屋。庭、車庫付き２階建て。２階は２部屋あるがほとんど物置状態になっている。近所にはスーパーや病院、南出張所がある。

出身は中条で、兄はすでに亡くなっており、妹が実家を継いでいる。妹の息子が市内に住んでおり、何かあれば来てくれる。職歴は、卒業後病院に15年勤務したが、病気のため退職した。それから編み物学校に２年通い、その後診療所（嘱託）で12年勤務した。退職後は専業主婦となり、家でニット裁断の内職をしていた。銀行員だった夫を10年前に亡くし、独居となる。子どもはいない。

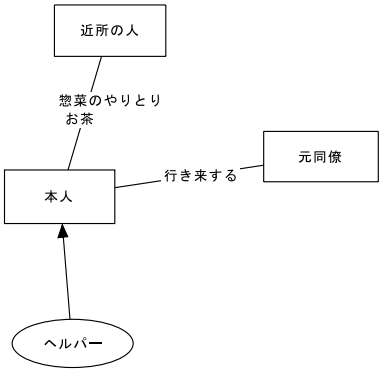
日常生活の困りごととしては地震・雷などの天災。除雪は近所の人がしてくれて、ゴミ当番も近所の人が代わりにやってくれることがある。足が悪いため、外出時はタクシーを利用するので、タクシー代がかかってしまう。脚と手が悪いので、歩くこと、物を持って歩くことが大変と感じている。

近所の人々との交流・付き合いが多く、惣菜のやりとりやお茶飲みも頻繁である。病院時代の友人とも仲が良く、１時間くらい電話で話をしたり、お互いの家の行き来もある。友人に手紙を書くことも好きで、今年も45枚程年賀状を送る予定である。

股関節が悪く身体障害者４級、左股関節を手術し左脚の可動域に制限がある。左手首を骨折し現在金具が入っており、やや拘縮気味である。振戦もある。３ヶ月に一度近所の診療所で血液の検査をしている。要支援２で、ホームヘルパーを利用し、トイレ・風呂の掃除、ストーブの給油など家事支援を受けている。

収入は自分の年金と夫の遺族年金。年収は「150～199万円」、経済状況は「余裕はないが生活していくことには困らない」。税金もそれほど負担になっていない。交際費（近所の人へのお礼にビール、砂糖、油、現金など）がかかっている。

朝６時45分に起床し、朝食、洗濯、掃除、新聞を読み、１時間半ほど横になってテレビを見て日中を過ごしている。15時30分頃から夕食の準備を始める。食事は３食、自炊している。ゴミ当番以外はほとんど社会参加活動をしていないが、そのゴミ当番



も近所の人に頼みがちになっている。外出は、週に２回ほど買い物、３ヶ月に１回の受診、近所へお茶を飲みに行く程度。

夫が亡くなったときに自分の実家の墓があるお寺に墓を作った。将来は面倒を見てくれる人がいないので、有料でもいいので老人ホームに入る覚悟をしている。

女性・83歳・江東

15年前に石山の一戸建てから雪掻きなどの便を考え、分譲マンションへ転居してきた。ごみを外へ出さずにダストボックスを利用できる13階に住むことにした。管理費は１万５千円程だが、雪掻きや掃除の心配がいらない。3LDK。最初の２年は高層階にクラクラしたり、体調を崩したりしていたという。

22歳で結核になる。職には就けなかった。３年入院し、退院後31歳で結婚。夫は自営業だった。子どもはいない。２人兄弟で兄は７月に亡くなった。夫の家族も夫の弟を残してみんな亡くなっている。行き来のある親族は、自分の兄の妻と夫の弟の妻。市内に姪がいるが、あまり頼みごとをできるような仲ではない。

困りごとは介護度が要介護1から要支援1に下がりサービス量が減ったこと。体は年々衰えていくのにサービスの内容が薄くなり、不安を感じている。メールボックスが２階にあり、体調が悪いと新聞など取りに行くことが出来ない。

マンション内では、同世代で「安心連絡ラブコール」という体制を利用して、毎日必ず９時に３階の人と電話で安否を確認し合っている。鍵を預け合って助け合える仲間がいる。両隣の人とも世代は違うが交流がある。かわら版が時々くる。輪番制で当番などもあるが、高齢のため役にはつけないことを伝え断っている。ネット上では、ブログなど、世代関係なく広い交友関係がある。同級生から電話がくることもあり、聞き手になることがある。

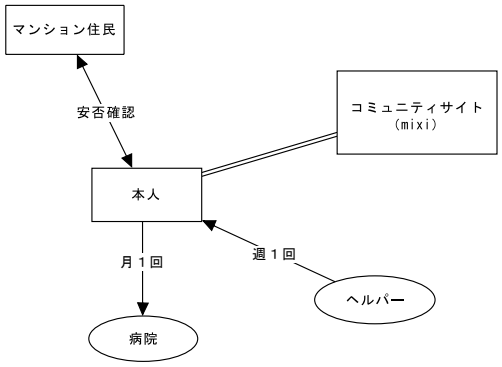
慢性呼吸器低酸素結症（COPD）で、病院に月１でタクシー通いしている。ヘルパーを週１回、１時間30分頼んでいる。以前は買い物と掃除を頼んでいたが、生協の宅配サービスを利用しているため、今は掃除が中心である。週１回、「安心連絡システム」を利用している。親類に甘えられない状況のため、行政を頼りにしているという。

年金と遺族年金で月18万円の生活。頂き物のお返しなどで意外と交際費がかかる。他にはタクシー代や医療費。固定資産税（年18万円）が負担で生活費からは出せないため、貯金から出している。年収は「200～399万円」、「余裕はないが生活していくには困らない」。

特に決まったスケジュールはなく、何か予定がある時は体調を整えておき、普段の予定も体調と相談して決めている。朝８時半に目覚ましをセットし、９時前に３階の友人に電話する。夜に洗濯やパソコンなどをして過ごしている。気がつくとパソコンで１時間使っていたりするという。

「はまなす会」に携わってはいるが、体調が悪く参加があまりできないでいる。インターネットをかなり活用しており、“mixi”などコミュニティーサイトも利用して外とやりとりをしている。病院にはタクシーで、それ以外は徒歩で、万代周辺を散策している。転倒するまでは自転車を利用していた。

夫の墓が西堀にあり、そこに入る予定。お寺に供養代を納めたり、業者に最小限で作業が片付くよう手配するなど、姪に手間をかけず葬儀ができるよう、今から備えている。マンションの整理屋手配や部屋が売れるまでの固定資産税の支払いなども細かく考えて身内に託している。



３．ひとり暮らし高齢者の困りごと・不安

最後に、２次調査で挙げられた具体的な困りごとについて、その内容を取り出して紹介したい。内容については、（１）日々の困りごと、（２）将来の不安に分けて、整理した。類型にかかわらず、様々な

困りごと・不安を抱えているひとり暮らし高齢者の姿をみることができる。

（1）日々の困りごと

・日常的な困りごと

「電球の取り替え、高いものをとること」（76歳女性）、「足下が不安で、電球を代えられない」（73歳女性）という、体力的な衰えとあわせて、それまでパートナーがやっていたことへの不安がみられた。「リウマチのため手が挙がらないので、洗濯物を干すのが大変。ビンのふたやキャップなど開けられないときは近所の人に頼んで開けてもらうが、ゴミ捨てだけは人に頼みづらい」（68歳女性）、「掃除。特にコタツが重い。掃除でヘルパーを利用したいと思っているが、近所の目を気にして、利用をためらっている」（88歳女性）という病気や加齢によって家事が思うようにできないこと、ゴミ捨てや掃除などを近所の人やヘルパーに頼むことへ抵抗感、周りの目を気にしている様子がみられた。

・訪問販売・防犯体制について

訪問販売の多さや防犯体制への不安が多く挙げられた。特に女性が多く、「１年前に、不審者２人に家にあがられた精神的なショックが大きく残っている。それ以来訪問販売などへの不安が大きく、鍵を閉めるようにしている」（65歳女性）、「商売の人がよく来るので、いつも鍵をかけている」（84歳女性）という声があった。男性でも「布団などの訪問販売がうるさいので、午前中は玄関を閉め切っている」（91歳男性）という声があり、訪問販売によって閉め切りをしているという様子もみられた。

また、防犯上の不安ということで、「防犯上不安があり、近所は寂しいので、警察にまめに姿をみせてほしい」（78歳女性）といい、この方は「防犯上、人がいるようにみせるため、できるだけテレビをつけている」という。その他、「訪問販売が多く断り切れず受けてしまう」（74歳女性）という方もいた。警察が「週に１回家に立ち寄って、注意喚起」（79歳女性）している。

・買い物について

買い物については、今はできているが、今後が不安というものあった。「買い物は歩いて15分のスーパーに行っている。足に少し痛みもありいまは困っていないが、今後の買い物に不安がある」（73歳女性）、「ふだんは徒歩10分のスーパーに行っている。歩けなくなれば、ヘルパーに買い物を頼まないとならないが、お金がかかるので生活できなくなると思っている」（77歳男性）というものがあり、徒歩で10分、15分というのも不安な範囲であることがわかる。

・経済的不安について

限られた収入による制約と支出を切り詰めている状況が示されている。そのなかで、「固定資産税」の大きさも経済的な不安の一因となっている。「収入がなく、貯金を取り崩しての生活のため不安が大きい。家賃３万２千円。通院は徒歩。市の風呂券を使い、入浴は週に１回。節約をしている。敬老の祝い金として市から５千円、町内から２千円いただき、涙を流して喜んだという」（78歳女性）、「会社の倒産によって年金が少なく、収入は２ヶ月20万円の年金だけ。食費、ヘルパー、リハビリの費用でギリギリの生活をしている。冠婚葬祭が一番の出費で、ないときは借りてでも払わなければならない。きょうだいも年金生活者で、姉は認知症であり、頼ることができない」（80歳女性）など、不安定な経済状況とそれによる節約の状況が語られている。

固定資産税についても多く挙げられており、「自分の年金５万円と遺族年金10万円の月15万円での生活は大変。そのため外出が少なくなった。固定資産税の10万円を大きな負担と感じている。バス代がもったいないので、自転車が主な移動手段」（73歳女性）

「収入が少ないことが一番の困りごと。収入は、集金の仕事の１万円と国民年金の６万円のみ。固定資産税を年17万円支払っている。負担に思う費目は、社会保険料、固定資産税、薬代。洋服は買わず、昔のものを仕立て直して使っている。食材も見切り品を買っている。バスにはなるべく乗らずに、利用するのは雨のときだけ。コミュニティセンターの帰りに友達に食事を誘われることがあるが、外食費がかかるので行かない」（83歳女性）

「固定資産税など税金関係が予想以上に負担と

なっている（年11万９千円）。昔はもう少し余裕があって生活していたと思うが、現在は何を買うにも考えてしまう」（65歳女性）、「年金と遺族年金で月18万円の生活。頂き物のお返しなど意外と交際費がかかる。他にタクシー代と医療費がかかる。固定資産税18万円（年）が負担で、貯金を取り崩して支払っている」（83歳女性）など、年間に10万円、18万円という固定資産税を年金などの限られた収入から支出しており、その他の固定的な支出とあわせて、節約をしながら、支払っている様子がよくわかる。

（２）将来的な不安について

・入院について

「自分自身の入院の際、保証人をみつけるのに苦労した。子どもがなく、姉が市内にいるが高齢で頼みごとはできない。行き来があるのは県外にいる義理の娘」（73歳女性）、「子どもがいなく、身寄りがないので、入院時の保証人がいないことが不安」（71歳男性）、「入院手続き、土地建物の処分、相続税などに不安を感じている」（81歳女性）。

・施設入所について

「出来る限り健康を維持して１人暮らしを続けたい。自宅に入れるうちは介護が必要になってもサービス利用して生活したいが、子ども達に迷惑かけたくないので施設に入りたい。自分が母親の介護で離婚するなど苦労したので子ども達には迷惑かけたくない」（71歳男性）、「具合が悪くなったら病院、施設に入りたい。本当は長男家族に同居してもらいたいが、迷惑をかけたくない。息子の嫁に世話されたくない。妻の介護の経験から大変さを知っており、ころっと死ねれば良いと考えている」（86歳男性）

「体調が悪くなったら、年金内でやりくりできる施設に早く入りたい。他人や身内に迷惑をかけたくない」（77歳女性）、「自分の死後について、毎日心配でたまらない。家財道具の処分や、仏壇のこと、全部整理して養老院に入りたい。施設でぽっくり逝きたい。整理してくれる業者がいるはず、費用面なども知りたい。初恋の人に会いたいと思っている。元気かどうかだけでも…」（80歳女性）

「人に迷惑をかけずに、いっぺんに死にたい。施設に入るとお金もかかってしまうため」（80歳女性）、「将来は面倒をみてくれる人がないので、有料でもいいので老人ホームに入る覚悟をしている」（80歳女性）。このように施設入所については、多くの人が口にしており、それだけ大きな不安となっていることがわかる。入所の理由として「息子の嫁に世話をされたくない」というのもあったが、多くが身内・近所に「迷惑をかけたくない」ということであり、それが、「施設入所したい」ということにつながり、入所することに「覚悟」という言葉もでていた。

・孤独死について

「病気になったとき、認知症になったときのことを考えると不安を感じる。身近で孤独死が起こり、妹に毎日連絡を入れてもらっている」（81歳女性）、「友人との会話のなかで、孤独死の話を聞き他人事とは思えない。倒れたときのことを考えると不安になる」（83歳女性）というように、「孤独死」が身近に起こり、自分自身のこととして考えている様子がうかがえる。

それが、「４月から生協に加入した。配達したものが１週間そのままだったら何かあったと思って警察でも呼んでくれるのではないか」（68歳女性）、「孤独死して近所へ迷惑をかけたくない」（78歳男性）など、迷惑をかけたくない、近所へのシグナルとしての宅配加入も特徴的と考えられる。

そして、「孤独死について、起こるのは当たり前だと思っている。亡くなってから長期間見つからないのは問題だが、誰かがみていて死ぬのは難しいのではないかという思いがある」（75歳女性）という声もみられた。

・お墓について

「自分がもし倒れても延命は望まないと、子どもに伝えてある。墓はないので、２年前に亡くなった夫の遺骨をまだお墓に入れていない。新潟市の市営墓地にでもいれようかと考えている」（78歳女性）、「お墓はなく、業者に遺骨の行く末を頼む」（77歳女性）、「佐渡に両親の墓があり、兄が墓守をしている。自分はでた人間なので、お墓はない。もしものことは考えていない。倒れたらそれまで。骨は牛乳瓶にでも入れてくれればよい」（77歳男性）

「お墓は、長女が亡くなった時に購入、妻も自分もそこに入るだろうとは思っているが、墓を守ってくれる人がいないので、共同墓地にしようかと考えているが、結論は出ていない」（71歳男性）、「先祖の墓の管理は弟に任せてあり、自分は樹木葬への登録をすませている。周囲になるべく迷惑をかけないようにと考えている」（68歳女性）

・献体について

そして、最後に、献体について触れられている回答もみられた。「身近に献体を希望している友人がいる」（81歳女性）という友人が献体するというものに加えて、「献体することにしている」（78歳男性）、「最期は献体を希望」（95歳女性）というように、ご自身が献体をすることにしているという声もみられた。

Ⅳ　調査結果から言えること

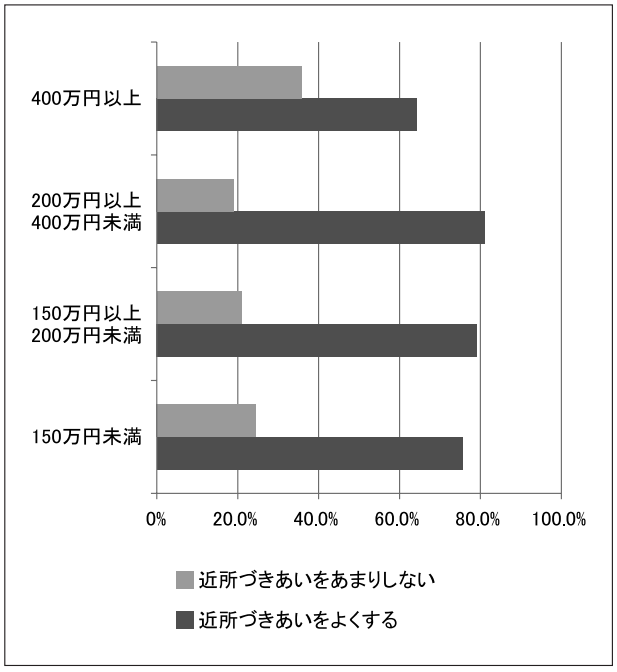
本調査で得られた新潟市中央区におけるひとり暮らし高齢者の生活実態と意識について、１次調査および２次調査の結果をみてきた。ここでは、本調査によって明らかになった点について、近所づきあいの程度、社会参加活動、困りごと、緊急時の支援者から整理したい。

１．近所づきあいについて

まず、近所づきあいの程度について、確認する。近所づきあいの程度を、「お互いの家を訪ねあう関係」と「会ったときに立ち話をするくらい」を合わせて「近所づきあいをよくする」とし、「あいさつをかわす程度」と「まったくない」を合わせて「近所づきあいをあまりしない」として大きく２つに分類してその傾向を見た。「近所づきあいをよくする」75.0％、「近所づきあいをあまりしない」21.3％であった。男女別にみると（付表６）、女性は「近所づきあいをよくする」が84.0％であるのに対し、男性は54.3％であった。女性の方が近所づきあいが得意な傾向にあることがわかる。

年間収入別にみると（付表７／図4-1）、「近所づきあいをよくする」は「150万円未満」75.5％、「150～200万円未満」79.1％、「200～400万円未満」81.0％と年収が高くなると比率が高くなっているが、「400万円以上」では64.3％に下がる。400万円までは年収が高くなるほど「近所づきあいをよくする」比率が高くなるが、それ以上になると「近所づきあいをよくする」が低くなり、年収の高いところで近所とのつきあいが疎遠になっている可能性もある。

図4-1　年間収入（４区分）×近所づきあいの程度（２区分）



「日常生活で困ったことがあったときに、誰に手伝ってもらうのか」別にみると（前掲表3-20）、近所づきあいの程度にかかわらず、「子ども（その配偶者、孫など）」が「困ったことがあったとき手伝ってもらう人」として、もっとも多いことに変わりはなかった。「近所の人」については、近所づきあいを「よくする」場合は32.8％、「あまりしない」場合には8.6％であった。また、「手伝ってくれる人がいない」人の割合は、近所づきあいを「よくする」場合には2.8％であったが、「あまりしない」場合には15.9％であった。近所づきあいをよくする人は、困った時に手伝ってもらえる人の選択肢が多いといえる。

また、近所の人に頼みごとをすることへの抵抗感についてみると（付表８）、近所づきあいを「よくする」は、「まったく抵抗を感じない」が15.6％、「あまり抵抗を感じない」19.3％であるが、近所づきあいを「あまりしない」場合は、「まったく抵抗を感じない」が9.3％、「あまり抵抗を感じない」12.0％で、「あまりしない」人の方が抵抗感を感じる割合が高かった。近所づきあいをよくする人は、近所の人に頼みごとをすることへの抵抗感は低くなっている。

このように近所づきあいについては、性別、年収別に違いがあり、その近所づきあいの程度によって、困った時に手伝ってもらえる人の選択肢、近所の人に頼みごとをすることへの抵抗感に違いがみられた。

２．社会参加活動について

ここでは、社会参加活動に参加していない人を中心にみていく。社会参加活動に参加していない人は全体の42.2％を占め、女性では41.0％であったが、

男性では47.2％とほぼ半数を占め、男性の方が社会参加活動に参加していない割合が高かった（前掲表3-28）。

年間収入別にみると（付表９）、「150万円未満」で55.3％と半数を超えていて、「150～200万円未満」39.7％、「200～400万円未満」34.9％、「400万円以上」27.9％となっている。収入が低いほど社会参加活動に参加していない人の割合が高くなっている。収入が社会参加活動に影響を与えていることがわかる。

社会参加活動に参加していない人に不参加の理由をたずねている（前掲表3-30）。「体の調子が悪い」26.8％、「自分の興味をひくものがない」22.9％、「ひとりでは参加しにくいから」18.8％、「参加したくないから」18.8％の順になっていて、「費用がかかる」は10.6％であった。男女別にみると（前掲表3-31）、男性は「自分の興味をひくものがない」、「体の調子が悪い」、「ひとりでは参加しにくいから」で、女性は、「体の調子が悪い」、「ひとりでは参加しにくいから」、「自分の興味をひくものがない」の順になっている。

また、外出頻度については、男性の方が女性よりも頻度が高い（前掲表3-24）。男性は、社会参加の度合いは低いが、外出頻度は高い傾向にある。外出の内容について本調査では、外出先での会話の程度についてたずねている（前掲表3-26）。それによれば、女性は「たいがい話をする」と回答した人が半数を超えたのに対し、男性は３割程度にとどまり、「ほとんど会話をしない」と回答した人は、女性は１割であったが、男性は３割弱であった。男性は、外出頻度は高いが、外出先で人と会話をする機会はあまりないということがわかる。

社会参加活動については、性別、年間収入別で違いがみられた。男性の1/3は、「自分の興味をひくものがない」と回答していて、特に男性に対しては、ニーズを把握した活動も大事になっていると考えられる。ただ、参加していない理由については、費用面を挙げる人は高くなく、「体の調子が悪い」、「自分の興味をひくものがない」、「ひとりでは参加しにくいから」という理由がみられた。そのため参加しない理由としては、直接的な社会参加活動の費用とは別に、例えば、低収入に起因した人との関係性などが作用している可能性がある。

３．困りごとについて

次に、困りごとについて整理する。生活環境についての困りごとは（前掲表3-13）、全体で43.1％が「特に困っていることはない」と回答している。それが男性では56.4％で半数を超え、女性では40.8％で、生活環境について「特に困っていることはない」割合は男性で高かった（前掲表3-14）。

日常生活上の困りごとは（前掲表3-16）、男性では、13.6％の人が「掃除・洗濯」を、22.5％の人が「食事の準備」を困りごととして挙げているが、女性の場合、困りごととして「掃除・洗濯」を挙げた人は8.3％、「食事の準備」を挙げた人は5.1％であった。いわゆる「家事」については、男性の方が日常生活上の困りごとになりがちな傾向が見られた。「買い物」については、男性の11.7％、女性の19.4％が困りごととして挙げていた。「バスや電車、車を使って外出すること」については、男性が5.6％であったのに対し、女性は14.1％を占めた。そのほか、「区役所等での手続き」や「通院・薬とり」、「ゴミ出し」はいずれも女性の方が割合が高かった。「雪かき」については、男性では27.7％であったのに対し、女性では42.8％の人が困りごととして挙げていた。「特に困っていることはない」と回答した人の割合は、男性は49.8％と半分を占め、女性は41.3％であった。日常生活についても、男性で「特に困っていることはない」が高くなっていた。

日常生活上の困りごとは（前掲付表２）、年齢階層が高くなるほど、それぞれの行動を困りごととして挙げる人の割合が高くなり、「特に困っていることはない」と回答する人の割合が低くなっている。生活環境上の困りごとについては、付表10の通りである。

年間年収別にみた困りごとの内容については、付表11、12の通りである。

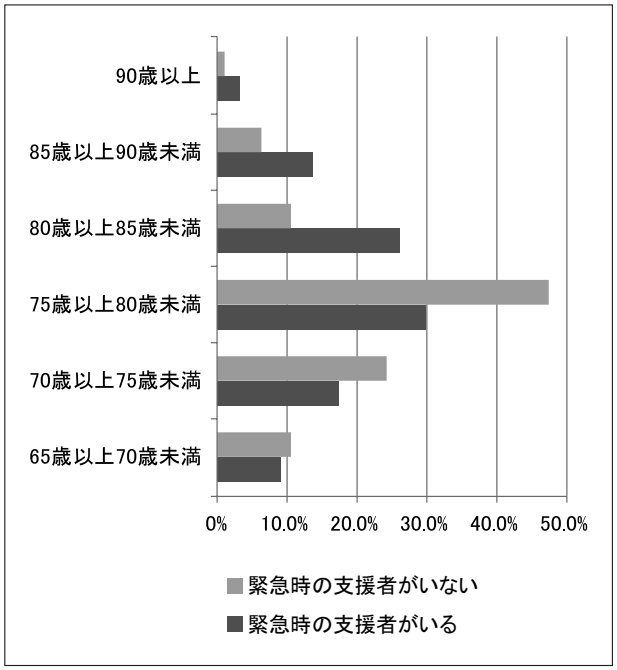
４．緊急時の支援者が「いない」人について

最後に、緊急時の支援者が「いない」人の特徴についてまとめる。緊急時の支援者が「いない」人が回答者全体に占める割合は8.2％（前掲図3-20）、男性は15.5％、女性は6.7％であり（前掲表3-46）、男性が１割程度高かった。性別の比率は（付表13）、男性35.8％、女性63.2％で、全体の性別比（男性

20.1％、女性79.3％）と比べても、男性の比率が１割以上高くなっている。

年齢階層別にみると（付表14／図4-2）、「75歳から80歳」が47.4％、「70歳から75歳」24.2％の順になっており、70歳代だけで７割を超えている。全体の年齢構成と比べると緊急時の支援者が「いない」人は、70歳代で高く、それ以上は少ない。今回の調査者の平均年齢は78.3歳であり、平均年齢以下の層が多いと言える。

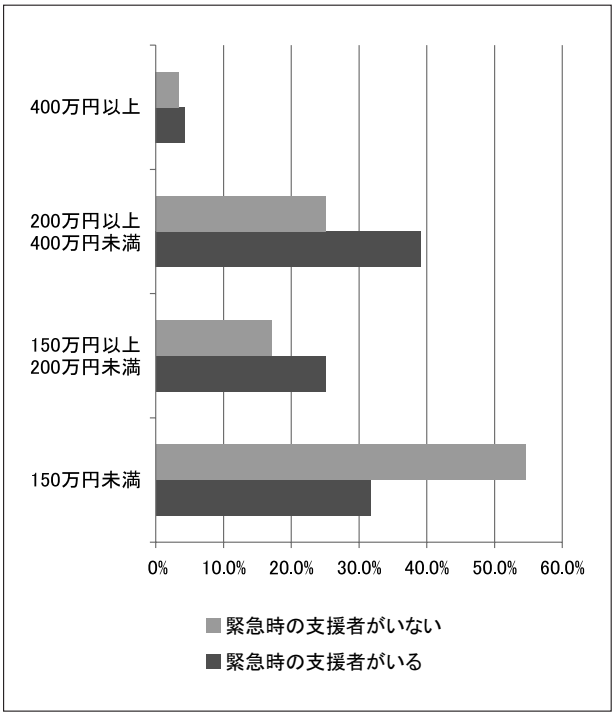
図4-2　年齢階層×緊急時の支援者の有無



年間収入別にみると（付表15／図4-3）、緊急時の支援者が「いない」人では「150万円未満」が54.5％を占めている。「いる」人では、「150万円未満」が31.6％であった。緊急時の支援者が「いない」人で収入の低い人の割合が高くなっている。経済状況についても（付表16）、緊急時の支援者が「いない」人は、「やや苦しい」と「かなり苦しい」を合計すると31.2％になっている。「いる」人ではこの「やや苦しい」と「かなり苦しい」を合計した数値は18.7％で、緊急時の支援者が「いない」人は、経済状況が苦しいと感じている比率が高くなっている。

また、主観的な健康状態をみると（付表17）、「あまり健康ではない」、「健康ではない」と感じている人が43.0％を占め、「いる」人のその数値を１割以上上回っている。介助の必要性については（付表

図4-3　年間収入（４区分）×緊急時の支援者の有無



18）、「一部介助を必要とする」と「ほとんどすべてに介助を必要とする」を合計すると19.4％で、「いる」人は16.4％であった。介護保険サービスの利用については（付表19）、「利用している」が11.7％で、全体は13.6％であった。介助については、主観的な健康状態ほどの差はみられない。それでも緊急時の支援者が「いる」人と「いない」人を比べると、「いない」人で介助の必要性が上回っているが、介護保険サービスの利用については「いる」人の方が上回っていた。

このように緊急時の支援者が「いない」人は、男性、70歳代の比率が高い。年間収入が低く、経済状況が苦しいと感じている比率も高くなっている。健康状態については、健康ではないと感じている比率が高くなっている。介助については大きな差がみられなかった。

次に、緊急時の支援者が「いない」人の親族や近所の人との関係についてみていく。生存子「なし」は55.6％で過半数を超え、全体と比べて２倍以上の高さになっている（付表20）。なお、「ひとり暮らしのきっかけ」については「未婚」が24.5％を占め（付表21）、「いる」人の２倍以上の高さで、生存子がいない１つの要因と考えられる。行き来のある親族についても「誰ともほとんど行き来がない」が37.5％

を占め、緊急時に支援者が「いる」人と大きく差がある（付表22）。

そのためか、困りごとを手伝ってもらう人についても「手伝ってもらう人がいない」が36.8％で、緊急時に支援者が「いる」人と比べて大きな差がある（付表23）。さらに、近所づきあいについても（付表24）、近所づきあいを「あまりしない」人が49.5％と約半数を占めている。

このように緊急時の支援者が「いない」人は、家族・親族、近所の人との関係が希薄で、困りごとを手伝ってもらえる人もいない比率が高い。このような人との関係性は、経済状況も大いに関係していると考えられ、緊急時の支援者が「いない」人は、これまでの生活自体において、人との関わりが希薄であった可能性がある。

そのなかでいま困っていることをみると、緊急時の支援者が「いない」人では、生活環境（付表25）、日常生活（付表26）ともに「困っている」内容が多くなっている。生活環境の困りごとの内容としては「地震などの防災対策」28.9％、「防犯上の不安がある」18.9％、「近所に買い物する店がない」16.7％の順になっている。緊急時の支援者が「いる」人では「近所に買い物する店がない」23.0％、「地震などの防災対策」18.4％、「そばや寿司など店屋物をとる店がない」13.1％の順になっている。緊急時の支援者が「いない」人では、買い物などよりも「地震などの防災対策」への不安が高くなっていた。この結果は2010年の調査によるもので、現在はより「地震などの防災対策」への不安が高まっていることは予想できる。日常生活の困りごとについては、緊急時の支援者が「いない」人では、「いる」人と比べると「雪かき」、「掃除・洗濯」、「食事の準備」が高くなっている。

このように緊急時の支援者が「いない」人は、生活環境・日常生活ともに困りごとを抱えている比率が高くなっていた。特に、個人では対応できない防災・防犯など地域環境に関することへの不安を大きく感じていた。

緊急時の支援者が「いない」人について、２次調査からその一面を見ていきたい。77歳男性（類型２）は、年収110万円、貯金なし、健康状態はよくない。月の収入が８万円で、家賃で５万円支払っている。「歩けなくなればヘルパーに買い物を頼まなければならないが、お金がかかるので生活ができない」と思っている。78歳女性（類型２）は、まとまった収入はなく貯金を取り崩して生活で、生活資金がつきる恐れあるという認識を持ちながら、生活保護は受けられないと思っている。いまこうして、やりくりをしながら生活しているものの、介護保険や生活保護などの制度とのつながりがうすく、行政との積極的な関わりがみられない人がいる。

これまでみてきたように、緊急時の支援者が「いない」人は、緊急時の支援者「いる」人と比べて、健康や介助、困りごとなどニーズが高いにもかかわらず、困ったときに手伝ってもらえる人がいないという特徴がみられた。不安を抱え、困っている人を掘り起こし、制度につなげていくことは、不安を和らげることにつながっていくであろう。そのためには、気軽に相談できる環境を用意することなど、社会的に支援できる体制づくりを検討していく必要がある。

平成23年３月

新潟県立大学　子ども学科
小澤　薫

おわりに

この調査で目的としたのは、「ひとり暮らし高齢者の実態を明らかにすることで、より効果的な支援のあり方を検討するための基礎資料を得ること」でした。

多くのご回答をいただいたことで、困りごとの傾向など標準的なデータは明らかになりました。一方で、１次調査の200を超える自由意見や２次調査のインタビューで、それぞれの生き方の多様さ、考え方の多様さを集約したとき、新たに共通するキーワードである「不安」が浮かびあがってきました。

この「不安」に共通するのは、ひとり暮らし高齢者だから先が見えないということではなく、コミュニケーションを含めた他者との関係の多寡によるものであることが傾向としてわかりました。平均年齢78.3歳の調査回答者の生きてきた時代は、重層的なコミュニケーションが家庭や近隣コミュニティあるいは会社に構築され、複線的に絡み合っていた時代でした。多様な団体の地域活動が盛んだった時代でもあります。しかし、現在は、「生存子がいない」などの家族との関係、近隣との関係の薄さが即ち「個人が抱える将来への不安」や「社会的孤立」の要素となり得てしまう時代です。

ひとり暮らし高齢者の「声なき声に耳を傾けること」の実践は、制度や事業からの視点による相談窓口等の充実だけではなく、社会的に孤立する可能性のあるひとり暮らし高齢者等へのアプローチを地域コミュニティも含めた関係者で模索していくことが重要だと考えます。

今回の結果を踏まえ、中央区社会福祉協議会では、23年度に調査結果の活用のための委員会を設置する予定です。

最後に、ご回答者、共同で調査を行った新潟県立大学、明治学院大学をはじめ、多くの関係者の皆様へ感謝を申し上げます。

平成23年３月

新潟市中央区社会福祉協議会

仲川　一也

大谷　寿也

渡邉　隆幸

資　料　編

資料１　付表

付表１　現在の仕事の有無×性別

現在の仕事の有無	性別			
	男性		女性	
	実数	%	実数	%
仕事をしている	21	9.3%	64	7.2%
仕事をしていない	206	90.7%	821	92.8%
合計	227	100%	885	100%

付表２　日常生活上の困りごと（複数回答）×年齢階層

日常生活での困りごと（複数回答）	年齢階層											
	65歳以上70歳未満（n=97）		70歳以上75歳未満（n=201）		75歳以上80歳未満（n=334）		80歳以上85歳未満（n=269）		85歳以上90歳未満（n=142）		90歳以上（n=30）	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
バスや電車、車を使って外出すること	10	10.3%	19	9.5%	37	11.1%	41	15.2%	20	14.1%	8	26.7%
買い物	7	7.2%	15	7.5%	59	17.7%	60	22.3%	38	26.8%	12	40.0%
掃除・洗濯	3	3.1%	10	5.0%	25	7.5%	30	11.2%	27	19.0%	6	20.0%
食事の準備	7	7.2%	10	5.0%	29	8.7%	23	8.6%	19	13.4%	4	13.3%
銀行預金などの出し入れ	2	2.1%	4	2.0%	23	6.9%	12	4.5%	11	7.7%	7	23.3%
入浴	1	1.0%	5	2.5%	10	3.0%	11	4.1%	4	2.8%	2	6.7%
区役所等での手続き	1	1.0%	7	3.5%	28	8.4%	25	9.3%	27	19.0%	5	16.7%
通院・薬とり	3	3.1%	9	4.5%	23	6.9%	25	9.3%	17	12.0%	6	20.0%
ゴミ出し	2	2.1%	9	4.5%	30	9.0%	23	8.6%	17	12.0%	7	23.3%
雪かき	29	29.9%	66	32.8%	143	42.8%	118	43.9%	61	43.0%	15	50.0%
特に困っていることはない	54	55.7%	104	51.7%	137	41.0%	107	39.8%	48	33.8%	8	26.7%
その他	2	2.1%	3	1.5%	10	3.0%	11	4.1%	4	2.8%	2	6.7%

付表３　運転の可否×地域

運転の可否	地域分類							
	しもまち		上新潟島		江東		みなみ	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
運転できる	51	16.2%	62	19.9%	41	21.4%	71	24.2%
運転できない	264	83.8%	250	80.1%	151	78.6%	222	75.8%
合計	315	100%	312	100%	192	100%	293	100%

付表４　外出の頻度×地域

外出の頻度	地域分類							
	しもまち		上新潟島		江東		みなみ	
	実数	%	実数	%	実数	%	実数	%
毎日１回以上	111	36.2%	118	37.8%	78	39.2%	118	40.0%
２、３日に１回程度	156	50.8%	144	46.2%	87	43.7%	134	45.4%
１週間に１回以下	40	13.0%	50	16.0%	34	17.1%	43	14.6%
合計	307	100%	312	100%	199	100%	295	100%

付表５　年齢階層×近所づきあいの程度

年齢階層	近所づきあいの程度（２区分）		合計
	近所づきあいをよくする	近所づきあいをあまりしない	
65歳以上70歳未満	78 75.0%	26 25.0%	104 100.0%
70歳以上75歳未満	154 76.2%	48 23.8%	202 100.0%
75歳以上80歳未満	266 76.4%	82 23.6%	348 100.0%
80歳以上85歳未満	228 83.2%	46 16.8%	274 100.0%
85歳以上90歳未満	114 78.6%	31 21.4%	145 100.0%
90歳以上	24 70.6%	10 29.4%	34 100.0%
合計	864 78.0%	243 22.0%	1107 100.0%

※無回答は欠損値として処理

付表６　近所づきあいの程度（２区分）×性別

近所づきあいの程度	性別		合計
	男性	女性	
近所づきあいをよくする	121 54.3%	744 84.0%	865 78.0%
近所づきあいをあまりしない	102 45.7%	142 16.0%	244 22.0%
合計	223 100.0%	886 100.0%	1109 100.0%

※無回答は欠損値として処理

付表７　近所づきあいの程度×年間収入（４区分）

近所づきあいの程度（２区分）	年間収入（４区分）				合計
	150万円未満	150万円以上200万円未満	200万円以上400万円未満	400万円以上	
近所づきあいをよくする	265 75.5%	201 79.1%	320 81.0%	27 64.3%	813 78.0%
近所づきあいをあまりしない	86 24.5%	53 20.9%	75 19.0%	15 35.7%	229 22.0%
合計	351 100.0%	254 100.0%	395 100.0%	42 100.0%	1042 100.0%

※無回答は欠損値として処理

付表８　近所の人に頼みごとをすることへの抵抗感×近所づきあいの程度（２区分）

抵抗感	近所づきあいの程度（２区分）		合計
	近所づきあいをよくする	近所づきあいをあまりしない	
まったく抵抗は感じない	122 15.6%	20 9.3%	142 14.2%
あまり抵抗は感じない	151 19.3%	26 12.0%	177 17.7%
やや抵抗を感じる	346 44.2%	81 37.5%	427 42.8%
非常に抵抗を感じる	163 20.8%	89 41.2%	252 25.3%
合計	782 100.0%	216 100.0%	998 100.0%

※無回答は欠損値として処理

付表９　社会参加活動×年間収入（４区分）

社会参加活動（複数回答）	年間収入（４区分）				合計
	150万円未満（n=349）	150万円以上200万円未満（n=252）	200万円以上400万円未満（n=398）	400万円以上（n=43）	
趣味の会（囲碁・将棋・俳句・カラオケ・お花・盆栽・お茶など）	79 22.6%	83 32.9%	134 33.7%	15 34.9%	311
学習の会	14 4.0%	22 8.7%	44 11.1%	8 18.6%	88
スポーツ	21 6.0%	30 11.9%	53 13.3%	4 9.3%	108
老人会	37 10.6%	25 9.9%	49 12.3%	5 11.6%	116
社会活動（ボランティア・同窓会・P.T.A.などの子育ての頃の団体・生協活動など）	20 5.7%	21 8.3%	45 11.3%	6 14.0%	92
その他	36 10.3%	28 11.1%	55 13.8%	10 23.3%	129
参加していない	193 55.3%	100 39.7%	139 34.9%	12 27.9%	444

※無回答は欠損値として処理

付表10　生活環境上の困りごと（複数回答）×年齢階層

生活環境上の困りごと（複数回答）	年齢階層					
	65歳以上70歳未満（n=99）	70歳以上75歳未満（n=203）	75歳以上80歳未満（n=327）	80歳以上85歳未満（n=271）	85歳以上90歳未満（n=143）	90歳以上（n=30）
近所に銭湯がない	4 4.0%	17 8.4%	19 5.8%	17 6.3%	15 10.5%	1 3.3%
近所に外食する店がない	6 6.1%	14 6.9%	36 11.0%	31 11.4%	20 14.0%	4 13.3%
そばや寿司など店屋物をとる店がない	9 9.1%	21 10.3%	43 13.1%	34 12.5%	27 18.9%	4 13.3%
近所に買い物する店がない	15 15.2%	38 18.7%	71 21.7%	59 21.8%	45 31.5%	9 30.0%
仲間・友人などと集まる場所がない	10 10.1%	10 4.9%	15 4.6%	20 7.4%	10 7.0%	2 6.7%
訪問販売員が多い	2 2.0%	10 4.9%	17 5.2%	12 4.4%	4 2.8%	3 10.0%
防犯上の不安がある	13 13.1%	20 9.9%	44 13.5%	36 13.3%	14 9.8%	6 20.0%
近隣との関係	9 9.1%	16 7.9%	19 5.8%	8 3.0%	4 2.8%	0 0.0%
地震などの防災対策	14 14.1%	46 22.7%	63 19.3%	53 19.6%	21 14.7%	8 26.7%
特に困っていることはない	51 51.5%	89 43.8%	154 47.1%	130 48.0%	62 43.4%	11 36.7%
その他	4 4.0%	7 3.4%	13 4.0%	14 5.2%	4 2.8%	1 3.3%

※無回答は欠損値として処理

付表11　生活環境上の困りごと×年間収入（４区分）

生活環境上の困りごと（複数回答）	年間収入（４区分）			
	150万円未満（n=334）	150万円以上200万円未満（n=238）	200万円以上400万円未満（n=385）	400万円以上（n=41）
近所に銭湯がない	32 9.6%	15 6.3%	21 5.5%	4 9.8%
近所に外食する店がない	28 8.4%	23 9.7%	42 10.9%	7 17.1%
そばや寿司など店屋物をとる店がない	42 12.6%	36 15.1%	44 11.4%	7 17.1%
近所に買い物する店がない	80 24.0%	52 21.8%	87 22.6%	5 12.2%
仲間・友人などと集まる場所がない	22 6.6%	17 7.1%	23 6.0%	1 2.4%
訪問販売員が多い	17 5.1%	9 3.8%	17 4.4%	3 7.3%
防犯上の不安がある	37 11.1%	31 13.0%	53 13.8%	4 9.8%
近隣との関係	26 7.8%	9 3.8%	18 4.7%	1 2.4%
地震などの防災対策	62 18.6%	53 22.3%	73 19.0%	5 12.2%
特に困っていることはない	142 42.5%	101 42.4%	195 50.6%	18 43.9%
その他	11 3.3%	10 4.2%	18 4.7%	2 4.9%

※無回答は欠損値として処理

付表13　性別×緊急時の支援者の有無

性別	緊急時の支援者の有無		合計
	いる	いない	
男性	185 18.2%	34 36.2%	219 19.7%
女性	832 81.8%	60 63.8%	892 80.3%
合計	1017 100.0%	94 100.0%	1111 100.0%

※無回答は欠損値として処理

付表14　年齢階層×緊急時の支援者の有無

年齢階層	緊急時の支援者の有無		合計
	いる	いない	
65歳以上70歳未満	92 9.1%	10 10.5%	102 9.2%
70歳以上75歳未満	178 17.6%	23 24.2%	201 18.1%
75歳以上80歳未満	304 30.0%	45 47.4%	349 31.5%
80歳以上85歳未満	267 26.4%	10 10.5%	277 25.0%
85歳以上90歳未満	140 13.8%	6 6.3%	146 13.2%
90歳以上	32 3.2%	1 1.1%	33 3.0%
合計	1013 100.0%	95 100.0%	1108 100.0%

※無回答は欠損値として処理

付表12　日常生活上の困りごと×年間収入（４区分）

日常生活上の困りごと（複数回答）	年間収入（４区分）			
	150万円未満（n=332）	150万円以上200万円未満（n=240）	200万円以上400万円未満（n=387）	400万円以上（n=41）
バスや電車、車を使って外出すること	49 14.8%	34 14.2%	35 9.0%	4 9.8%
買い物	50 15.1%	52 21.7%	69 17.8%	4 9.8%
掃除・洗濯	29 8.7%	20 8.3%	38 9.8%	6 14.6%
食事の準備	22 6.6%	17 7.1%	43 11.1%	6 14.6%
銀行預金などの出し入れ	28 8.4%	10 4.2%	17 4.4%	1 2.4%
入浴	10 3.0%	8 3.3%	9 2.3%	1 2.4%
区役所等での手続き	34 10.2%	22 9.2%	29 7.5%	1 2.4%
通院・薬とり	34 10.2%	17 7.1%	24 6.2%	0 0.0%
ゴミ出し	20 6.0%	25 10.4%	34 8.8%	2 4.9%
雪かき	109 32.8%	102 42.5%	174 45.0%	15 36.6%
特に困っていることはない	154 46.4%	98 40.8%	160 41.3%	19 46.3%
その他	11 3.3%	2 0.8%	13 3.4%	4 9.8%

※無回答は欠損値として処理

付表15　年間収入（４区分）×緊急時の支援者の有無

年間収入（４区分）	緊急時の支援者の有無		合計
	いる	いない	
150万円未満	304 31.6%	48 54.5%	352 33.6%
150万円以上200万円未満	240 25.0%	15 17.0%	255 24.3%
200万円以上400万円未満	376 39.1%	22 25.0%	398 37.9%
400万円以上	41 4.3%	3 3.4%	44 4.2%
合計	961 100.0%	88 100.0%	1049 100.0%

※無回答は欠損値として処理

付表16　経済状況×緊急時の支援者の有無

経済状況	緊急時の支援者の有無		合計
	いる	いない	
かなり余裕がある	28 2.8%	2 2.2%	30 2.8%
やや余裕がある	161 16.2%	11 11.8%	172 15.8%
余裕はないが生活していくには困らない	621 62.3%	51 54.8%	672 61.7%
やや苦しい	129 13.0%	18 19.4%	147 13.5%
かなり苦しい	57 5.7%	11 11.8%	68 6.2%
合計	996 100.0%	93 100.0%	1089 100.0%

※無回答は欠損値として処理

付表17　主観的な健康状態×緊急時の支援者の有無

健康状態	緊急時の支援者の有無		合計
	いる	いない	
非常に健康である	67 6.6%	2 2.2%	69 6.3%
まあまあ健康である	634 62.8%	51 54.8%	685 62.2%
あまり健康ではない	224 22.2%	29 31.2%	253 23.0%
健康ではない	84 8.3%	11 11.8%	95 8.6%
合計	1009 100.0%	93 100.0%	1102 100.0%

※無回答は欠損値として処理

付表18　介助の必要性×緊急時の支援者の有無

介助の必要性	緊急時の支援者の有無		合計
	いる	いない	
ほとんど自分でできる	841 83.6%	75 80.6%	916 83.3%
一部介助を必要とする	156 15.5%	17 18.3%	173 15.7%
ほとんどすべてに介助を必要とする	9 0.9%	1 1.1%	10 0.9%
合計	1006 100.0%	93 100.0%	1099 100.0%

※無回答は欠損値として処理

付表19　介護保険サービスの利用×緊急時の支援者の有無

介護保険サービスの利用	緊急時の支援者の有無		合計
	いる	いない	
利用している	137 13.6%	11 11.7%	148 13.4%
利用していない	872 86.4%	83 88.3%	955 86.6%
合計	1009 100.0%	94 100.0%	1103 100.0%

※無回答は欠損値として処理

付表20　生存子の有無×緊急時の支援者の有無

生存子の有無	緊急時の支援者の有無		合計
	いる	いない	
いる	780 79.3%	40 44.4%	820 76.4%
いない	203 20.7%	50 55.6%	253 23.6%
合計	983 100.0%	90 100.0%	1073 100.0%

※無回答は欠損値として処理

付表21　ひとり暮らしのきっかけ×緊急時の支援者の有無

ひとり暮らしのきっかけ	緊急時の支援者の有無		合計
	いる	いない	
死別	727 72.4%	50 53.2%	777 70.8%
離婚	77 7.7%	13 13.8%	90 8.2%
子の独立	83 8.3%	2 2.1%	85 7.7%
未婚	87 8.7%	23 24.5%	110 10.0%
その他	30 3.0%	6 6.4%	36 3.3%
合計	1004 100.0%	94 100.0%	1098 100.0%

※無回答は欠損値として処理

付表22　行き来のある親族×緊急時の支援者の有無

行き来のある親族	緊急時の支援者の有無		合計
	いる	いない	
子ども（その配偶者、孫を含む）	538 54.9%	18 20.5%	556 52.1%
親	3 0.3%	2 2.3%	5 0.5%
兄弟・姉妹	261 26.6%	21 23.9%	282 26.4%
親戚	90 9.2%	9 10.2%	99 9.3%
その他	50 5.1%	5 5.7%	55 5.1%
誰ともほとんど行き来がない	38 3.9%	33 37.5%	71 6.6%
合計	980 100.0%	88 100.0%	1068 100.0%

※無回答は欠損値として処理

付表23　困りごとを手伝ってもらう人×緊急時の支援者の有無

困りごとを手伝ってもらう人	緊急時の支援者の有無	
	いる（n=966）	いない（n=87）
子ども（その配偶者、孫など）	552 57.1%	11 12.6%
兄弟・姉妹	252 26.1%	10 11.5%
親戚	124 12.8%	6 6.9%
近所の人	274 28.4%	12 13.8%
友人・知人	182 18.8%	11 12.6%
民生委員	97 10.0%	12 13.8%
自治会長	26 2.7%	5 5.7%
ホームヘルパー	79 8.2%	10 11.5%
ボランティア	3 0.3%	0 0.0%
役所の人	9 0.9%	1 1.1%
病院の人	3 0.3%	0 0.0%
ケアマネージャー	39 4.0%	3 3.4%
まごころヘルプ	23 2.4%	4 4.6%
手伝ってもらう人がいない	30 3.1%	32 36.8%
その他	31 3.2%	5 5.7%

※無回答は欠損値として処理

付表24　近所づきあいの程度（２区分）×緊急時の支援者の有無

近所づきあいの程度（２区分）	緊急時の支援者の有無	
	いる	いない
近所づきあいをよくする	809 80.7%	47 50.5%
近所づきあいをあまりしない	194 19.3%	46 49.5%
合計	1003 100.0%	93 100.0%

※無回答は欠損値として処理

付表25　生活環境上の困りごと（複数回答）×緊急時の支援者の有無

生活環境上の困りごと	緊急時の支援者の有無	
	いる（n=956）	いない（n=90）
近所に銭湯がない	63 6.6%	11 12.2%
近所に外食する店がない	97 10.1%	12 13.3%
そばや寿司など店屋物をとる店がない	125 13.1%	13 14.4%
近所に買い物する店がない	220 23.0%	15 16.7%
仲間・友人などと集まる場所がない	58 6.1%	8 8.9%
訪問販売員が多い	43 4.5%	4 4.4%
防犯上の不安がある	114 11.9%	17 18.9%
近隣との関係	45 4.7%	9 10.0%
地震などの防災対策	176 18.4%	26 28.9%
特に困っていることはない	447 46.8%	33 36.7%
その他	43 4.5%	1 1.1%

※無回答は欠損値として処理

付表26　日常生活上の困りごと（複数回答）×緊急時の支援者の有無

日常生活上の困りごと	緊急時の支援者の有無	
	いる（n=962）	いない（n=90）
バスや電車、車を使って外出すること	116 12.1%	12 13.3%
買い物	173 18.0%	13 14.4%
掃除・洗濯	85 8.8%	14 15.6%
食事の準備	76 7.9%	12 13.3%
銀行預金などの出し入れ	54 5.6%	5 5.6%
入浴	28 2.9%	4 4.4%
区役所等での手続き	86 8.9%	7 7.8%
通院・薬とり	74 7.7%	7 7.8%
ゴミ出し	79 8.2%	7 7.8%
雪かき	381 39.6%	41 45.6%
特に困っていることはない	421 43.8%	32 35.6%
その他	29 3.0%	2 2.2%

※無回答は欠損値として処理

資料２　２次調査の具体的な記述

ここでは、各類型の典型例を、項目ごとに整理し、個々人の生活全体について示したい。

類型１・男性・83歳・上新潟島

１．住宅状況

大きな通りを入った住宅街にある木造２階建て（１階が２部屋、２階が２部屋）。足が悪くなったので３年前に玄関にスロープをつけるなど、家の中をバリアフリーに工事した。室内はきれいに整理されていた。ゴミ出しは自分でしている。昔は、「営所通り」に住んでいたが、子どもの独立を契機に（24年前）、現住所に夫婦で引っ越してきた。周り近所にお年寄りが多い。固定資産税は銀行引き落としなので覚えていない。

２．生活歴・職業歴

新聞社に長年勤務していた。妻は専業主婦で、10年前に癌で亡くなった。３年半妻の看病をした。「難儀だった」。この時、自分で家事をするようになったので、今も自分である程度はやれている。

３．家族・親族関係

子どもは２人で、長男が川崎、次男が妙高に住んでいる。孫（高１、小６）が時々顔を見せに来る。正月は、孫たちと過ごした。子どもから日曜日の８時に電話がかかってくるようになった（３～４年前から）。

４．日常生活の困りごと

「言っても仕方がない」と言っていたが、除雪車が来ると家の前に壁ができて門扉が開かなくなり、また入り口のスロープの上に屋根が無いなど、大雪のときは大変だったという。

５．近隣関係

近所付き合いはほとんどなく、民生委員が月１回程度訪問する。緊急のときは、民生委員は頼まず、姪にきてもらうこともあるが、自分でやれることは自分でやると考えている。町内の当番は、80歳になってからやっていない。

６．健康状態・身体状況

膝が痛い。調子が良いときは１本杖、悪いときは４本杖を使っている。20年以上前に心筋梗塞になり、大きな後遺症はなかったが、右半身が動かなくなることがある２ヶ月に１回、内科に通院。薬は自分で管理して、１日３回服用している。

７．制度の利用状況

要支援２。介護保険のサービスを受けている。デイサービスを週に２回（月、木）、ショートステイを月に２回。それ以外に２～３年前から社協の「まごころヘルプ」を利用している。食事は宅配弁当を昼と夜利用している。今後介護付きマンションを利用したいと考え、下見にも行ってきた。ヘルパーには、掃除と洗濯物干しを頼んでいる。

８．経済状況

すべて口座引き落としにしているので、計算していないが、「貯金は増えている」という。負担に思う費目は、特にわからない。年収は「200～399万円」、経済状況は「やや余裕がある」。

９．１週間の生活

月、木曜日にデイサービスを利用する。水、土曜日にヘルパーが来る。日曜日に家族から電話がある。日程に縛られたくないので、これ以上増やすつもりはない。

10．社会参加活動

いまはほとんど参加していないが、たまに展覧会に行く。

11．外出状況

週に１回以下であるが、スーパーや古町までバス・タクシーを利用して行くことがある。

12. 現在及び今後の生活

「みんな悩んでいる」。同居する気持ちはない。施設入所も考えている。

13. その他

お茶が趣味でお茶の道具を持っている。茶道具を博物館に一部寄付した。

14. 調査員の所見

１人での生活を自分なりに考えておられ、現在使える制度は利用されている。遠方に住む子どもたちも１人暮らしを心配しているようだが、今後は介護付きマンションや施設入所も考え、下見をされている。子どもとの同居は考えておらず、自分のことは自分でするという思いが感じられた。近隣との付き合いもこのまず、緊急時の対応が心配される。

類型１・女性・79歳・しもまち

１．住宅状況

昔ながらの住宅地で周りにいくつかの商店街がある。持ち家一戸建てで、２階に洋間と８畳の部屋が２つあり、トイレ、キッチン、冷蔵庫、洗濯機もある。１階には、３部屋あり、寝室、居間、ダイニングキッチンがある。主に１階で暮らしており、２階は子どもが帰ってきたとき利用する。

２．生活歴・職業歴

佐渡で生まれ、農家で育つ。東京で花嫁修業、洋裁をする。仕事をしたことがなく、夫は大手通信会社に勤めていた。10年前に夫を亡くして１人暮らしになる。

３．家族・親族関係

新潟市内には兄弟はいない。８人兄弟の３番目で、今も全員と連絡を取り合っている。１人息子がいる。地元の小学校に入れず、越境入学させるなど教育熱心である。息子は大宮に住んでいて年に２回遊びに行っている。孫が３人いる。近所に親戚の民生委員がいるが、行き来はない。

４．日常生活のこまりごと

街路樹の葉っぱを何とかして欲しい。民放テレビが面白くない。

５．近隣関係

ほとんどない。回覧板は回ってくるが煩わしい。基本的に子どもを越境入学させたり、あえて遠くの友達と付き合う等、あまり近所と交流を持とうとしない。最初から近隣のつながりはなく、これからも近所に頼ることはない。

６．健康状態・身体状況

どこも悪くない。

７．制度の利用状況

知らないし、利用していない。

８．経済状況

夫の恩給（遺族年金）と本人の国民年金。金額が分からない。「専業主婦はそういうことを知らないものんだ」、と言っていた。通帳も見ない。年収は「200～399万円」、経済状況は「余裕はないが生活していくのに困らない」。

９．１週間の生活

夜は９時半から10時の間に寝て、朝は早く起きる。朝起きて、化粧をする。基本的に24時間フリータイム。週２回外出している。昼間は主にテレビを見て過ごす。

10. 社会参加活動

お茶とお花を習っていて、看板を持っている。５年間、フラダンスを習っていたが、５年前に辞めた。お茶の友達とフラダンスの友達と月１回食事会をしている。旅行クラブに入っているが、旅行は行かない。

11. 外出状況

３年前までは古町や海岸道路へ徒歩で運動を兼ねて行っていた。今は友達と食事やお茶飲みに週に１～２回出かける。移動手段はバスで、荷物が多い時や歩き疲れた時はタクシーを利用する。買い物は生

協の宅配を主に利用し、古町や駅に出かけた時にも買い物をする。ちょっとしたものは近所のドラッグストアを利用。スーパーは利用しない。

12. 現在及び今後の生活

10年前に亡くなった夫が座っていた椅子を今も片付けられないでいる。色々な空間に思い出があると言っており、自分の好きなきれいな物に囲まれて暮らしている。体が動かなくなった時のことを心配していて、息子と大宮で二世帯住宅で暮らしたいと言っていた。お墓は内野に市営墓地を買って夫が入っている。

13. その他

ご自分の若い頃のお話や戦争の話をずっと話して下さった。家の内装や服装など、とてもきれいにしており、角地に住んでいて人目があるという意識がある。家の前に出る時も化粧を欠かさない。

14. 調査員の所見

お茶の友達やフラダンスの友達とは交流があるのに、近所の人とは全く交流がないので、身近な人との付き合いをしていくことで、生活や気持ちも大きく変わってくるのかと思った。生活全体を通して特に不自由はないように思えたが、息子の話になると声が大きくなったり、強く発言していたので、寂しい思いをして過ごしているように感じた。

類型２・女性・76歳・みなみ

１．住宅状況

鳥屋野の住宅街に持ち家で住んでおり、木造２階建て。１階に居間、客間、キッチン、トイレ、バス、２階に２部屋ある。普段過ごしているのは居間（布団も敷く）。２階はほとんど利用しない（物置）。掃除は１階は毎日、２階はめったにしない。ゴミ捨て場は近くにある（徒歩３～４分）。築37～８年。ローンはない。室内で犬を飼っている。

２．生活歴・職業歴

夫は、会社員をしていて、20年前に亡くなった。本人はお弁当屋で調理の仕事を20年、その他色々なパートや内職等をしていた。平成２年に夫が亡くなるまでは一緒に暮らしていた。それ以来、１人暮らしになる。

３．家族・親族関係

家族・親族とは連絡が取れない。兄弟は離れている。姪は新潟にいるが、よほどのことがない限り連絡はとっていない。

４．日常生活の困りごと

電球の取り替え、高い所の物を取ることが一番の困りごとである。夫の生前は任せていた。背が低いため届かない。上所にあるお墓の掃除が大変である。２月の大雪の時は自分で雪掻きをして、その時足が悪くなり、そこから半年間は知り合いに犬の散歩を任せていた。家が古いため、強風で家が吹き飛ばないか、というのが心配。

５．近隣関係

隣近所は誰だか分かるが、井戸端会議のようなことはない。挨拶程度はする。今のところ何かしてもらいたいことはないが、今後何かあったらお願いするかもしれない。電球の取り替えについては頼もうとは思っていない。近所の葬祭には参加している。

６．健康状態・身体状況

腰、膝、首が痛むため、毎日整形外科に通院（徒歩７分）。以前は自転車に乗っていたが、最近は転ぶのが怖いため乗らなくなった。スクーターには今年の５月頃まで乗っていたが、バッテリーがあがり手放す予定。知り合いに車に乗せてもらい、内科（夜眠れないため安定剤をもらいに）に通っている。通院は日課になっていて、楽しくはない（面倒くさい）。動けなくなることが不安である。何かあったときのために携帯電話を持っている。膝の手術は勧められたが、犬の世話があるためできなかった。

７．制度の利用状況

介護保険は利用していない。月１回民生委員が友愛訪問（玄関先で数分話す程度）。

8．経済状況

本人の国民年金で細々と暮らしており、贅沢はできない状況である。どの費目も負担に思い、なかでも友人との電話代（夜１時間～１時間半ぐらい）が１万円以上かかる。それでも「人と話をしないと、ボケるので」という。年収は「50～99万円」で、経済状況は「余裕はないが生活していくには困らない」。

9．１週間の生活

５時半起床、23時から遅くて１時～２時に就寝する。朝昼は必ず食べるが、夜は食べない時もある。生協やスーパーで買った食材を自分で調理して食べる。既製品は食べない。知り合いの車に乗せてもらって、スーパーに行くこともある。朝は病院に行く。朝・夕に犬の散歩に行く（30分ずつ）。買い物時間は不定期。洗濯は夏は毎日、冬は２～３日に１回程度。カラオケに毎週水曜日の午後、４時間くらい、７～10人集まり、演歌を歌う。

10. 社会参加活動

カラオケの会。60代女性が多く、ボケ防止のため。友人と飲み会をすることはあるが家に呼ぶことはない。足が悪いため、自治会等の集まりは行けない。昔は趣味で毛糸の編み物をしていたが今はできない。

11. 外出状況

通院、買い物、カラオケ、年３回のお墓参りに行っている。上所のお墓へタクシーで行っている（知り合いの車に乗せてもらうこともある）。スーパーは遠いと感じている。犬の散歩（犬が元気で本人は引っ張られる）。

12. 現在及び今後の生活

犬が番犬にも家族の一員にもなっている（オス13歳、中型、雑種）。犬のおかげで筋力の衰え（散歩のため）防止、心の支え、安心感になっている。犬より先には死ねない。犬のおかげで夏でも戸を開けたまま寝られる。足が弱っている状態なので、倒れたらどうしようか、夜中に具合が悪くなったらどうしたら良いのか、病気になったらどうすれば良いのか、等の不安がある。

13. その他

介護サービスを受けたいときや困ったときはどうすればいいか質問された。「民生委員、区役所、社協を利用してください」と回答した。足の痛みはその歳にならないと分からない（自分もそんなになるとは思っていなかった）。来客が少ないため、番犬の犬もずっとほえていて最初はふるえていた。お茶と梨を出して下さった。仏壇のご主人の酒を毎月かえている。（アナログ）テレビはつまらないけれどつけっぱなし。

14. 調査員の所見

犬の存在が大きく、本人も犬のために元気でいられて、家族同然のように感じた。何かあった時には、誰も知り合いがいないというわけではなく、車で送ってくれる知人、電話をする友人、カラオケ仲間など人付き合いはそれなりにある感じがした。１人でいることを寂しいと感じているように見えた。心配なのは、犬が亡くなった時であり、心の拠り所である犬がいなくなったら気持ちの落ち込みが大きいのではないか。

類型２・男性・77歳・上新潟島

1．住宅状況

大きな通りに面している古くからの住宅街。近隣に大型スーパー有り。メゾネット式のアパート。１ヶ月家賃５万円。１階が客間、台所、風呂、トイレ。２階が居間兼寝室、趣味の部屋。日中は２階で過ごすことが多い。「トイレが近いから本当はここ（客間）で過ごしたい」。２階に上がるには急な階段があり、手すりもない為、転倒の危険性が高い。その他、室内にも段差が多い。

2．生活歴・職業歴

佐渡市生まれ。中学卒業後、佐渡の映画会社で技師として働く。「東京に出たい」という思いがあり、１級免許の資格を取得して、東京に行った。それから東京、水戸等複数の映画館で働く（10ヶ所程度転職）。昭和49年（41歳）より新潟市のキャバレーで、照明技師として60歳まで働く。

3．家族・親族関係

東京在住時の26歳の時、妻（当時21歳）と結婚。長男、二男に恵まれる。57歳の時に３年間の別居を経て離婚。ひとり暮らし歴22年。現在、別れた妻（県外在住）とも電話連絡が時折ある。長男（市内在住）とは８年間連絡なし。次男（仙台在住）は10日前に数年ぶりに電話があった。

4．日常生活の困りごと

年金が少なく、生活費を切りつめている。今のところはなんとかなっているが、今後体調を崩した時が心配。「１ヶ月８万円いくらで、家賃が５万円。やりくりが大変」。

5．近隣関係

朝晩のあいさつをする程度。回覧板は隣へ回しているが掃除当番には行っていない。隣家の人が亡くなっても気づかないくらいの関係。（近所の）葬祭にも参列していない。

6．健康状態・身体状況

平成15年に脳幹出血にて軽度の左半身麻痺あり（障害者手帳２級）。月に１回、隣区の総合病院にバスに乗って通院。以前は酒が好きだったが、ここ３年位は酒を一滴も飲んでいない。健康の為、万歩計をつけて家の中を歩くように心がけている（１日2,500歩程度）。

7．制度の利用状況

介護保険の利用（申請も）なし。歩けなくなればヘルパーに買い物等頼まないといけないが、お金がかかるので生活できないと思っている。介護保険の保険料が６千円ぐらい引かれている。

8．経済状況

厚生年金、年110万円のみ。貯金はない。買い出しは２日おきにし、１回千円程度におさえている。経済状況は「余裕はないが生活していくには困らない」。

9．１週間の生活

月、火曜日午後１時～２時FMラジオの演歌の歌番組を楽しみにしている。朝４時起床、朝食（パン・牛乳・バナナ、５時半頃）。日中はTVを見て過ごす。昼・夕食兼用で午後２時頃食事（ご飯、焼魚等）。たまに夜食としてカップラーメンを食す（お昼が12時30分頃の時のみ）。買い物は２日に１回、朝８時半から１時間程度で行っている。

10．社会参加活動

昔から仕事一筋であった為、地域の活動や趣味のサークル等の活動は、今も昔もしていない。

11．外出状況

普段は、近隣のスーパー（徒歩10分）に買物に２日に１回出かける。月１回の通院の帰りに昔住んでいた所にある行きつけの床屋や食堂に寄って話をしたり、外食することを楽しみにしている。以前は知り合いが夫婦で訪問してくれたが、ここ２年位は来ていないとのこと。

12．現在及び今後の生活

佐渡に両親の墓があり、兄が墓守しているが、自分は出た人間なので、お墓はない。もしものことも考えていない。倒れたらそれまで。骨は牛乳瓶にでも入れてくれれば良い。動けなくなることが心配なので、自宅２階への階段には手すりの取り付けは、それに頼ってしまい足腰が弱ってしまうので必要ない。散歩も階段の昇り降りがあるので、あまり必要ない。

13．調査員の所見

左半身麻痺があるが、自宅の段差や階段等、不便な様子が見られたが、それもリハビリにつなげようとしている。近隣の関係が薄い。家族とのつながりも希薄な為、人恋しいのか話し出すと止まらない様子であった。

類型３・女性・84歳・みなみ

1．住宅状況

小路を入った一番奥の木造２階建て、築30年の持ち家。庭も広く、数年前までは庭師が入っていた。

２．生活歴・職業歴

以前は、孫を含め息子夫婦と暮らしていたが、息子夫婦と孫はマンション購入後駅南へ引っ越したため、夫と２人暮らしになった。４年前に夫が亡くなり、ひとり暮らしになった。民間企業（製造業）の正社員として、長年勤めた。夫も民間企業（卸売業）の正社員であった。

３．家族・親族関係

６人きょうだいで、４人は亡くなり、弟が１人中央区に住んでいる。弟から頻繁に連絡があり、家に来てくれる。息子夫婦も中央区に住んでおり、いろいろな支援をしてくれる。具体的には、長男からは庭の手入れを始め、荷物の出し入れ、長男の嫁からは日常生活必要な物の購入や洗濯等を手伝ってもらっている。東京に住んでいる長女は、月に一度様子を見に泊まりに来る。孫は２人、県外の大学に行っている。

４．日常生活の困りごと

階段があるとのぼることができない。町内のことは周りがよくやってくれる。

５．近隣関係

向かいは同世代であるが、他は長男の嫁と同世代が多い。近隣清掃は免除してもらっており、回覧板は隣の方がコピーを郵便受けに入れて、次の人に回してくれている。動けなくなってからお友達とお茶のみができなくなった。

６．健康状態・身体状況

以前、朝起きたときにめまいで転倒、腰を痛め、現在ボルトが入っている。それからずっと腰に痛みがある。それまでは毎日泳いでいた。施設では、腰掛けている。腰掛けてできる体操をする。保健師が個々に応じてやってくれる。

７．制度の利用状況

要介護度は覚えていないが、介護保険を利用している。月曜日、金曜日はデイサービス、日曜日（料理）、水曜日（料理と掃除）は、ホームヘルパーを利用している。ケアマネージャーが１日おきに利用できるように計画を立ててくれた。自分では掃除をしない。デイサービスは、同じ立場の人と話ができてよいが、認知症の人が多い。

８．経済状況

厚生年金と遺族年金で暮らしている。外出しないので、お金はほとんど使わない。年収は「150～199万円」、経済状況は「やや余裕がある」。

９．１週間の生活

５時頃起床し、就寝は20時頃である。朝早く電気をつけたり、夜早く電気を消して近隣の迷惑にならないようにしている。台所にはよく行き来する。２階へは上がらない。月・金はデイサービスがあり、迎えが８時半迎えに来て、16時頃家に戻ってくる。水・日は、ホームヘルパーが午前中に訪問し、掃除、買い物の支援をする。それ以外は、息子や嫁が様子を見にくることがある。１人のときは新聞を読んだり、横になっている。昔購入した本を手に取り、買ったときのことを思い出すこともある。洗濯は、手洗いで下着をするぐらいで、残りは嫁がやってくれる。

10．社会参加活動

町内の老人会に入っているので、腰の調子がよいときは月に一度開催されるお茶会に参加している。先月は民生委員のお宅であった。

11．外出状況

デイサービスに行くか、お茶会に行く。軽いゴミを押し車に乗せて近くのゴミ捨て場に行く程度。長男がこまめに様子を見に来てくれて、手伝ってくれる。

12．現在及び今後の生活

現在、家族に恵まれて幸せである。もしものときを考えて「いつ倒れるかわからないので」、家族に向けて専用のノートに気づいたことや思ったことを何でも書き記している。お墓は、車で行くことのできる距離にあり、息子に誘われるがほとんど行かず、仏壇でお参りしている。

13. その他

最近、りんごを１袋5,500円で販売する人が来た。りんごが欲しかったので、ちょうど民生委員の訪問と重なり、高いということで半額まで値段を下げてもらい、購入した。こういう商売の人がよく来るので、いつも鍵をかけているが、かけていないと入ってくる。

14. 調査員の所見

特に、金銭面で困っている様子はなく、家族の支援もあるので、平穏な暮らしをしている。腰が悪くなければ、以前のように川柳を通して多くの人と交流したり、近くのスイミングスクールに通うことができたのだが、腰を痛めてしまったことで、外出する機会も減り、外部との交流が極端に少なくなった様子。周りからの支援は多いが、お返しすることができないことを申し訳なく思っている。

類型３・男性・年齢77歳・江東

１．住宅状況

持ち家のマンションで７階に住んでいる。１階には管理人がいる。間取りは2DKで固定資産税は年間６万円。築８年で2002年より現在の住まいで生活を始める。妻の妹夫妻も同時期に入居した。部屋はバリアフリーになっており、段差がない。２部屋あるうちの１部屋を主な生活の場にしており、そこで布団を敷いて寝ている。あまり使っていない部屋には使われていないベッドが置いてあった。主な生活を行っている部屋には、仏壇が置いてあり、お供え物が飾られていた。部屋の掃除については３日に１回。ゴミ出しは週３回アパートの１階にあるゴミ捨て場に捨てるため、外に出なくても済む。家の中は全体的に綺麗に整理整頓されていて、あまり物も無い。住宅に関する困りごとに関しては特にない。マンションに住む前は、持ち家に居たが、その頃からずっとマンション暮らしは考えていた。

２．生活歴・職業歴

成人してから公務員として退職まで勤務。単身赴任をすることもあった。妻は専業主婦。息子が１人いて、息子夫婦の家が中央区内にある。また孫が２人（大学生と中学生）。現住所に８年前に転居してきて、翌年妻が亡くなり、ひとり暮らしとなる。ひとりになって困ったことは、自分で全てやらなければならない事だったが、今は慣れた。また単身赴任をしていた時期もあり、自炊は自分で出来た。

３．家族・親族関係

東京に単身赴任をしている息子からは、１週間に１回電話がある。お正月は息子家族と一緒に過ごしている。またアパートの下の階には妻の妹が住んでおり、たまに顔を合わせている様子。妻の妹もまた、夫と死別しており、現在は１人暮らし。

４．日常生活の困りごと

生活面では困りごとはなし。アパートは環境が良く、スーパーやデパートも近くにある。大雪で困ったということもないという。

５．近隣関係

近隣との交流はない。交流がないことは、寂しいし孤立感があるとのこと。近隣清掃や回覧板なども特になく、マンション１階の張り紙で情報を確認している。近所の葬祭についても参加はない。近所の人に何かして欲しいことは、入所者同士の交流がなく寂しいので、そういったものがあったら一番良い。

６．健康状態・身体状況

腰痛などの体の痛みは特にない。月に１回内科に通院しており、降圧剤の薬を飲んでいる。心配事として、今は健康だが、将来的に年を取るにつれて体が鈍くなり、買い物などが出来なくなるのではないかとのこと。

７．制度の利用状況

今のところ利用はないが、将来的には利用を考えている。家の中はバリアフリー仕様になっていた。

８．経済状況

収入は年金のみ（厚生年金、国民年金）。年収は「200～399万円」、経済状況については、今のところ十分間に合っている（「やや余裕がある」）。

９．１週間の生活

５時に起床、夜は９時半から10時に就寝している。食事は３食自分で自炊して食べる。食事のバランスも自分で考え、塩分と肉類は控えるようにし、野菜中心に摂取するよう心がけている。毎晩缶ビール１本（350ml）の晩酌をしている。片付けは面倒に感じているが、きちんとしている。洗濯は４～５日に１回している。また、毎日買い物に行ったり通院したりと、外に出て歩くようにしている。

10. 社会参加活動

半年前までは週に２回プールに通っていたが、現在はやめて、現在活動されているものはない。辞めた理由として「年ですから…」と一言お話される。

11. 外出状況

毎日歩くようにしている。同じところに行くのも、回り道をしたりと工夫して健康を維持できるようにしている。また行動範囲として歩いて30分の距離ならば遠いと感じない。買い物は毎日行くようにしている。

12. 現在及び今後の生活

現在の生活について生活面での心配はないが、地震などの災害時にどう対応したらいいか心配である。今後の生活に関しては、体が動かなくなった時や病気になった時にどう対応すればいいか心配。お墓は市内にあり、今後も息子が管理をすることになっている。この先の不安については、体がきかなくなった時、急遽容態が悪くなった時にどこに連絡すればいいのか分からない。考えなければならないと思っている。

13. 調査員の所見

部屋の中は、綺麗に整頓してあり、仏壇も綺麗にお供え物や花が飾られていた。多くを語らない人であったが、健康でなくなった時が不安であるというお話をしきりにされていた。今は健康であっても、将来のことを思うと不安は付きまとうと感じた。また、近所の人との交流がないのが寂しいとおっしゃった表情がどこか寂しげで、年金も困らない程度に収入があり、高級マンションに住んでいて周りの環境が整っていても、心の満足にはならないのだと感じた。人との繋がりをどこか求めている様子だった。

類型３・男性・91歳・上新潟島

１．住宅状況

国道116に面した築65年の一戸建て（持ち家、２階建て、６DK）に住んでいる。ローンはなし、固定資産税は７～８万円くらい。ガスは止めて、床暖房、電磁調理器を使っている。

２．生活歴・職業歴

西堀出身、３人兄弟（本人、弟、妹）の長男。父は公務員、母は地元の海山問屋の娘であった。父の異動で、小学校から大学卒業まで東京で過ごした。卒業後、海軍に入り、その後地方銀行に入行した。支店長や本社人事を経験した。

３．家族・親族関係

伯父叔母等もすでにいない。弟とはたまに電話で連絡をとっている。妻とは29歳の時に知り合いの紹介で結婚した。給料は交際費に全部使っていた。妻は公務員。４年前に妻が自宅で転倒し、大腿骨骨折。現在は、特別養護老人ホームに入所中。子どもは２人、長女は生後すぐ亡くなった。長男（61歳）は、嫁と区内のアパートに２人で暮らしている。息子夫婦に子どもはいない。長男は東京で就職したが、30年前に新潟に呼びよせたという。長男は英会話教室を経営し、嫁は音楽教室や高校でクラリネットを教えている。

４．日常生活のこまりごと

訪問販売（布団等）が多くてうるさい。そのため午前中は玄関を閉め切っている。大雪では別に困ったことはなかった。餅でも食べていれば平気。大変なのは高齢者よりも赤ん坊を抱えている人の方だと思うという。

５．近隣関係

顔は知っているが挨拶だけで付き合いはない。回覧板は内容がくだらないので、３年前から飛ばして

回してもらっている。葬式は知れば出る程度。自治会活動にほとんど参加したことはないが、３年前に集まりにでたことはある。それ以降はでていない。また、妻がいた頃、隣の若い人が金を借りに来ていた。妻は貸していたがおかしいと思っていたという。

６．健康状態・身体状況

「老人病だから全部悪い」という。10日前に病院で前立腺の手術をした。つかまらないと歩くのは難しい。

７．制度の利用状況

介護保険のサービスを利用している。本人は要支援２、妻は要介護２。ケアマネージャーが「危ないから」ということで、平成21年12月に、寝室を２階から１階に移し、物置として使っていた部屋に無理やりベッドを置かれて不満に感じている。民間の介護業者のヘルパーが週に３回、家事援助（買い物、食事）で入っているが、２ヶ月前から毎日16時に入るようになった。月１回、ケアマネージャーが訪問にくる。その際、ヘルパーがいるときに入浴するよう言われ、入浴介助はないが、週に２回はヘルパーがいる時間に入るようにしている。

８．経済状況

収入は厚生年金月14万円と生命保険会社の生涯年金が年100万円入る。年収は「400～699万円」、経済状況は「余裕はないが生活していくには困らない」。自宅の他に西区に120坪、東京に１軒屋（空家）がある。東京の家は５年に１回、修繕費で45万くらいかかっている。家賃が一番負担。夫婦２人であれば、25万円は最低でも必要。

９．１週間の生活

起床は７時半から８時、就寝は午後10時半くらい、睡眠剤を飲んで寝る。食事はヘルパーに頼んでいる。面倒くさいときは食べないこともある。入浴は週に２回、ヘルパーがいる間に１人で入る。洗濯は３日に１度、自分でする。乾燥機付き洗濯機を購入して、調子に乗って洗濯をしたら、電気代の請求が４万円もきて驚いたことがある。他は特に何もせず、本を読んだりしている。日蓮宗の信者で、毎日の祈りは欠かさない。ゴミ捨ては息子がしてくれる。

10．社会参加活動

退職後、高校の夜間部の講師を７年務めた。80歳で太極拳、84歳でゴルフをしていたが、87歳から体力が落ちた。町内会活動はしていない。趣味の読書をしている。

11．外出状況

買い物等で外出はしない。バス停が目の前にあるが、バスで転んで以来、月１回の通院はタクシー。妻への面会は、息子に車で連れて行ってもらう。ただ、10日前に手術をしてからは外出する気がなくなったという。

12．現在及び今後の生活

高田にお墓があり、管理費を払い、年に一度自分が行く。管理しているお寺とお経をあげるお寺が別々なので、お札が２つ要る。日蓮宗なので、死ぬときは苦しまずに死ぬだろうと考えている。

13．その他

子どもは近くにいないとあてにはできないが、同居はしたくない。職場で付き合いのあった医師には、今後何かあった時のために歳暮を欠かさない。

調査について、幸福な家庭の姿は似通っているが、不幸な家庭は個別。自分は“孤立”しているが“孤独”ではない。今話しているのはほんの表向きで、一般的な７割のことにすぎない。残りの３割は個人の個別の問題で、嫁の悪口や借金等、本当に話せるものではない。集めた７割の一般的な話で、“これが高齢者の共通論”とまとめてほしくはないという。

14．調査員の所見

職種、家系に対する本人の自負が強く感じられた。“自分に対しての要望”というより、社会（教育）で人を育てるというのはどういうことなのか考えるべきであると何度も話されていた。

類型４・女性・64歳・江東

１．住宅状況

古い住宅街、細い路地を入った所にある木造２階建ての住宅。１階は２部屋と台所、風呂、トイレ。２階は洋間12畳（使っていない）。築27年で、固定資産税は年５万４千円。普段は茶の間で過ごし、隣の部屋で寝ている。茶の間は来客に応じて少なくとも週１回、トイレは３日に１回は掃除する。ゴミ捨ては自分でできる。階段が急なので手すりが欲しいと思っている。

２．生活歴・職業歴

生まれた時からこの土地に住んでいる。飲食店で２年働き、その後40年間、駅前と万代でお店を経営。８年前に辞めた。それから清掃の仕事をし、70歳まで続けようと考えていたが病気のため辞めた。３年前、食道ガンになり、手術をし、現在も通院中。未婚。

３．家族・親族関係

昭和40年に父が、平成７年に母が亡くなりひとり暮らしに。５人きょうだいの末っ子で、兄が２人、姉２人。兄１人は生きているが、他のきょうだいはみんな亡くなった。生きている兄もガンで弱っている。姪っ子とは仲が良く、旅行に行ったり、家に来たりする。甥っ子はあまり交流がない。兄とは連絡を取り合っていて、緊急時の支援者として考えているが、ふだんの行き来はない。

４．日常生活の困りごと

ガンの再発が心配。収入がないので、将来の生活費も心配。昔、空き巣に入られ、セキュリティが不安。除雪は手術の傷が痛むので辛い。役所の職員の知識のなさに不満を感じている。

５．近隣関係

近所の人の状況をよく知っている。花が好きなので花について外で近所の人と話すが、家に入れたり深くは関わらない。家に入れるのは、２人の友だちのみ。葬祭には参加するようにしている。自治会もあり、回覧板も回ってくる。

６．健康状態・身体状況

３年前から食道ガンで、３ヶ月に２回通院。MRIは年２回検査。その時、不安と安心が半々。薬を飲んでいる。寒くなると手術の痕が痛くなる。食べ過ぎると苦しくなる。

７．制度の利用状況

若いため、使っていない。

８．経済状況

収入はない。年金はかけていなかった。しかし、飲食店を辞めた時貯金が4,000万円あり現在までに1,500万円使った。今は大丈夫だが、今後足りるのか不安。生活保護も考えている。医療費の出費が大きい。70歳まで働こうと思っていたが、病気で計画が崩れた。年収は「100～149万円」、経済状況は「かなり苦しい」。

９．１週間の生活

７時起床、21時就寝。３食食べている。洗濯は３日に１回ほど。１日１合のお米、朝はそうめん。この１週間で来客が５回、外出が４回。行き先は市場、薬局、図書館、歯医者。姪と日帰り旅行の予定もあったが雨で中止に。

10．社会参加活動

花が好きで、家の周りでたくさん花を育てている。読書が好きで図書館へよく行く（徒歩10分）。友人と市場へ行く（徒歩10分）。以前は散歩をしていたが、姉の死のショックから、行かなくなった。女性が集まると、人のうわさ話になるのが嫌なので集まりたくない。

11．外出状況

買い物は２～３日に１回、歩いて５～６分の所へ行く。最近、近くにできた市場へ行く（10分）。冬のために生活用品（ティッシュ、歯ブラシ、トイレットペーパーなど）を買い置きしている。近所に銀杏拾いに行く。

12．現在及び今後の生活

ひとりには慣れたが不安である。民生委員と仲が

良い。セキュリティや緊急時が不安なので、民間警備会社の警備システムの導入を行政に無料でしてほしい。家族が皆、ガンで亡くなっているので、自分のガンの再発が一番心配。また、お金のことも心配。

13. その他

テレビをあまり見ないが、ラジオが好きである。読書をしている。近所の高齢者のことをとても気にかけ、関わっている。家政婦はお金がかかるので頼めない。

14. 調査員の所見

ガンではあったが、本人はとても元気で、ちゃきちゃきしていて、声も大きく、お友達との交流もあり、楽しんでいる様子もあった。趣味も多く、よく笑うこともあり、とても明るい方だった。今は交流も多いのでいいが、お友達が高齢なので亡くなったり、交流がなくなった時が心配である。ガンの再発について繰り返し不安を言っており、その辛さがうかがえた。

類型４・男性・66歳・江東

１．住宅状況

住宅街にある２階建ての一軒家。築60年で土地は借りているが、建物は持ち家。４年前に事情があって新潟に戻ってくる。家は自分も継ぎたくないし、他に継ぐ人もいないため、仕方なく住んでいる。土地は年間５万円で借りている。来たばかりのときはボロボロで自分で壁紙、障子、ふすま、室内灯等を修繕した。亡くなった母の名義を変更しておらず、そのためなのか、固定資産税はどうなっているのか分からない。１階は居間が１部屋、台所、トイレ、お風呂がある。中２階に２部屋あり、１部屋が寝室、１部屋が物置となっている。

２．生活歴・職業歴

４人兄弟の末っ子で、父を幼い頃に戦争で亡くしている。母が子ども４人を育て、貧乏な生活を送っていた。中卒で鉄骨組みの仕事に就き、その後大手運送会社の荷物の仕分けをしていた時、左手人差し指を１関節なくし、危険を感じ転職。その後20から30社、新潟県内外で転職を繰り返す。一番長く勤めたのはタクシーの運転手。お金が良いのと楽しかったので、長く続けた。未婚でずっと１人暮らしをしていたが、結婚を考えた人はたくさんいた。女性が原因で転職したこともあった。

３．家族・親族関係

兄弟とは仲が良く、近くに住んでいる兄（徒歩で行ける距離に住んでいる）がよく家を訪ねる。連絡も取り合っている。自分の死後の希望を兄弟に伝えてある。お墓があっても１回くらいしか参りに来ないと思い込んでいる。迷惑はかけたくないと思っていて、自分からは助けを求めない。仲は良いが、何か複雑な事情があるため、家の継承問題が起きている。

４．日常生活の困りごと

心配事や不安はたくさんあるが、具体的に聞かれると、これと言ったものがない。自分の生活レベルに合わせた生活をすれば良いと思っているため、困ったことがあっても我慢すれば良いという考え方。自分で何でもできるため、日常生活（家事等）の支障はない。

５．近隣関係

幼馴染の民生委員が近くに住んでいる。たまに自宅で飲んだりすることもある。近所の人とは挨拶をする程度。近くに同級生がたくさんいるが、連絡は取り合っていない。葬祭は頼まれれば参列している。

６．健康状態・身体状況

十数年前から血圧が高く、服薬している。２ヶ月に１回受診。年とともに体調は悪化してきているが、年だからしょうがないと考えている。大きな病気はしていないが、風邪などで寝込んだ際は、治るまでじっと動かず、自宅療養をしている。健康維持のため（人の世話になりたくないという考えから）毎日２時間歩いている。

７．制度の利用状況

現在は利用していないが、利用しなければならなくなったら利用したい。利用することが権利である

と考えている。

8．経済状況

厚生年金と年金基金で月に14万程度の収入。年収は「150～199万円」、経済状況は「余裕はないが生活していくことには困らない」。収入に合わせた生活をすれば良いと考えて生活している。負担に思う費目も特にない。

9．１週間の生活

朝６時起床。朝食はバナナ、さつまいも等ですませる。昼・夕はしっかりと食べている。調理師の免許を持っていることもあり、調理は自分で行う。午前中、ワイドショーを見て情報を得る。クラシックを聞いたり、映画を見ることもある。昼食をとり、15時くらいから晴れていれば毎日、２時間くらい歩く。柳都大橋を渡り、土手を通って、白山公園に行き、白山公園を一周した後、昭和大橋を渡って、土手に出て、帰りに買い物をして帰宅する。洗濯は天気の状況を見て行う。

10. 社会参加活動

民生委員に頼まれ、地域の防災組合の防災組長をやっている。

11. 外出状況

山登りを年に３回くらいする。泊まりで県外に行くこともある。山登りは30歳くらいから始め、昔は仲間がいたが、現在は１人で行っている。「ほんぽーと」へ行き、DVDを借りてくる。買い物・散歩で晴れていれば毎日外出しているが、誰かと触れ合ったりすることはない。

12. 現在及び今後の生活

１人暮らしは孤独で寂しいと感じているが、１人でいる気楽さも感じている。自分は１人で生きていけるという強い気持ちがある。死後はお墓も位牌も戒名もいらないと考え、人間は死んだらごみだと思っている。死後は何もしなくて良い。

13. その他

自分から人に対して、助けない、頼らない、求めないというスタンスがあり、自分も誰かに頼られない限り助けたりしないという考え方を持っている。それはこれからも変わらず、割り切った人間関係をしていく。川崎・東京での暮らしを経験したため、田舎である新潟よりも川崎・東京の方が人情があると感じている。新潟はよそよそしいと感じている。都会の人の方が痛みを分かっている人が多いと感じ、チャンスがあれば川崎に戻りたいと思うが、戻れないと自分に言い聞かせている。

14. 調査員の所見

こだわりを持って生活していて、他人に対してもう少し頼っても良いのではないかと感じる。地域で孤立しているわけではないが、１人で抱え込むため、孤立しかねない状況であるかもしれない。今までの職場関係・友人関係・女性関係等、様々なトラブルが多かったようで、それが原因となり、人を信頼できなくなっているのかもしれない。居室内はきちんと片付けられており、調査のために片付けたような感じはなかった。世の中のことを気にしていて、ワイドショーを見ているし、子ども手当や高校の無償化等、行政、政治に対しての考え・意見がたくさんあった。

資料３　１次調査調査票

平成22年６月１日現在

地域No.＿＿＿＿＿＿

新潟市中央区社会福祉協議会

中央区ひとり暮らし高齢者の生活と意識に関する調査
調査票

［平成22（2010）年６月１日現在でお答え下さい。］

問１　性別のあてはまる番号に○をし、年齢をご記入ください。

１　男性　　２　女性	満＿＿＿歳（平成22年６月１日現在でお答え下さい）

問２　現住所を町名までご記入下さい。（例：中央区八千代）

（町　　名）

新潟市中央区＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（「丁目」「番地」等は記入不要です）

問３　現住所にはおよそ何年間お住まいですか。

＿＿＿＿＿年くらい

問４　旧新潟市（中央区、東区、西区）にはおよそ何年間お住まいですか。

＿＿＿＿＿年くらい

問５　あなたがお住まいの住宅について、あてはまる番号１つに○をつけてください。

１　持ち家（一戸建て）	２　持ち家（分譲マンション）
３　民間借家（一戸建て）	４　民間賃貸マンション
５　民間賃貸アパート	６　市営・県営住宅
７　高齢者専用マンション	８　間借り
９　社宅・管理人住宅	10　その他（　　）

問６　（１）今の住宅について困っていることはありますか。

１　ある　　２　ない　→ 問７へお進みください。

（２）それは何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

１　家が古くなっている（老朽化）	２　風通しや日当たりに問題がある
３　家が狭すぎる	４　家が広すぎる
５　段差があり生活しにくい	６　風呂がない
７　階段の昇り降りが大変	８　家賃が高い
９　固定資産税などの負担が大きい	
10　その他（具体的に　　）	

問７　ひとりでお住まいの期間はおよそ何年間ですか。

＿＿＿＿＿年くらい

問８　ひとりで暮らすようになったきっかけは何でしたか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

１　死別　　２　離婚　　３　子の独立　　４　未婚
５　その他（　　）

■健康状態について

問９　ご自身の健康状態についてどのようにお考えですか。

１　非常に健康である	２　まあまあ健康である
３　あまり健康ではない	４　健康ではない

問10（１）あなたは日常生活を送るのになんらかの介助が必要ですか。

１　ほとんど自分でできる	２　一部介助を必要とする
３　ほとんどすべてに介助を必要とする	

（２）あなたは現在、介護保険サービスを利用していますか。

１　利用している	２　利用していない

■お仕事について

問11（１）あなたが今までに一番長く従事されたお仕事は何ですか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

１　民間企業の正社員	２　公務員などの正職員
３　契約社員、派遣社員、パート・アルバイト、日雇い、非常勤職員	
４　自営業（家族従業員を含む）	５　その他（　　）
６　仕事をしていなかった（専業主婦・主夫を含む）	

（２）働いていた場合、その業種は次のどれですか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

１　農林漁業	２　建設業	３　製造業	４　電気・ガス・水道
５　卸売・小売・飲食店	６　金融保険・不動産業	７　交通・運輸・通信	
８　医療・福祉（学童・保育を含む）	９　教育	10　その他民間サービス	
11　その他公務	12　その他（　　）		

問12（１）配偶者についてお聞きします。今までに一番長く従事されていたお仕事は何ですか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

１　民間企業の正社員	２　公務員などの正職員
３　契約社員、派遣社員、パート・アルバイト、日雇い、非常勤職員	
４　自営業（家族従業員を含む）	５　その他（　　）
６　仕事をしていなかった	７　配偶者はいない

（２）配偶者が働いていた場合、その業種は次のどれですか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

１　農林漁業	２　建設業	３　製造業	４　電気・ガス・水道
５　卸売・小売・飲食店	６　金融保険・不動産業	７　交通・運輸・通信	
８　医療・福祉（学童・保育を含む）	９　教育	10　その他民間サービス	
11　その他公務	12　その他（　　）		

問13　あなたは現在、収入のあるお仕事（自家消費等の農林漁業は除く）に従事されていますか。

１　はい	２　いいえ

■生活習慣について

問14（１）あなたの食生活について、あてはまる番号１つに○をつけてください。

１　３食きちんと食べている	２　２食が習慣になっている
３　日によって回数が違う	４　食べない日もある

（２）あなたの歯磨きについて、あてはまる番号１つに○をつけてください。

１　毎食後磨く	２　朝晩磨く
３　１日１回磨く	４　磨かない日もある

（３）あなたの入浴について、あてはまる番号１つに○をつけてください。

１　毎日入る	２　１日おきに入る
３　週に２回程度入る	４　週に１回程度入る

（４）あなたの洗濯について、あてはまる番号１つに○をつけてください。

１　２日に１回以上洗濯する	２　週に１～２回くらい洗濯する
３　洗濯物がたまったら洗濯する	４　着る物がなくなったら洗濯する

■日頃の困りごとについて

問15　現在、お住まいの地域・環境について、お困りのことはありますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

１　近所に銭湯がない	２　近所に外食する店がない
３　そばや寿司など店屋物をとる店がない	４　近所に買い物する店がない
５　仲間・友人などと集まる場所がない	６　訪問販売員が多い
７　防犯上の不安がある	８　近隣との関係
９　地震などの防災対策	10　特に困っていることはない
11　その他（具体的に　　）	

問16　現在、日常生活のどんなことに困っていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　バスや電車、車を使って外出すること	2　買い物
3　掃除・洗濯	4　食事の準備
5　銀行預金などの出し入れ	6　入浴
7　区役所等での手続き	8　通院・薬とり
9　ゴミ出し	10　雪かき
11　特に困っていることはない	12　その他（　　）

問17　あなたが日常生活で困ったことがあったときには、誰に手伝ってもらっていますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1　子ども（その配偶者、孫など）	2　兄弟・姉妹	3　親戚
4　近所の人	5　友人・知人	6　民生委員
7　自治会長	8　ホームヘルパー	9　ボランティア
10　役所の人	11　病院の人	12　ケアマネージャー
13　まごころヘルプ	14　手伝ってもらう人がいない	15　その他（　　）

■外出・社会参加活動について

問18　普段外出する際の主な手段は何ですか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

1　徒歩	2　自転車	3　原付	4　自家用車
5　バス	6　タクシー	7　その他（　　）	

問19　あなたは車を持っていますか。

1　持っている	2　持っていない

問20　あなたは車を運転することができますか。

1　運転できる	2　運転できない

問21（１）ふだんの外出（買い物、散歩なども含む）の頻度は、平均でどの程度ですか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

１　毎日１回以上
２　２、３日に１回程度
３　１週間に１回以下

→ 問22へお進みください。

（２）外出の機会が少ないのはどのような理由からですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

１　出かけるのがおっくうだから	２　行く場所がないから
３　出かける用事がないから	４　坂や段差が多いから
５　交通が不便だから	６　健康上の心配が大きい
７　その他（　　）	

問22　外出先で会話をする機会はどの程度ありますか。

１　たいがい話をする　　２　時々話をする　　３　ほとんど話をしない

問23（１）あなたが現在参加されている団体や集まりは何ですか、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

１　趣味の会（囲碁・将棋・俳句・ｶﾗｵｹ・お花・盆栽・お茶など）
２　学習の会　　３　スポーツ　　４　老人会
５　社会活動（ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ・同窓会・P.T.A.などの子育ての頃の団体・生協活動など）
６　その他（具体的に　　）
７　参加していない

（２）参加していない理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

１　時間がない	２　自分の興味をひくものがない
３　体の調子が悪い	４　費用がかかる
５　近くに活動がない	６　それらの活動を知らない
７　ひとりでは参加しにくいから	８　参加したくないから
９　その他　（　　）	

問24（１）暮らしのなかで、楽しみにしていることはありますか。

１　ある　　２　ない　→ 問25へお進みください。

（２）その楽しみは何ですか。具体的にお書きください。

■親族・友人について

問25　（１）ご存命のお子さんはいらっしゃいますか。

１　いる　　２　いない　→ 問26へお進みください。

（２）そのお子さんは何人いらっしゃいますか。　　人

問26（１）あなたが日頃もっともよく行き来をしているご家族・ご親戚の方はどなたですか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

１　子ども（その配偶者、孫を含む）	２　親	３　兄弟・姉妹
４　親戚	５　その他（　　）	
６　誰ともほとんど行き来がない		

（２）（１）で選んだ方の家はどこにありますか。

１　徒歩で行ける範囲	２　中央区内	３　新潟市内
４　新潟県内	５　県外	

（３）（１）で選んだ方とは、どのくらいの頻度で連絡（電話やメールなど）を取り合いますか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

１　ほとんど毎日	２　週に数回	３　月に数回
４　年に数回	５　その他（　　）	

問27（１）あなたは日頃親しくしている友人・知人がいらっしゃいますか。

１　いる　　２　いない	→ 問28へお進みください。

（２）それはどなたですか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

１　近所の人	２　学生時代の友人	３　もとの（今の）職場の人
４　趣味の会の人	５　老人会の人	６　その他（　　）

問28　あなたはご近所づきあいをどの程度していますか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

１　お互いの家を訪ね合う関係	２　会ったときに立ち話をするくらい
３　あいさつをかわす程度	４　まったくない

問29（１）ご近所の人にゴミ出しや家事の手伝いなどを頼むことに抵抗を感じますか。あてはまる番号１つに○をつけてください。

１　まったく抵抗は感じない ２　あまり抵抗は感じない	→ 問30へお進みください。
３　やや抵抗を感じる ４　非常に抵抗を感じる	

（２）（１）で３、４と回答した方へお聞きします。その理由のうち最も大きいものを下記から１つ選んで○をつけてください。

１　人に迷惑をかけたくないから	２　わずらわしいから
３　プライバシー（私生活）を人に知られたくない	
４　近所との人間関係があまりよくないから	
５　嫌な思いをしたことがあるから	
６　その他（　　）	

◆問30へお進みください。

問30（１）病気や身体の不調などの困った時にすぐに来てくれる人がいますか。

１　いる　　２　いない	→ 問31へお進みください。

（２）主に来てくれる方はどなたですか。（○は一つ）

１　子ども（その配偶者、孫を含む）	２　兄弟・姉妹	３　親戚
４　近所の人	５　友人・知人	
６　その他（　　）		

◆問31へお進みください。

問31　今年のお正月（１日から３日まで）はどなたと過ごされましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

１　子ども（その配偶者、孫を含む）	２　兄弟・姉妹	３　親戚
４　近所の人	５　友人・知人	６　ひとりで過ごした
７　その他（　　）		

■経済状況について

つぎに、立ち入ったことをお聞きしますが、どうぞお答え下さいますようお願いいたします。結果は統計として処理され、個人のデータが漏れることは絶対にありません。

問32　１年間の世帯収入は、大体いくらぐらいですか。（○は一つ）

１　49万円以下	２　50～99万円	３　100～149万円	４　150～199万円
５　200～399万円	６　400～699万円	７　700～999万円	８　1000万円以上

問33（１）現在の収入すべてに○をつけてください。

１　年金（共済年金・厚生年金・国民年金・恩給）	２　遺族年金
３　利子、配当、家賃、地代	４　生活保護
５　子どもからの仕送り、援助	６　預金引き出し
７　その他（具体的に　　）	

↓

（２）そのうちの主なものを１つ選んで回答欄に番号を書いてください。

回答欄　　（　　）

問34　現在のご自身の経済状況についてどのように感じていらっしゃいますか、あてはまる番号１つに○をつけてください。

１　かなり余裕がある	２　やや余裕がある
３　余裕はないが生活していくには困らない	
４　やや苦しい	５　かなり苦しい

問35　区役所などの行政、社会福祉協議会等に対するご意見や、地域でお困りのことがあれば何でもご自由に記入して下さい。

面接調査ご協力のお願い

新潟市中央区社会福祉協議会では、今年１１月に二次調査として、ご家庭を訪問し、生活時間、生き甲斐やお困りごと等、地域生活のご様子についてお話をお聞かせ願えればと考えております。ご協力いただける方は、次の欄にお名前等をご記入いただければ幸いです。１０月中旬ころに、新潟市中央区社会福祉協議会よりご連絡申し上げます。個人の情報がほかに漏れることはございませんので、ぜひご協力ください。面接調査には、社会福祉協議会職員と新潟県立大学学生が伺わせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、二次調査の訪問を受けたくない方は、以下の欄には何も記入しないでください。

※二次調査（ご家庭への訪問）にご協力いただける方のみご記入ください

氏　　名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

住　　所：〒　　－　　新潟市中央区＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

アンケートは以上で終了です。

この調査票は７月１５日（木）までに、同封の回収用封筒に入れ、封をして投函してください。

ご協力ありがとうございました。

資料４　２次調査調査票

平成22年11月６日現在

新潟市中央区ひとり暮らし高齢者面接調査（二次調査）

調査時点：2010 年 11 月 6 日現在

調査担当者氏名		

一次調査 1D	
類型番号	
氏名	
年齢	歳
調査日	

■住宅状況

住居形態	持ち家一戸建て　　都営・公団　　民間賃貸アパート・マンション		
間取り （1DK, 2LDK など）		家賃（月） （ローン返済）	万　　千円
築年数	年	固定資産税（年）	万　　千円

☐ 1. 部屋の整理・ゴミの散らかり具合
☐ 2. 掃除について（頻度）
☐ 3. ゴミの管理について（ゴミ捨てなど）
☐ 4. 家の広さ（ふだん利用している部屋）：動線の確認・（風呂・トイレ・台所の確認）
☐ 5. 困りごと（改修点、固定資産税、転居…）

■生活歴・職業歴（勤め先、期間）・家族・親族関係の状況

◆ ひとり暮らしになったときを基点（基点から現在へ、それから過去へ）
☐ 1.ひとりで暮らす以前は、いつごろまで、どなたと暮らしていたか。
☐ 2.そのきっかけは。
☐ 3.ひとりになって変わったことはあるか。→困りごと、利用している制度
☐ 4.いま家族・親族との連絡をとっているか？（ex. 子ども、きょうだい…）
☐ 5.その連絡頻度・方法（定期的なやりとりの有無・最後に会った or 電話したのはいつか）
☐ 6.音信不通になっているとしたら、誰といつごろから？
☐ 7.（子どもの場合）結婚の時期、現役時代の仕事と当時の生活→本人の生誕へ
☐ 8.（きょうだいの場合）生誕地など生育家族の状況
☐ 9.仕事について（最長職…産業、企業名、期間など）、転職経験、配偶者の仕事

■日常生活のこまりごと・不安なこと

◆ 1次調査の結果（①大雪、②買い物・移動、③なし）を踏まえて
☐ 1.具体的にどのように困ったか。
☐ 2.どういうものがあればいいか（要望）。（経済・健康・環境を配慮）

■近隣関係の状況について（支援を含めて）

☐ 1.ふだんの近隣との交流について（ex. 醤油の貸し借り、お茶のみなど）
☐ 2.（ありの場合）その中身
☐ 3.（なしの場合）いつごろから、その契機は（ひとり暮らし？）
☐ 4.近隣清掃、集積場の当番、回覧板などはどうしているか。
☐ 5.近所の葬祭について（参加している、していない）→参加のつながり、していない理由など
☐ 6.近所の人に何かしてほしいことはありますか。（声かけ、話し相手、ゴミ捨て、家事援助等）
→「面倒をかけたくない」という場合はその理由

■健康状態・身体的状況　※確認程度

☐ 1. ＡＤＬの状況、持病、入院・通院の状況など　※薬の服用×
☐ 2. 通院は楽しみか？日課になっているか。

■制度の利用状況（介護保険、生活保護など）

☐ 1. 利用している制度について
☐ 2. （介護保険の場合）要介護度とサービスの利用状況
☐ 3. 利用していなければ、その理由

■経済状況

☐ 1. 今の収入状況はいつから続いているか（年金、生活保護、貯金の取り崩しなど）
☐ 2. 収入の構成（波がある、毎月決まっている）
☐ 3. いまの経済状況についてどのように感じているか
☐ 4. 負担に思う費目は何か（税金、医療費、食費、冠婚葬祭費…）

■基本的な一週間の生活

☐ 1. 起床・就寝時間
☐ 2. 食事の状況（時間、内容、準備の状況（自炊・ヘルパー・外食（出前）・配食等））
☐ 3. 洗濯について

☐ 4. この１週間の過ごし方（※自宅でしていたこと、外出先など		
	午前	午後
月		
火		
水		
木		
金		
土		
日		

■社会参加活動の状況

☐ 1.現在の社会参加活動の状況（町内会、趣味の集まり、ボランティア活動、宗教活動等）
→その役職、参加頻度を含めて（2.も同じ…参加していた当時）
☐ 2.（昔はしていたが、いまはしていない場合）その理由

■（定期的な）外出状況（※一時調査の結果を踏まえて）

☐ 1.目的があるかどうか（散歩、買い物など）、それとも外出自体が目的？
☐ 2.行動範囲としてどこからが遠いと考えるか。その際のその手段、距離感
☐ 3.自身の外出の頻度
☐ 4.誰かが家に来る頻度

■現在、及び今後の生活についての考え方

☐ 1.現在の生活について、考えることあるか。
☐ 2.今後の生活について、何か考えていることはあるか。
☐ 3.お墓は近くにあるか、お墓の世話はどうされているか。→家族関係につながる
☐ 4.この先、もしものときを考えることはありますか。

■調査員の所見

記入日		記入者名	
記入日		記入者名	

6

２次調査スタッフ一覧

伊藤　明美	新潟市中央区社会福祉協議会
今井由理子	新潟市中央区社会福祉協議会
荏原　宏美	新潟市中央区社会福祉協議会
桑野　恵美	新潟市中央区社会福祉協議会
小林　優子	新潟市中央区社会福祉協議会
佐藤　文代	新潟市中央区社会福祉協議会
白井　綾香	新潟市中央区社会福祉協議会
鍋谷　隆史	新潟市中央区社会福祉協議会
星野　和恵	新潟市中央区社会福祉協議会
水野　朝子	新潟市中央区社会福祉協議会
雪松　　迪	新潟市中央区社会福祉協議会
吉田　麻子	新潟市中央区社会福祉協議会
福本　圭介	新潟県立大学国際地域学科
伊藤可奈恵	新潟県立大学子ども学科
木村　美香	新潟県立大学子ども学科
新沢すみれ	新潟県立大学子ども学科
鈴木　慎哉	新潟県立大学子ども学科
永井　　緑	新潟県立大学子ども学科
中澤　真美	新潟県立大学子ども学科
中村のぞみ	新潟県立大学子ども学科
野瀬　恵実	新潟県立大学子ども学科
山本美沙希	新潟県立大学子ども学科
吉田　　瞳	新潟県立大学子ども学科
渡邉　樹里	新潟大学経済学部
渡邉　幸菜	新潟医療福祉大学社会福祉学科
馬場貴美子	新潟青陵大学福祉心理学科
松宮　　透	明治学院大学大学院
清水　志穂	明治学院大学社会学部
山中百合菜	明治学院大学社会学部
斉藤　浩明	新潟市社会福祉協議会
本間　　碧	新潟市社会福祉協議会
丸山　由紀	新潟市社会福祉協議会

（所属別、五十音順）

調査主体

小澤　　薫	新潟県立大学子ども学科
仲川　一也	新潟市中央区社会福祉協議会
大谷　寿也	新潟市中央区社会福祉協議会
渡邉　隆幸	新潟市中央区社会福祉協議会

調査協力

河合　克義	明治学院大学社会学部
板倉　香子	明治学院大学社会学部

新潟市中央区における
ひとり暮らし高齢者の生活と意識に関する調査報告書

発行日　2011年３月

発　行　新潟市中央区社会福祉協議会
　　新潟県立大学